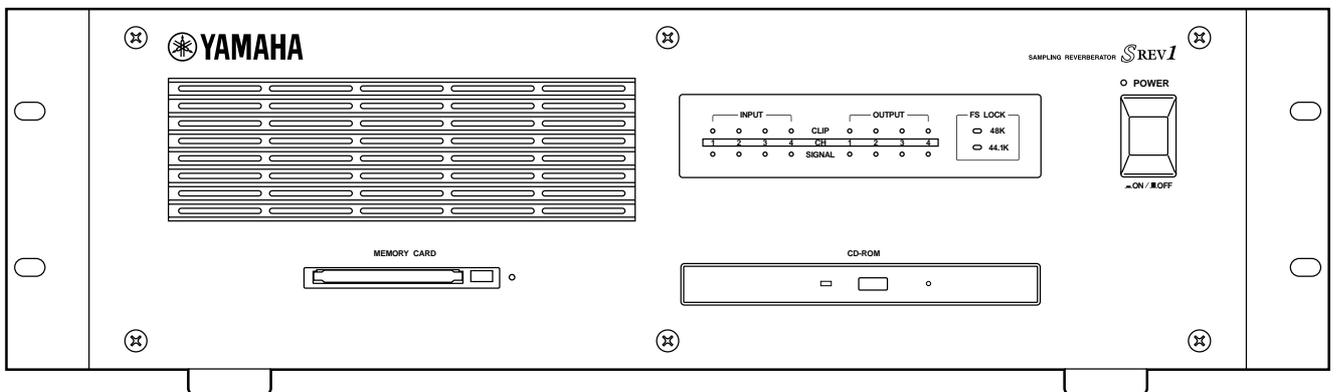




SAMPLING REVERBERATOR

SREV1

取扱説明書



この説明書をお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



！安全上のご注意 安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



：注意(危険・警告を含む)を促す事項



：決しておこなってはいけない禁止事項



：必ずおこなっていただく強制事項

プラグをコンセントから抜く



警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置されるとき	
	<p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用はとくにご注意ください。</p> <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かず重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご注意ください。</p> <p>この機器を直射日光の当たる場所や高温、多湿の場所、ごみ、ほこりの多い場所に設置しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>
使用中に異常が発生したとき	
	<p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>煙が出る、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときや、内部に水などの異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき	
	<p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器の裏ぶたやカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、販売店にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>

⚠️ 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置される時	
	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの前部には通風孔があげてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。とくに次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。 ・本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。 ・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。 <p>この機器をベンジン、シンナー、洗剤、ケミカル布巾で拭かないでください。</p>
	<p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>オーディオラックなどに入れるときは、放熱をよくするために、壁や他の機器との間に隙間をとってください。隙間の大きさは、側面では10cm、背面では20cm、天面では30cm以上必要です。さらにラックの背面を開放するか、もしくはラックの背面に相当の通風孔を開けてください。放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。この機器が結露した場合はしばらく放置して結露が消えてからご使用ください。</p>
	<p>本機には感電防止のため、専用のアース端子が設けられています。電源プラグをコンセントに挿入する前に確実に大地アースを施してください。3芯電源コードの場合にはコンセント側のアース端子が大地と接地されていれば上記と同じ効果があります。</p>
	<p>この機器を長い間お使いにならないときは電源コードあるいはACアダプターを抜いておいてください。</p>

！ 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

コネクタの極性について	電池交換
<p>XLRタイプコネクタのピン配列は次のとおりです。 1：シールド(GND)、2：ホット(+)、3：コールド(-) これは、IEC60268規格に基づいています。</p>	<p>この機器に電源を入れたとき、RC-SREV1のディスプレイに“LOW BATTERY”というメッセージが出たら、なるべく早く巻末に記載されているヤマハ電気音響製品サービス拠点へ電池の交換を依頼してください。電池が古くなっても機器は正常に動作しますが、やがてバックアップデータが消えてしまいます。電池交換の依頼のさいには、データをPCカードに保存してください。</p>
<p>他の電気機器への影響について</p> <p>この機器のデジタル回路から発生するわずかな雑音が、近くのラジオやテレビに入る可能性があります。そのようなときは、両者を少し離してください。</p>	

ワードロック切替時の注意

ワ - ドクロックマスター - になっている機器(例えば、本機SREV1、DME32、02Rなど)でシステムのワ - ドクロックを切り替えたとき、特に、SREV1のSLOT出力にデジタルI/OカードMY8-ATを装着しているときに、ワ - ドクロックスレーブになっている機器の出力端子からノイズが発生することがあります。ワードロックを切り替える場合は、接続されたスピーカーなどを破損するおそれがあるため、パワーアンプなどの電源を切ってから切り替えてください。

CD-ROMの取り扱いについて

本取扱説明書に記載されているタイプのディスクのみご使用ください。

この機器のCD-ROMドライブはデータディスクのみ、ご使用になれます。音楽CDは挿入しないでください。

ディスクを直射日光の当たる場所や高温、多湿の場所、ごみ、ほこりの多い場所に置かないでください。

ディスクケースに入れて保管してください。

ディスクの表面に触らないでください。ディスクを持つときはふちを持ってください。指紋、しみ、傷、汚れなど付けないようご注意ください。

ディスク面に水滴、傷など付けないようご注意ください。ラベル面でもディスクに問題が生じることがあります。

指紋やほこりを取り除く場合は乾いた布などでディスクの中心からふちに向けて拭いてください。ディスクを円を描くように拭いたり強くこするとディスクに傷がつきますのでおやめください。

しつこいシミや汚れはCD専用のクリーナーを使用してください。ベンジン、シンナー、洗剤、ケミカル布巾は使用しないでください。

ディスクに文字を書いたり、ラベルを貼ったりしないでください。

ディスクが結露した場合はしばらく放置して結露が消えてからご使用ください。

ディスクを曲げたり落としたりしないでください。

PCカードの取り扱いについて

本取扱説明書に記載されているタイプのPCカードのみご使用ください。

この機器ではご使用になれないPCカード、PCカードアダプターがありますのでご注意ください。

この機器のカード作動インジケータ点灯中はPCカードを取り出さないでください。データが損傷する場合があります。

PCカードを直射日光の当たる場所や高温、多湿の場所、ごみ、ほこりの多い場所に置かないでください。

カードケースに入れて保管してください。

同梱品について

SREV1(本機)

CD-ROM (リバーブプログラム)

電源コード

取扱説明書

別売品

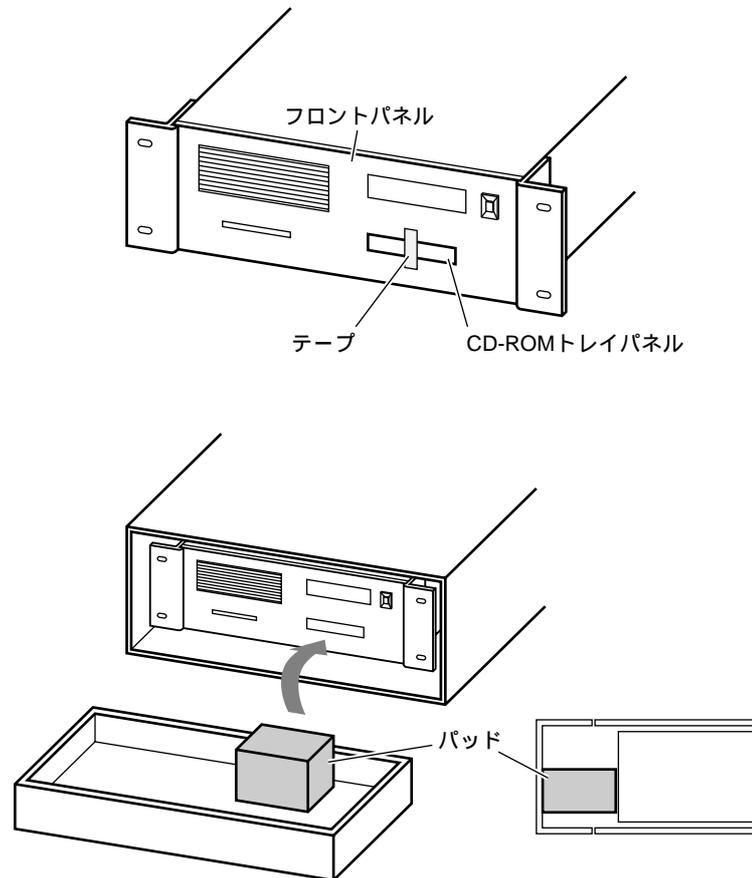
RC-SREV1 リモートコントローラー

DB-SREV1 DSPエクステンションボード

輸送時の注意

輸送時は、CD-ROMドライブのトレイの飛び出し防止の為、テープやパッド等で押さえてください。

- * テープの材料は、フロントパネルに対して、密着性の良い物を使用してください。
- * パッドの材料は、弾性がトレイの押さえになる程度の硬さの物を使用してください。



目次

第1章	はじめに	1
	まえがき	2
	SREV1とは?	2
	SREV1の特長	4
	基本概念	6
	ブロック図	10
第2章	SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能	11
	SREV1のフロントパネル	12
	SREV1のリアパネル	14
	RC-SREV1のコントロールパネル	16
	RC-SREV1のディスプレイ	18
	RC-SREV1のリアパネル	20
第3章	操作前の準備	21
	準備手順	22
	リモートコントローラーRC-SREV1の接続	22
	接続例	23
	電源コードの接続	26
	SREV1の電源オン/オフ	26
	RC-SREV1の電源オン/オフ	26
	別売RC-SREV1 ACアダプターの使用	27
	RC-SREV1の輝度・コントラストの調整	27
	CD-ROMの使い方	27
	PCカードの使用	28
第4章	基本操作	29
	SREV1の起動	30
	RC-SREV1の起動	30
	起動時の内部動作について	31
	リバースモードの選択	32
	入力の割り当て	33
	入出力レベルの設定	34
	メーター	35
	メーターモードの設定	37
	ピークホールド機能の使用	38
	SREV1のバイパス	38
	バイパスモードの設定	39

TITLE EDITダイアログボックスの使い方	40
クイックメモリーの使い方	41
ライブラリーの使い方	43
プロジェクトの使い方	47
第5章 プログラムのエディット	51
Main 1パラメーター	52
Main 2パラメーター	54
リバーブパラメーター	56
プリEQパラメーター	57
ポストEQパラメーター	59
インパルス応答データのロード	61
第6章 複数台のシステム	63
複数台のSREV1を使ったシステムについて	64
接続方法	64
複数台のSREV1とRC-SREV1の接続	64
RC-SREV1からのSREV1の選択	65
第7章 MIDI	67
MIDIとSREV1	68
MIDI端子	68
MIDI画面	69
MIDI受信チャンネルの設定	69
クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て	70
パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て	71
第8章 ワードクロック	73
ワードクロックとSREV1	74
ワードクロック接続	74
ワードクロックソースの選択	75
ワードクロック接続例	78
第9章 I/Oオプション	81
I/OオプションとSREV1	82
使用できるI/Oカード	82
I/Oカードの選択	83
I/Oカードの装着	84
故障かな?と思ったら	85
SREV1/RC-SREV1 エラー/ワーニングメッセージ	87

仕 様	90
一般仕様	90
デジタル入力仕様	91
デジタル出力仕様	91
コントロールI/O	91
リモートケーブル配線	91
寸法図	92
用語集	93
索引	96
MIDIインプリメンテーションチャート	99

著作権について

このソフトウェア(音場データ等を含む)あるいは本取扱説明書のどの部分のいかなる方法での複製・配布を禁じます。

音場データのSREV1以外での使用、および本機を測定等によるデータの採取を禁じます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

ADATおよびAlesisは、アレシス社の登録商標です。

ADAT Digital Interfaceはアレシス社の商標です。

ティアック、TASCAMは、ティアック株式会社の登録商標です。

その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

YAMAHAホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/proaudio/>

不適切な使用や改造が原因による怪我や故障の場合、保証はいたしかねますのでご了承ください。
--

はじめに



本章の目次

まえがき	2
SREV1とは?	2
SREV1の特長	4
基本概念	6
ブロック図	10

はじめに
SREV1、RC-SREV1 の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムの エディット
複数台の システム
MIDI
ワードロック
I/Oオプション
付録

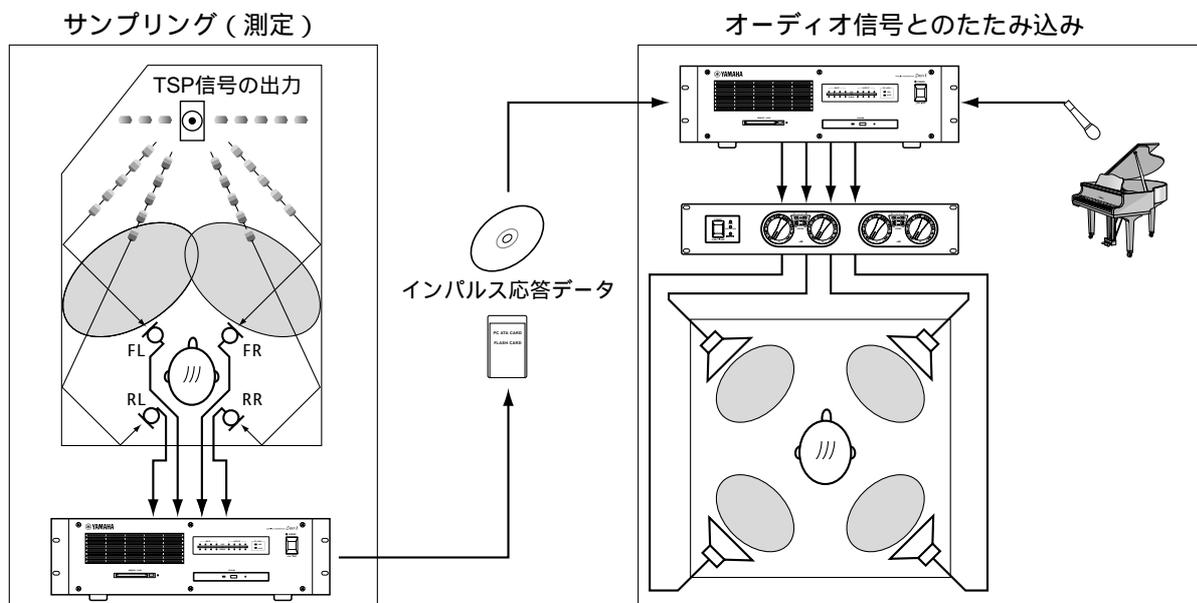
まえがき

このたびはヤマハサンプリングリバーブレーター-SREV1をお買い求めいただきましてありがとうございます。

従来のデジタルリバーブレーターでは、信号処理アルゴリズムを使って響きを人工的に合成していましたが、本機は「たたみ込み」と呼ばれるデジタル信号処理を採用して、あらかじめ測定した音場の残響特性をオーディオ信号にたたみ込むことで、細部まで正確な反射音を含む実在空間の自然な響きを忠実に再現します。SREV1は、レコーディングスタジオ、オーディオポストプロダクション、放送局、コンサートホール、劇場などに最適でリアルなサウンドを再現するための高品位な残響を提供します。

SREV1とは？

前述した「残響特性」とは音場のインパルス応答(つまり音場特性)と同じです。これにはTSP(Time Stretched Pulse)という信号をスピーカーから再生し、最適な位置に設置した複数のマイクで収録します。この結果得られるインパルス応答データを本機でオーディオ信号とたたみ込みます。



SREV1ではステレオリバーブ(2チャンネルモード)だけでなく、サラウンドリバーブ(4チャンネルモード)もあります。また本機1台で2つの独立したリバーブレーター(2チャンネル×2モード)として入出力、プログラムをそれぞれに設定することも可能です。

ヤマハの新開発「たたみ込み専用チップ」を32個搭載し、チャンネルごとに2チャンネルモードで5.46秒、4チャンネルまたは2チャンネル×2モードで2.73秒までのリアルタイムのたたみ込み時間を実現しています。

別売DB-SREV1 DSPエクステンションボードを搭載することで、32個のたたみ込み専用チップを追加すれば、それぞれのモードでたたみ込み時間を2倍にでき、10.92秒(2チャンネルモード)、5.46秒(4チャンネル、2チャンネル×2モード)となります。

測定したインパルス応答データとリバーブタイムや初期ディレイなどの変数パラメーターを組み合わせ、音場「プログラム」を作り、プログラム専用メモリーの「クイックメモリー」、または内蔵カード、PCカードにストアします。2チャンネル/4チャンネルモードでは最高6個までのプログラム、2チャンネル×2モードでは最高12個までのプログラムをクイックメモリーにストアできます。クイックメモリーのプログラムは、別売りリモートコントローラーRC-SREV1やMIDIプログラムチェンジですぐに呼び出せます。

“プロジェクト”はクイックメモリーにあるプログラムとカレントプログラムの設定情報をすべて含み、作業プロジェクトごとにプログラムや設定を管理するのに便利です。プロジェクトは内蔵カード、PCカードにストアできます。

PCカードスロットはPCカードATA仕様に準拠し、FAT16ファイルシステムをサポートしています。CD-ROMドライブはISO9660 Level 2をサポートし、PCカード、CD-ROM共にWindows互換です。

同梱のCD-ROMには世界各地の有名なコンサートホールなどの残響プリセットプログラムが入っています。

エディットには、[PARAMETER MAIN]キーと[PARAMETER FINE]キーに対応したメインとファインの2つの方法があります。パラメーターメインエディットでは、リバーブタイム、初期ディレイ、リバーブバランス、EQなどのチャンネルパラメーターがグループ化されており、例えば全チャンネルのリバーブタイムを同時に設定することができます。パラメーターファインエディットでは基本パラメーターに加えてたたみ込み処理前の4バンドPEQ、たたみ込み処理後の4バンドPEQ、インパルス応答データ読み込みなどによって、さらに音作りができます。リバーブパラメーターは個別にエディットすることもグループでまとめてエディットすることもできます。各チャンネルのリバーブバランスとリバーブレベルパラメーターはMIDIコントロールチェンジで個々にコントロールできます。

2系統(計4チャンネル)のAES/EBU入出力と、mini YGDAK (Yamaha General Digital Audio Interface)カードスロットを2つ備え、各種アナログ/デジタル入出力(AES/EBU, ADAT, Tascam)に対応します。入力を各チャンネルに個々割り当て可能で、様々なアプリケーションに対応する入出力設定が作れます。2チャンネルモードでは、例えば1つの入力をL、R 2つのチャンネルに割り当てたモノ入力ステレオ出力の設定や、各入力を別々のチャンネルに割り当てたステレオ入出力設定が可能です。

新開発「たたみ込み専用チップ」により24ビット入出力、32ビットの内部処理、48kHzの内部ワードクロックという高レベルの音質を実現しています。外部ワードクロックは44.1kHzと48kHzに対応、専用のBNCワードクロック入力、内蔵AES/EBU入力、カードスロット入力の各端子から取り込みます。

別売のリモートコントローラーRC-SREV1を使って最大4台までのSREV1をコントロールできます。RC-SREV1は、輝度・コントラスト調整付き大型320×240ドットの液晶ディスプレイ、パラメーターエディット用のモータードライブ付きフェーダー4本、入出力クリップインジケーターを備えています。電源はSREV1から供給されます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

SREV1の特長

サウンドパフォーマンス

- ・ 新開発のヤマハ® たたみ込み専用チップ™を32個搭載
- ・ 24ビット入出力 / 32ビット内部処理
- ・ 内部ワードクロック48kHz
- ・ 外部ワードクロックは44.1 kHz/48 kHzに対応

リバーブモード、たたみ込み時間

- ・ 3つのリバーブモード:
2チャンネル(ステレオ) \ 4チャンネル(サラウンド) \ 2チャンネル×2(A、B)
- ・ チャンネルあたりの最長たたみ込み時間は5.46秒(2チャンネルモード時) \ 2.73秒(4チャンネルまたは2チャンネル×2モード時)
- ・ 別売のDSPエクспанションボードDB-SREV1で更に32個のたたみ込み専用チップを追加し、各チャンネルのたたみ込み時間を最大10.92秒(2チャンネルモード時) \ 5.46秒(4チャンネルまたは2チャンネル×2モード時)まで延長可能

プログラム、プロジェクト

- ・ プログラムはインパルス応答データと、リバーブタイム、初期ディレイ、EQなどの変数パラメーターを組み合わせで作成
- ・ クイックメモリーにすぐに呼び出せるプログラムを6個(2チャンネル、4チャンネルモード) \ 12個(2チャンネル×2モード)ストア可能
- ・ MIDIでクイックメモリー内のプログラムをリコール可能
- ・ 作業ごとにプログラムを管理できる便利なプロジェクト
- ・ プログラム、プロジェクトは内蔵カード、PCカードにセーブ可能

ストレージ

- ・ PCカードスロットは、PCカードATA仕様準拠、FAT16ファイルシステムをサポート
- ・ CD-ROMドライブはISO9660 Level 2フォーマットをサポート
- ・ PCカード、CD-ROMフォーマットはWindows互換

エディット

- ・ リバーブタイム、初期ディレイ、リバーブバランスなどの基本エディット機能
- ・ 基本パラメーターをはじめ、たたみ込み処理前4バンドPEQ、たたみ込み処理後4バンドPEQ、チャンネルごとのインパルス応答データ読み込みなどのエディット機能
- ・ リバーブバランス、レベルパラメーターはMIDIでコントロール可能

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

幅広いI/Oオプション

- ・ 2系統(計4チャンネル)のAES/EBUフォーマットのデジタル入出力
- ・ mini YGDAI(Yamaha General Digital Audio Interface)入出力カードスロットが2つ
- ・ 別売のmini YGDAIカードにより各種アナログ/デジタル入出力が可能、AES/EBU、ADAT、Tascamなど一般的なデジタルオーディオ接続フォーマットに対応

別売のリモートコントローラーRC-SREV1

- ・ 4台までのSREV1をコントロール
- ・ 輝度・コントラスト調整付き大型320×240ドットの液晶ディスプレイ
- ・ パラメーターエディット用のモータードライブ付きフェーダー4本
- ・ 入出力クリップインジケーター
- ・ 電源はSREV1から供給(カスタムメイドのリモートケーブルを使用する場合は、ACアダプターが必要になる場合があります)

その他

- ・ 世界の有名なコンサートホールのサンプリングデータを収録したヤマハCD-ROMライブラリー
- ・ SERIAL端子を使用した複数台のSREV1のコントロール
- ・ MIDI IN/OUT端子
- ・ BNCワードクロック入力
- ・ 3Uラックサイズ

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

基本概念

リバーブモード

SREV1には3種類のリバーブモード(2チャンネル用、4チャンネル用、2チャンネル×2用)があります。

2チャンネルモードではステレオリバーブレーターとして機能します。ステレオ出力だけが必要な場合、このモードを選択すれば最長のたたみ込み時間が使えます。

4チャンネルモードではサラウンドリバーブの4チャンネル処理をします。

2チャンネル×2モードでは、本機1台で2台の独立したステレオリバーブレーター(A、B)として機能します。

リバーブモードの選択は32ページを参照ください。

2系統(計4チャンネル)の内蔵AES/EBUと2つのmini YGDAI SLOT(最大16チャンネル)の各入力端子に入力された信号は各チャンネルに自由に割り当てて様々な入力設定が可能です。

チャンネルへの入力割り当ては33ページを参照ください。

たたみ込み時間

次の表は各モードで別売のDB-SREV1 DSPエクспанションボードを搭載した場合と搭載しない場合の、チャンネルごとの最長たたみ込み時間です。

モード	チャンネルごとの最長たたみ込み時間(Fs = 48kHz)	
	基本システムのみ	DSPエクспанションボード(DB-SREV1)搭載
2チャンネル	5.46秒	10.92秒
4チャンネル	2.73秒	5.46秒
2チャンネル×2	2.73秒	5.46秒

たたみ込み時間とリバーブタイムは同じではありません。リバーブタイムは残響音が60dB減衰する時間です。残響音が-90dBあるいは-120dBに達するには多くの時間が必要です。通常たたみ込み時間は、リバーブタイムより1.5~2倍必要となります。

インパルス応答データ

このデータには、測定した空間のインパルス応答情報(音場特性)が入っています。プリセットのプログラムにはすでにインパルス応答データが含まれています。

通常はプログラムの各チャンネルに下図のように、Data Load画面でインパルス応答データを割り当てます。詳細は61ページの「インパルス応答データのロード」を参照ください。内蔵カードにはプリセットのインパルス応答データが入っており、使用可能状態です。また同じデータが同梱のCD-ROMにも入っています。



プログラム

リバーブプログラムには2種類のタイプ(2チャンネル用、4チャンネル用)があります。2チャンネル用のリバーブプログラムは2チャンネルモードと2チャンネル×2モードで使用し、4チャンネル用のリバーブプログラムは4チャンネルモードでのみ使用します。2チャンネルモードでは4チャンネル用のリバーブプログラムはリスト表示されません。逆に4チャンネルモードでは2チャンネル用のリバーブプログラムはリスト表示されません。プリセットプログラムは、内蔵カードおよびCD-ROMに入っています。ユーザーがエディットしたプログラムはクイックメモリー、内蔵カード、PCカードに保存でき、ライトプロテクトをかけることができます。

プロジェクト

プロジェクトとは、クイックメモリーとカレントプログラムの設定情報です。保存しておけば、例えば作業を中断してもすぐに再開することができます。プロジェクトは内蔵カード、PCカードに保存でき、ライトプロテクトをかけることができます。

プロジェクトには3種類あります(2チャンネル用、4チャンネル用、2チャンネル×2用)。どのプロジェクトもそのモードを選択したときにのみ使用できます。例えば4チャンネルモードで2チャンネル用のプロジェクトは選択できません。プロジェクトはProject画面で管理します。詳細は47ページの「プロジェクトの使い方」を参照ください。

クイックメモリー

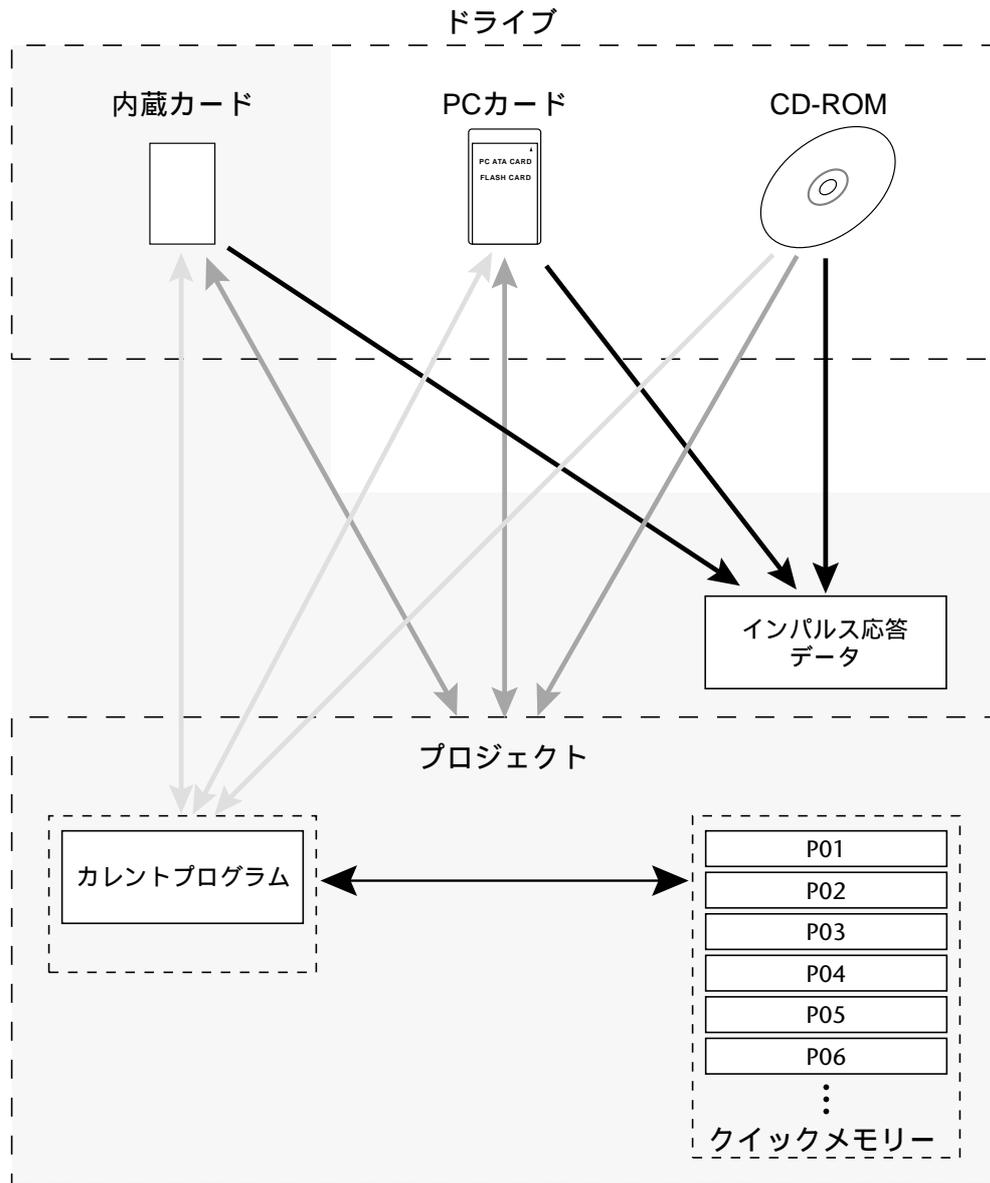
クイックメモリーはプログラムをストアする専用メモリーです。内蔵カード、CD-ROM、PCカードに入っているプログラムをロードするときは時間がかかりますが、クイックメモリー内のプログラムは即座に呼び出しができます。2チャンネルモード、4チャンネルモードでは6個のクイックメモリーが、2チャンネル×2モードでは12個のクイックメモリーが使用できます。クイックメモリーはProgram画面で管理します。詳細は41ページの「クイックメモリーの使い方」を参照ください。

はじめに
SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムのエディット
複数台のシステム
MIDI
ワードクロック
I/Oオプション
付録

ドライブ

プログラム、プロジェクト、インパルス応答データは内蔵カード、PCカード、またはCD-ROMからロードできます。ドライブにセーブできるプログラムの数はその容量とインパルス応答データのサイズによって異なります。プログラムとドライブはLibrary画面で管理します。詳細は43ページの「ライブラリーの使い方」を参照ください。

次の図はプログラムとプロジェクトのドライブ、クイックメモリーとのやりとりとインパルス応答データのドライブからの転送の仕組みを示したものです。



- プログラムのクイックメモリーへのストア/リコール操作についてはProgram画面を参照
- プログラムのドライブへのセーブ/ロード操作についてはLibrary画面を参照
- プロジェクトのドライブへのセーブ/ロード操作についてはProject画面を参照
- インパルス応答データロードについてはData Load画面を参照

ファイルの種類

SREV1はファイル拡張子でファイルの種類を識別します。このような拡張子は、普通はRC-SREV1のディスプレイに表示されませんが、パソコンを使ってPCカード、CD-ROMの内容をご覧になるときの参考にしてください。

ファイルの拡張子	ファイルの種類
TM4	インパルス応答データ(ヤマハのオリジナルフォーマット)
TMC	圧縮/暗号化されたインパルス応答データ(ヤマハのオリジナルフォーマット)
SP2	2チャンネルプログラム
SP4	4チャンネルプログラム
2CH	2チャンネルモードのプロジェクト
4CH	4チャンネルモードのプロジェクト
2×2	2チャンネル×2モードのプロジェクト

パラメーター

SREV1のプログラムパラメーターにはリバーブタイム、初期ディレイ、EQなどがあり、各プログラムと一緒にストアされます。

ストアするプログラムのパラメーターとしては、リバーブタイム、初期ディレイ、リバーブバランス、リバーブレベル、プリEQ、ポストEQ、インパルス応答データ名です。

それ以外のリバーブモード、ワードクロックソース、I/O選択、I/Oレベル、MIDIの設定は、各プログラムの中には入りませんが、その設定は本体でバックアップされています。

出力割り当て

次の表は各モードで決められている出力割り当てを示します。

モード	チャンネル	出力端子																								
		AES1		AES2		SLOT1								SLOT2												
		1	2	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8					
2チャンネル	L	•				•										•										
	R		•					•									•									
4チャンネル	フロント-L	•				•										•										
	フロント-R		•					•									•									
	リア-L			•						•								•								
	リア-R				•						•								•							
2チャンネル×2	A-L	•				•										•										
	A-R		•					•									•									
	B-L			•						•								•								
	B-R				•						•								•							

はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

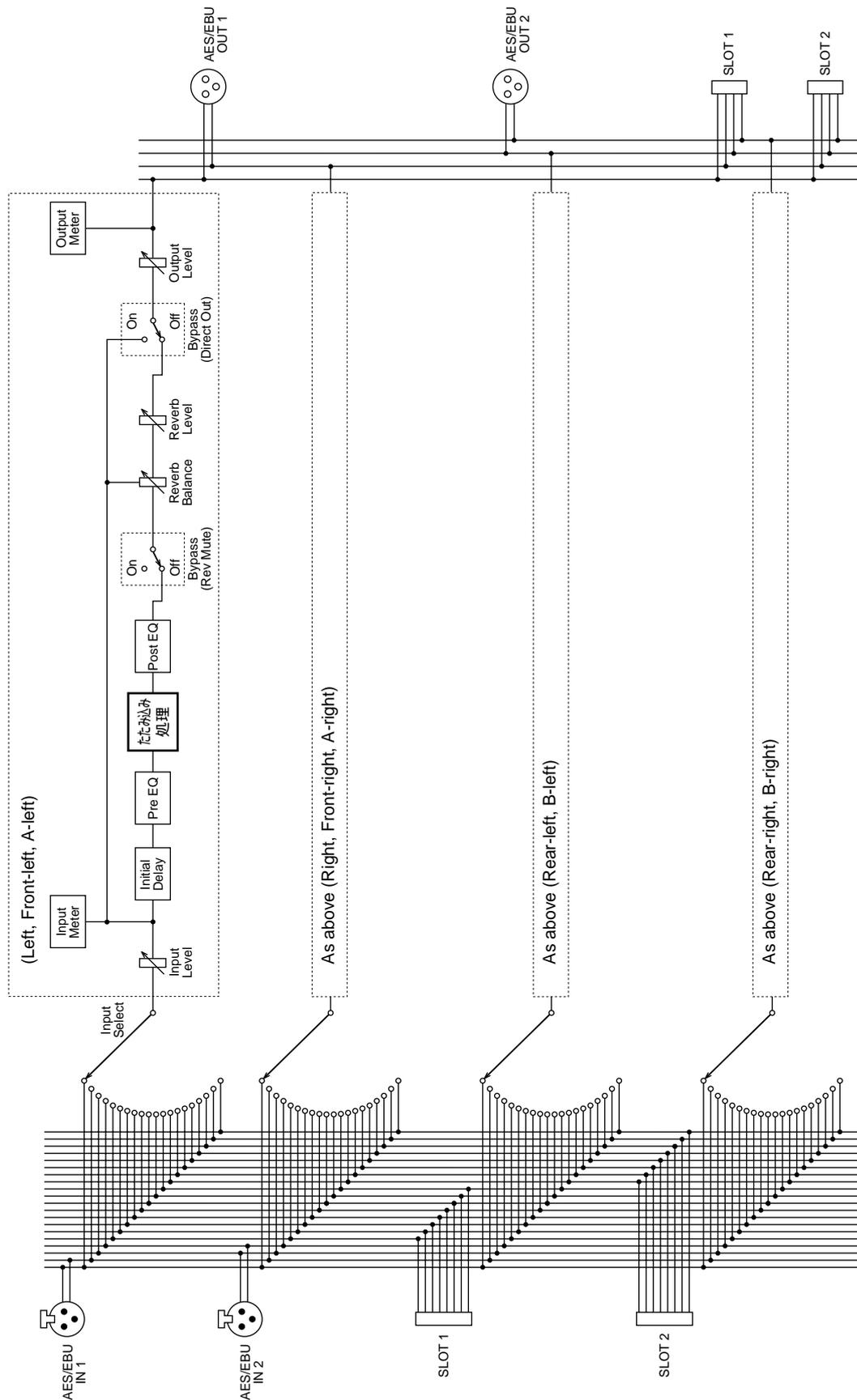
MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

ブロック図



はじめに

SRE V1、RC-SRE V1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

2

本章の目次

SREV1のフロントパネル	12
SREV1のリアパネル	14
RC-SREV1のコントロールパネル	16
RC-SREV1のディスプレイ	18
RC-SREV1のリアパネル	20

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

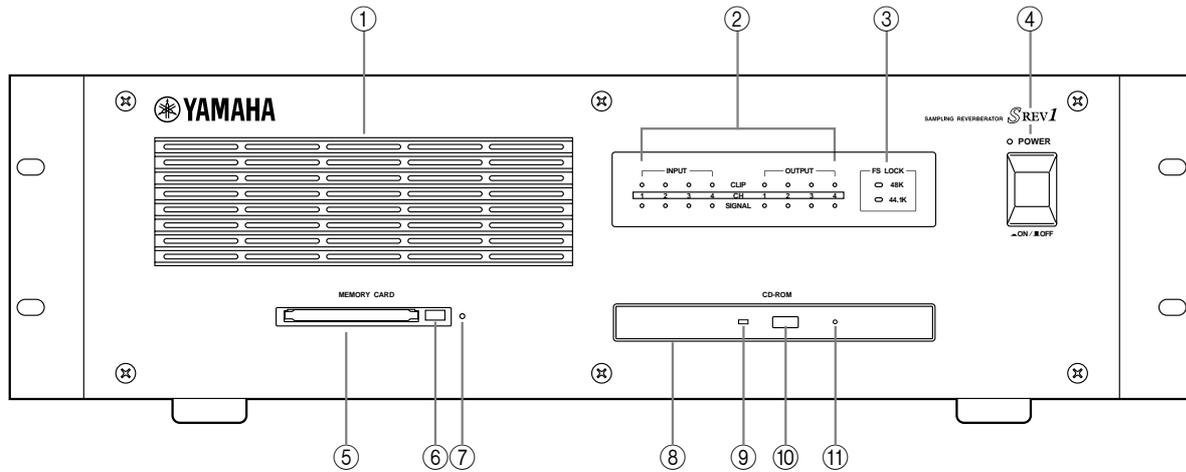
MIDI

ワードロック

IOオプション

付録

SREV1のフロントパネル



① 通風吸気口

SREV1内部の2つの冷却ファンがこの通風口から空気を取り込みます。通風が妨げられると本機が加熱しますので、この通風口をふさがないようにしてください。

② INPUT/OUTPUT信号インジケータ

チャンネルごとの入出力信号レベルを表示します。SIGNALインジケータは - 34dB以上の信号が入ると点灯し現在信号があることを示します。CLIPインジケータは実際に信号がクリップすると点灯します。詳細は35ページの「メーター」を参照ください。

③ FS LOCKインジケータ

サンプリング周波数 (48kHzまたは44.1kHz) の表示、および本機がワードクロックソースにロックしているかどうかを表示します。詳細は75ページの「ワードクロックソースの選択」を参照ください。

④ POWERスイッチ / インジケータ

SREV1の電源をオン / オフします。電源が入るとPOWERインジケータが点灯します。詳細は26ページの「SREV1の電源オン / オフ」を参照ください。

⑤ MEMORY CARDスロット

PCカードを挿入してプログラム、プロジェクト、インパルス応答データなどを読み込み / 保存します。詳細は28ページの「PCカードの使用」を参照ください。

⑥ カードイジェクトボタン

PCカードを取り出すボタンです。詳細は28ページの「PCカードの使用」を参照ください。

⑦ カード作動インジケータ

挿入されているPCカードで書き込みや読み込みを行っているときに点灯します。詳細は28ページの「PCカードの使用」を参照ください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

- ⑧ CD-ROMドライブ
同梱のCD-ROMを挿入し、プログラム、プロジェクト、インパルス応答データなどを読み込みます。詳細は27ページの「CD-ROMの使い方」を参照ください。
- ⑨ ディスク作動インジケータ
挿入したCD-ROMの読み込み中はこのインジケータが点灯します。詳細は27ページの「CD-ROMの使い方」を参照ください。
- ⑩ CD-ROMイジェクトボタン
CD-ROMを取り出すボタンです。詳細は27ページの「CD-ROMの使い方」を参照ください。
- ⑪ ディスク緊急イジェクトホール
通常の方法でCD-ROMを取り出せないときに、手動で取り出すためのホールです。2ミリ以下の細いピン(まっすぐに伸ばしたペーパークリップなど)を挿入しゆっくりと押し込んでください。この方法はどうしても必要なときだけに用いてください。頻繁に行うと故障の原因となる場合があります。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

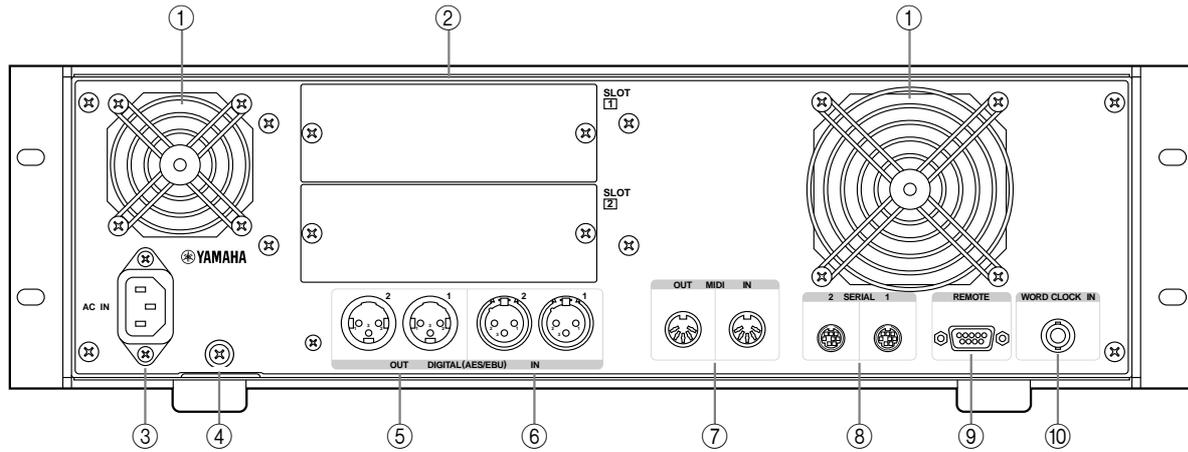
MIDI

ワードロック

IOオプション

付録

SREV1のリアパネル



① 冷却ファン排気口

2つの冷却ファンから排気します。通風が妨げられると加熱しますので、この排気口をふさがないようにしてください。

② SLOT 1 & 2

各種アナログ / デジタル入出力に対応する別売のmini YGDAI I/Oカード用スロットです。詳細は81ページの「I/Oオプション」を参照ください。スロットの入力はチャンネルに自由に割り当てられます。詳細は33ページの「入力割り当て」を参照ください。

③ AC INソケット

付属の電源コードでSREV1をACコンセントに接続します。詳細は26ページの「電源コードの接続」を参照ください。

④ アース端子

感電防止のため、電源プラグをコンセントに挿入する前に確実に大地アースを施してください。

本機には3芯電源コードを付属しています。この場合にはコンセント側のアース端子が大地と接地されていれば上記と同じ効果があります。ハムや雑音防止のためにも有効です。

⑤ DIGITAL OUT(AES/EBU)端子

XLR-3-32タイプの出力端子です。端子ごとに2系統のデジタルオーディオ信号を2つの端子で合計4系統をAES/EBUフォーマットで出力します。チャンネル割り当ては固定です。詳細は9ページの「出力割り当て」を参照ください。接続には専用のAES/EBUケーブル(110)を使用してください。

はじめに

SREV1, RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

- ⑥ DIGITAL IN(AES/EBU)端子
XLR-3-31タイプの入力端子です。端子ごとに2系統のデジタルオーディオ信号を2つの端子で合計4系統をAES/EBUフォーマットで入力します。AES/EBU入力は任意のチャンネルに割り当てできます。詳細は33ページの「入力の割り当て」を参照ください。接続には専用のAES/EBUケーブル(110)を使用してください。
- ⑦ MIDI IN / OUT端子
MIDI IN/MIDI OUT端子です。SREV1を他のMIDI機器に接続しMIDIプログラムチェンジ / コントロールチェンジメッセージでコントロールします。詳細は68ページの「MIDIとSREV1」を参照ください。
- ⑧ SERIAL 1 / 2端子
8ピン、ミニDIN端子で、最大4台までのSREV1を接続して複数台のシステムを構築するときに使用します。63ページの「複数台のシステム」を参照ください。
- ⑨ REMOTE端子
9ピン、D-sub端子でSREV1とRC-SREV1を接続します。詳細は22ページの「リモートコントローラーRC-SREV1の接続」を参照ください。
- ⑩ WORD CLOCK IN端子
外部ワードクロック信号を受信するBNC端子です。詳細は74ページの「ワードクロック接続」を参照ください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

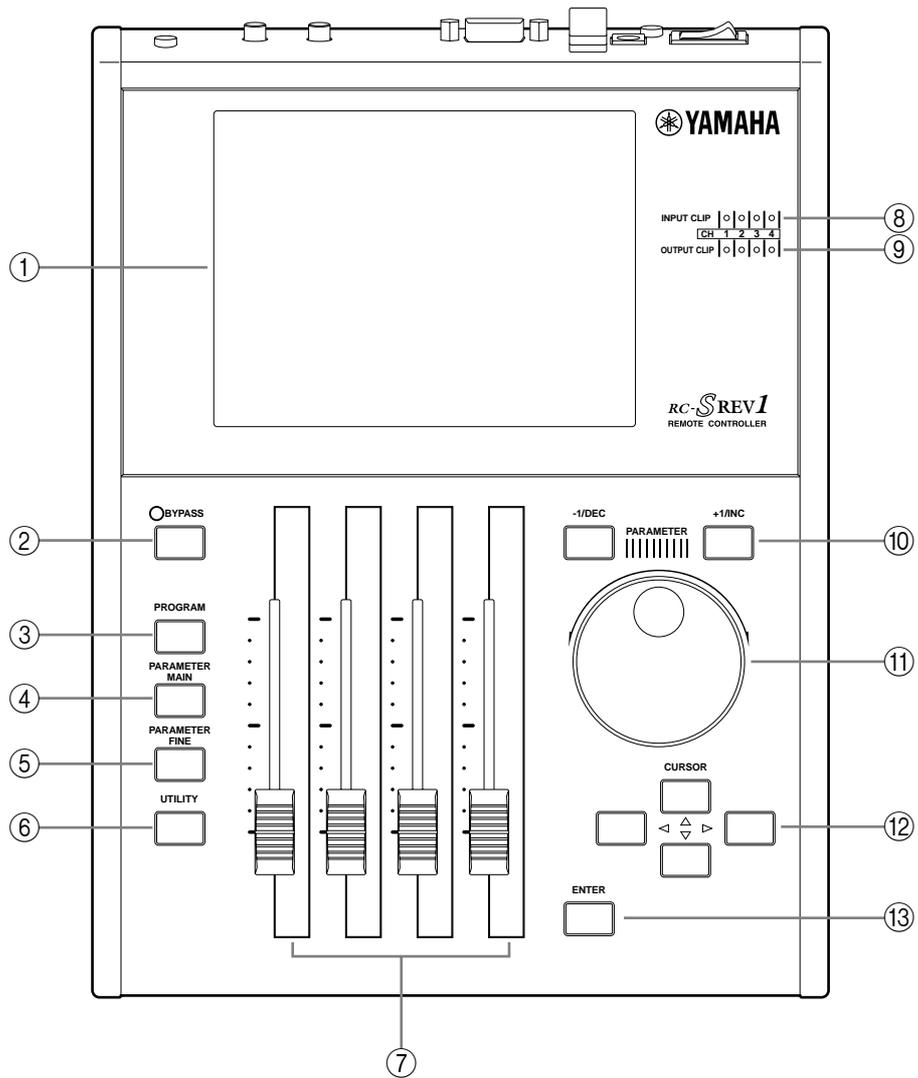
MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

RC-SREV1のコントロールパネル



- ① ディスプレイ
詳細は18ページの「RC-SREV1のディスプレイ」を参照ください。
- ② BYPASSキー / インジケータ
このキーを押すとSREV1がバイパスされ、BYPASSインジケータが点灯します。詳細は38ページの「SREV1のバイパス」を参照ください。
- ③ PROGRAMキー
Program、Library、Projectの各画面をディスプレイに表示します。
- ④ PARAMETER MAINキー
Main 1、Main 2の各画面をディスプレイに表示します。

- ⑤ PARAMETER FINEキー
Rev、Pre EQ、Post EQの各画面をディスプレイに表示します。
- ⑥ UTILITYキー
Setup、DIO、Meter I/O、MIDIの各画面をディスプレイに表示します。
- ⑦ フェーダー
4本の60ミリ、モータードライブ付きフェーダーで、パラメーター値や入出力レベル調整に使用します。
- ⑧ INPUT CLIPインジケータ
チャンネル1~4それぞれのINPUT CLIPインジケータです。入力信号がクリップするとそのチャンネルのインジケータが点灯します。
- ⑨ OUTPUT CLIPインジケータ
チャンネル1~4それぞれのOUTPUT CLIPインジケータです。出力信号がクリップするとそのチャンネルのインジケータが点灯します。
- ⑩ - 1/DEC、+ 1/INCキー
DATAホイールと同じ機能で、プログラムやプロジェクトの選択、パラメーター値の設定に使用します。[- 1/DEC]キーを押すと値が減少し、[+ 1/INC]キーを押すと値が増加します。
- ⑪ DATAホイール
プログラムやプロジェクトの選択、パラメーター値の設定に使用します。右に回すと値が増加し、左に回すと値が減少します。
- ⑫ カーソルキー(◀ / ▶ / ▲ / ▼)
画面上のボタンやパラメーターを選択するためにカーソルを移動します。左カーソルキー(◀)はカーソルを左に移動、右カーソルキー(▶)は右に移動、上カーソルキー(▲)は上に移動、下カーソルキー(▼)は下に移動します。
- ⑬ ENTERキー
機能を実行したり、選択肢やパラメーターを設定するときに使います。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

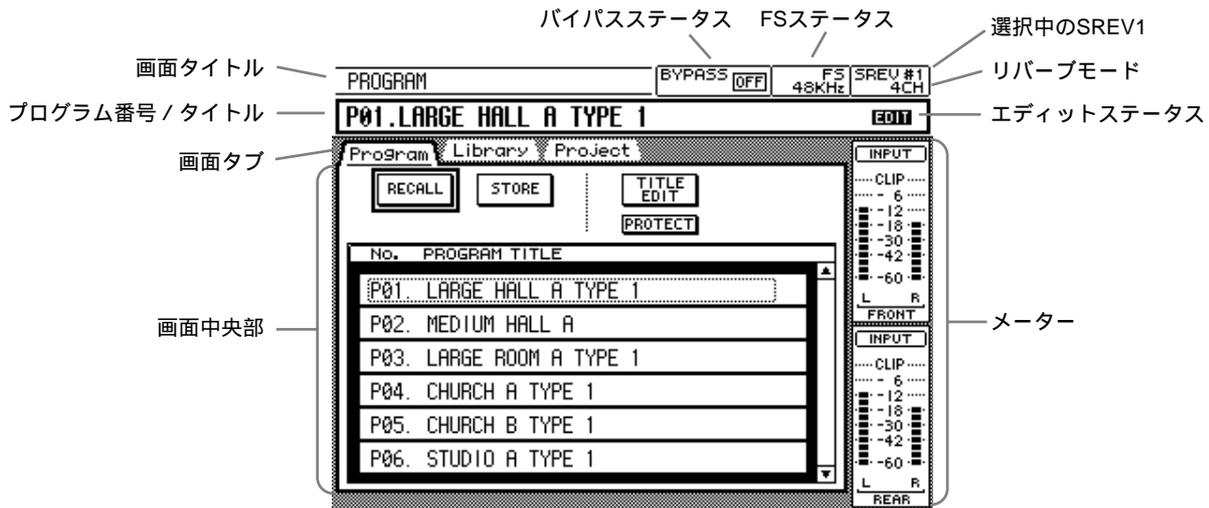
ワードロック

IOオプション

付録

RC-SREV1のディスプレイ

輝度・コントラスト調整付き、解像度320×240ドットの大型液晶ディスプレイです。各種プログラム、パラメーター、ユーティリティー画面やシステムステータス、信号レベルメーターなどを表示します。パラメーター値の表示だけでなく、リバーブやEQパラメーターをグラフ表示します。



画面タイトル: 現在選択している画面のタイトルです。

プログラム番号/タイトル: カレントプログラムの番号とタイトルです。2チャンネル×2モードでは、プログラムAとプログラムBの番号とタイトルが表示されます。表示番号はクイックメモリーから呼び出したときの番号、またはクイックメモリーに保存したときの番号です。ドライブ(内蔵カード、CD-ROM、PCカード)から呼び出した場合には表示されません。

画面タブ: [PROGRAM] ｷｰ、[PARAMETER MAIN] ｷｰ、[PARAMETER FINE] ｷｰの各キーで呼び出される画面です。このタブには各グループ内の画面タイトルが表示されます。

画面中央部: 各プログラム、パラメーター、ユーティリティー画面が表示されます。

バイパスステータス: バイパス状態ON/OFF(ON: SREV1をバイパス)を表示します。詳細は38ページの「SREV1のバイパス」を参照ください。

FSステータス: SREV1のサンプリング周波数(48kHzまたは44.1kHz)と、ワードクロックソースにロックしている(LOCK)かしていない(UNLOCK)かを表示します。詳細は75ページの「ワードクロックソースの選択」を参照ください。

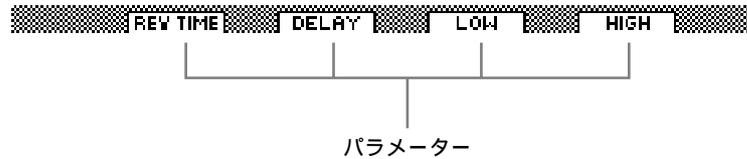
選択中のSREV1: RC-SREV1から現在コントロールしているSREV1のユニット番号を表示します。詳細は65ページの「RC-SREV1からのSREV1の選択」を参照ください。

リバーブモード: 現在のリバーブモードを2CH(2チャンネル)、4CH(4チャンネル)、2CH×2(2チャンネル×2)で表示します。

エディットステータス: “ EDIT ”インジケーター点灯時は、カレントプログラムが呼び出されてからエディットされたことを表します。(2チャンネル×2モードでは“ E ”と表示されます。)

メーター:2チャンネルモードではL,Rチャンネルの入出力レベルが表示されます。4チャンネルモードではフロント-L、フロント-R、リア-L、リア-Rの各チャンネルのレベルが表示されます。2チャンネル×2モードではA-L、A-R、B-L、B-Rの各チャンネルのレベルが表示されます。4チャンネルモードと2チャンネル×2モードでは入力、出力のどちらのレベルを表示するかを選択できます。詳細は35ページの「メーター」を参照ください。

フェーダーステータス:各フェーダーに割り当てられているパラメーター、チャンネルを画面下に表示します。[PARAMETER MAIN] 枠で呼び出された画面ではフェーダーに割り当てられた各パラメーター名が表示されます。[PARAMETER FINE] 枠で呼び出された画面ではチャンネル名が表示されます。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

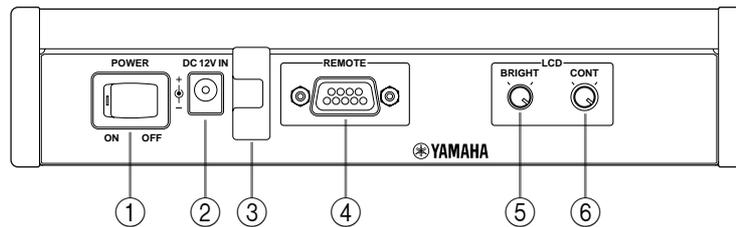
MIDI

ワードロック

IOオプション

付録

RC-SREV1のリアパネル



- ① POWERスイッチ
RC-SREV1の電源をオン/オフします。電源は付属のリモートケーブルでSREV1から、または別売のACアダプターから供給されます。詳細は26ページの「RC-SREV1の電源オン/オフ」を参照ください。
- ② DC 12V IN端子
付属のリモートケーブル以外のカスタムケーブルを使用する場合にACアダプター(別売)が必要になることがあります。その場合、ACアダプターをここに接続します。詳細は27ページの「別売RC-SREV1 ACアダプターの使用」を参照ください。
- ③ アダプターケーブルクリップ
別売のACアダプターケーブルが外れないように固定するクリップです。詳細は27ページの「別売RC-SREV1 ACアダプターの使用」を参照ください。
- ④ REMOTE端子
9ピン、D-sub端子で、RC-SREV1に付属のリモートケーブルでRC-SREV1をSREV1に接続します。詳細は22ページの「リモートコントローラーRC-SREV1の接続」を参照ください。
- ⑤ BRIGHTコントロール
ディスプレイの明るさを調整します。詳細は27ページの「RC-SREV1の輝度・コントラストの調整」を参照ください。
- ⑥ CONTコントロール
ディスプレイのコントラストを調整します。詳細は27ページの「RC-SREV1の輝度・コントラストの調整」を参照ください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

操作前の準備

3

本章の目次

準備手順	22
リモートコントローラーRC-SREV1の接続	22
接続例	23
電源コードの接続	26
SREV1の電源オン / オフ	26
RC-SREV1の電源オン / オフ	26
別売RC-SREV1 ACアダプターの使用	27
RC-SREV1の輝度・コントラストの調整	27
CD-ROMの使い方	27
PCカードの使用	28

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

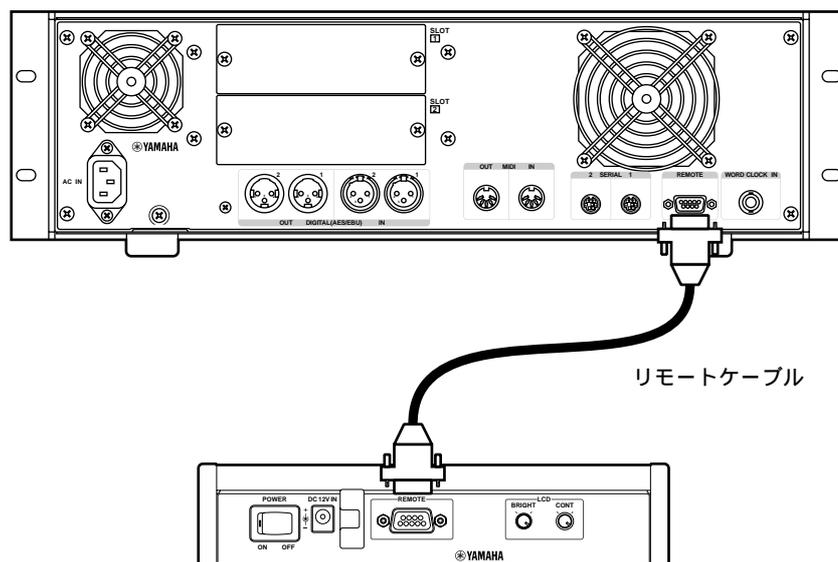
準備手順

以下の手順で本機の操作準備を行います。

- 1 「SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能(11ページ)をお読みください。
 - 2 mini YGDAI I/Oカードを使用する場合、装着します。
81ページの「I/Oオプション」を参照ください。
 - 3 RC-SREV1に接続します。
次項の「リモートコントローラーRC-SREV1の接続」を参照ください。
 - 4 オーディオ機器を入出力端子に接続します。
23ページの「接続例」を参照ください。
 - 5 電源コードを接続しSREV1のPOWERスイッチをオンにします。
26ページの「電源コードの接続」および「SREV1の電源オン/オフ」を参照ください。
 - 6 RC-SREV1のPOWERスイッチをオンにして輝度・コントラストを調整します。
26ページの「RC-SREV1の電源オン/オフ」および27ページの「RC-SREV1の輝度・コントラストの調整」を参照ください。
- これでSREV1の操作準備ができました。

リモートコントローラーRC-SREV1の接続

RC-SREV1は付属の9ピンD-subリモートケーブルで下図のようにSREV1に接続します。ケーブルはコントロール信号だけでなくRC-SREV1に電源供給もします。付属のネジで確実に固定してください。



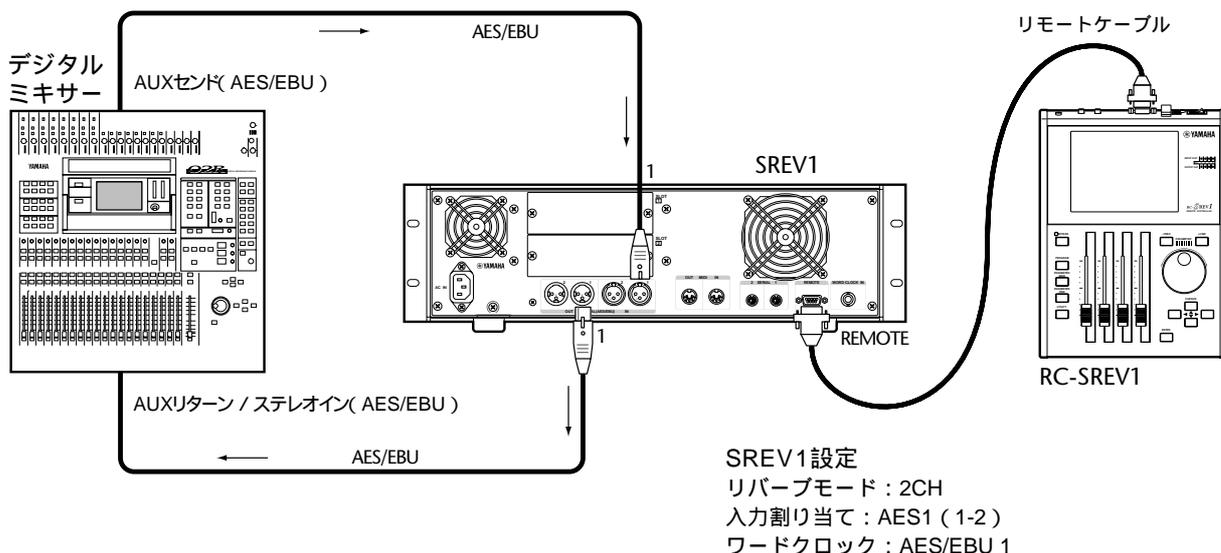
接続例

以下はデジタル入出力、アナログ入出力の各種接続例です。

2チャンネルAES/EBUデジタルI/O

この例はAES/EBU入出力フォーマットのデジタルミキサーとSREV1のDIGITAL AES/EBUを接続する方法です。

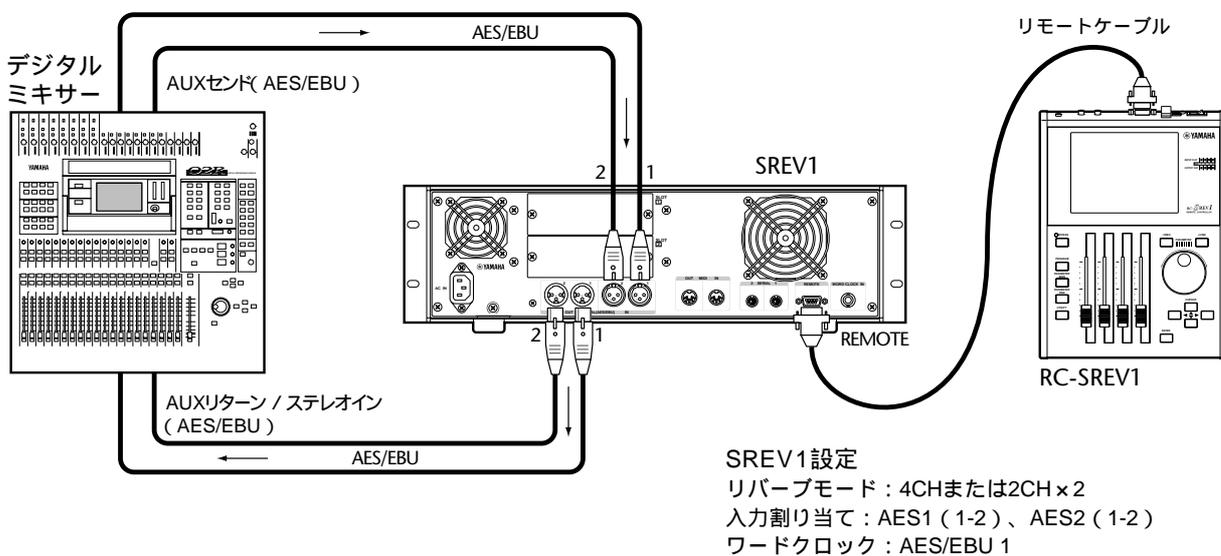
2チャンネルで使用します。モノあるいはステレオのデジタルオーディオ入力信号を1イン/2アウト、あるいは2イン/2アウトで入出力します。



4チャンネルAES/EBUデジタルI/O

この例はAES/EBU入出力フォーマットのデジタルミキサーとSREV1のDIGITAL AES/EBUを接続する方法です。

4チャンネルで使用します。1チャンネルから4チャンネルのデジタルオーディオ入力信号を1イン/4アウト、2イン/4アウト、4イン/4アウト(4チャンネルモード)あるいは1イン/2アウト×2系統、2イン/2アウト×2系統(2チャンネル×2モード)で入出力します。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

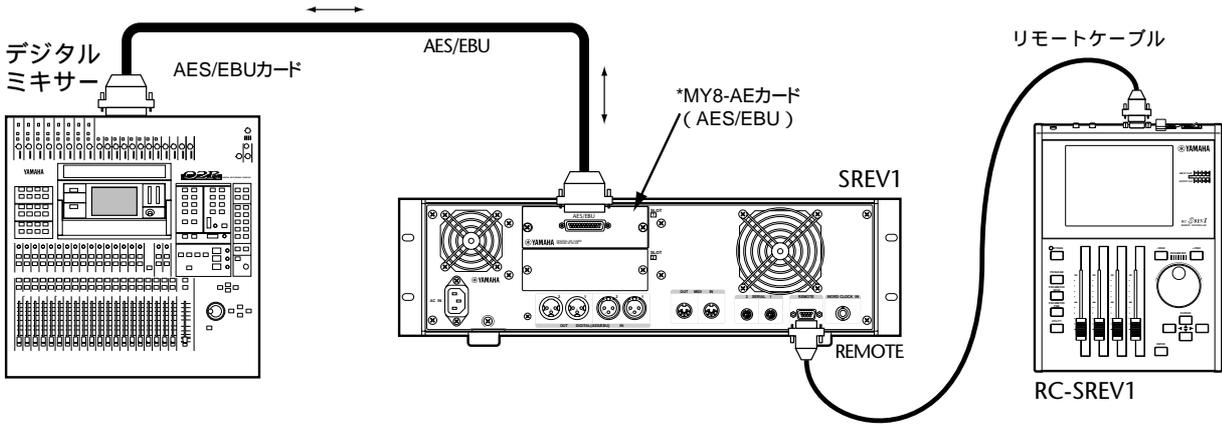
ワードクロック

I/Oオプション

付録

別売I/OカードによるデジタルI/O

この例はAES/EBU端子をもつデジタルミキサーとAES/EBUカード (MY8-AE) を装着したSREV1を接続する方法です。4系統までのデジタルオーディオ信号を入出力します。任意の入出力設定(例、1イン / 2アウト、2イン / 4アウト、2イン / 2アウト × 2、など) が可能となります。



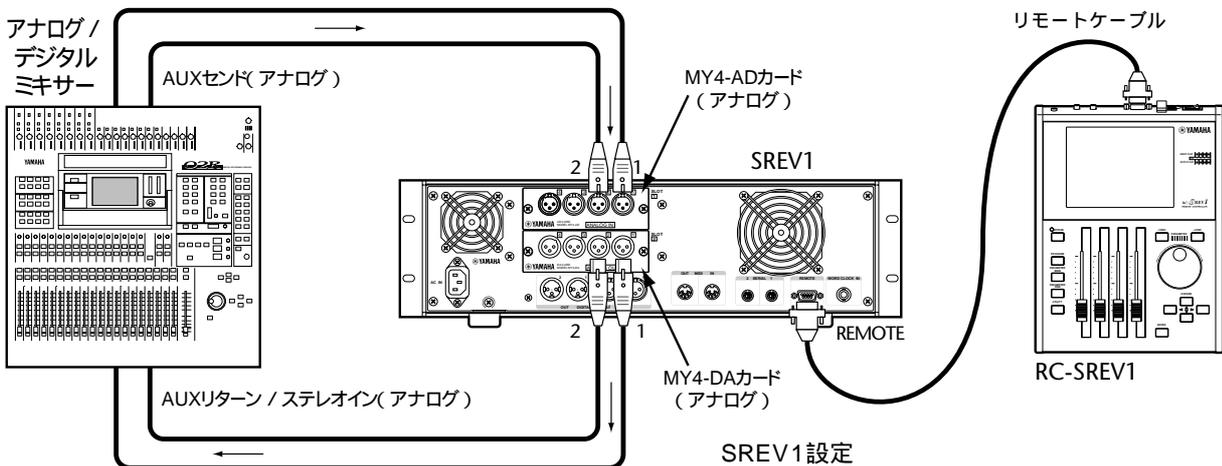
*その他:
MY8-AT(adatフォーマット)
MY8-TD(Tascamフォーマット)

SREV1設定
リバープモード : 2CH、4CH、2CH × 2
入力割り当て : SLOT1 (1-8)
ワードクロック : MY8-AE 1/2

2チャンネルアナログ I/O

この例はアナログミキサーあるいはアナログ入出力のデジタルミキサーと別売ADカードとDAカード (MY4-AD、MY4-DA) を装着したSREV1を接続する方法です。

2チャンネルで使用します。モノあるいはステレオのアナログオーディオ信号を1イン / 2アウト、あるいは2イン / 2アウトで入出力します。



SREV1設定
リバープモード : 2CH
入力割り当て : SLOT1 (1-2)
ワードクロック : INT 48K

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

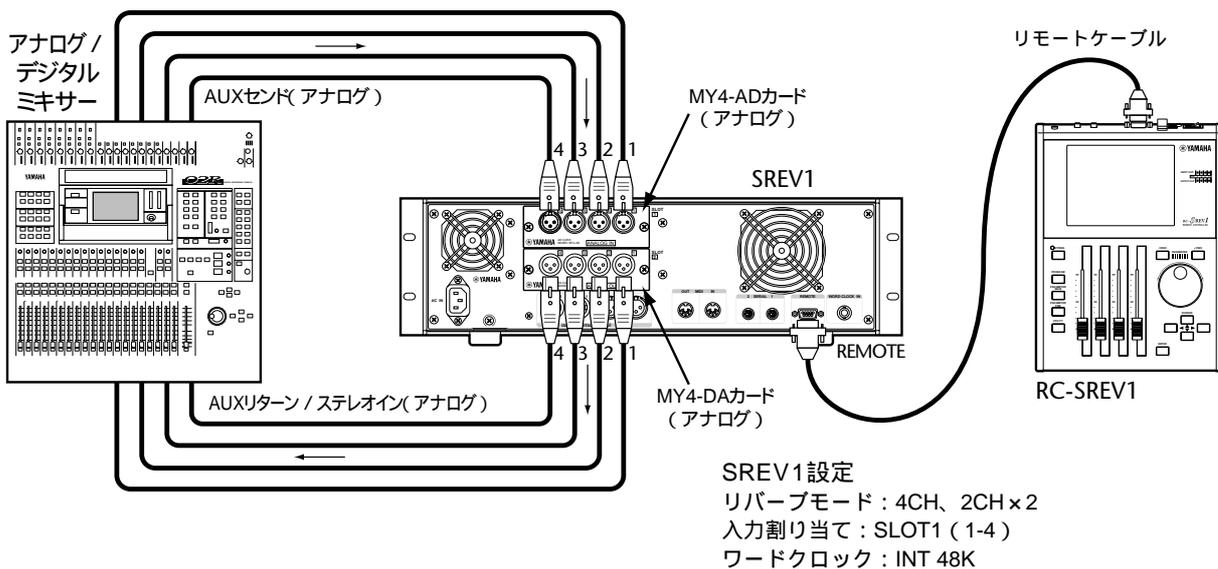
I/Oオプション

付録

4チャンネルアナログI/O

この例はアナログミキサーあるいはアナログ入出力のデジタルミキサーと別売ADカードとDAカード(MY4-AD、MY4-DA)を装着したSREV1を接続する方法です。

4チャンネルで使用します。1チャンネルから4チャンネルのアナログオーディオ信号を1イン/4アウト、2イン/4アウト、4イン/4アウト(4チャンネルモード)あるいは1イン/2アウト×2系統、2イン/2アウト×2系統(2チャンネル×2モード)で入出力します。



はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

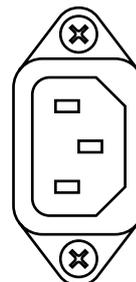
付録

電源コードの接続



電源接続を行う前に必ずすべての機器の電源をオフにしてください。

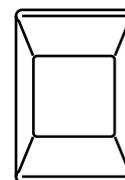
付属の電源コードのソケット側を本機リアパネルのAC INソケットに接続します。コードのプラグ側は、リアパネルに記載されている電源条件に合ったACコンセントに接続します。



SREV1の電源オン / オフ

電源を入れるときに大きなノイズがスピーカーから出ないように、音源 SREV1 RC-SREV1 レコーダー ミキサー モニターアンプ順に電源を入れます。電源を切るときはこの逆の順序で行ってください。

○ POWER



■ ON / □ OFF

- 1 SREV1の[POWER]スイッチを押して電源を入れます。POWERインジケータが点灯します。
- 2 [POWER]スイッチをもう一度押して電源を切ります。POWERインジケータが消灯します。



SREV1の起動、RC-SREV1の起動、および起動時の内部動作についての詳細は30ページをお読みください。

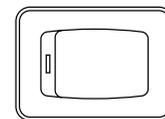
RC-SREV1の電源オン / オフ



RC-SREV1の電源オン / オフは通常RC-SREV1の[POWER]スイッチをONにした状態で本体SREV1の[POWER]スイッチでオン / オフしてください。カスタムメイドしたリモートケーブルを使用し、ACアダプターで電源を取っている場合、RC-SREV1の電源スイッチを本体SREV1より先に電源オンするとSREV1の電源スイッチを50秒以内にオンしなければなりません。その場合“COULD NOT COMMUNICATE WITH SREV1. CHECK THE CABLE CONNECTION AND SREV1'S POWER, THEN TURN ON RC-SREV1 AGAIN.”とメッセージが表示されます。RC-SREV1の電源スイッチは本体SREV1の電源オンの後に行ってください。

- 1 RC-SREV1の[POWER]スイッチをONにして電源を入れます。
起動画面を表示し、本体SREV1との通信を行った後にProgram画面が表示されます。
- 2 RC-SREV1の[POWER]スイッチをOFFにして電源を切ります。

POWER



ON OFF

RC-SREV1の電源はリモートケーブルを介してSREV1から供給されます。電源がオンにならない場合はリモートケーブルが正しく接続されているか、またSREV1の電源がオンになっているか確認してください。

別売RC-SREV1 ACアダプターの使用

付属のリモートケーブル(20m)をお使いの場合はACアダプターは不要ですが、カスタムメイドによりそれより長いケーブルをお使いの場合は、別売のヤマハPA-6 ACアダプターを使用してください。

RC-SREV1の電源はリモートケーブルを介してSREV1から供給されますが、ケーブルが長くなると電圧が低下し正常に動作しなくなる可能性があります。

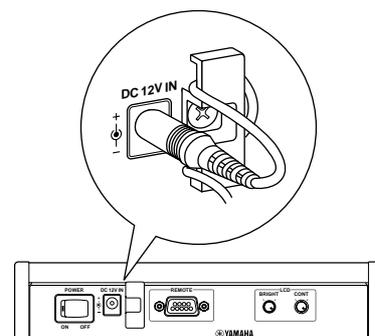
カスタムメイドのリモートケーブルの配線については91ページを参照ください。

別売のヤマハPA-6 ACアダプターはRC-SREV1のリアパネルのDC 12V IN端子に接続します。

ACアダプターのケーブルが外れてしまわないように、図のケーブルクリップに掛けます。



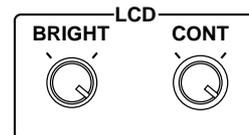
ACアダプターをご使用になる場合は、別売のヤマハ電源アダプターPA-6をご使用ください。他の電源アダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因になります。



RC-SREV1の輝度・コントラストの調整

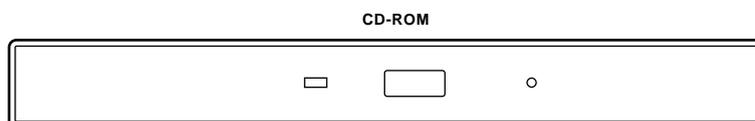
RC-SREV1のディスプレイの輝度・コントラストを作業環境や好みに合わせて調整できます。

- 1 CONTコントロールでコントラストを調整します。
コントラストはオンのピクセルとオフのピクセルとのバランスで調整されます。
- 2 BRIGHTコントロールで輝度を調整します。
明るさはディスプレイのバックライトの輝度で調整されます。



CD-ROMの使い方

SREV1はISO9660 Level 2フォーマット準拠、Windows互換CD-ROMにストアされているプログラム、プロジェクト、インパルス応答データファイルをロードします。



CD-ROMの挿入とイジェクト

SREV1の電源がオンのときにのみCD-ROMの挿入、イジェクトができます。

- 1 CD-ROMイジェクトボタンを押してディスクトレイを引き出します。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

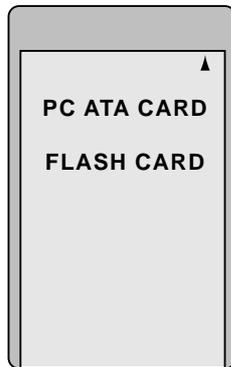
ワードロック

I/Oオプション

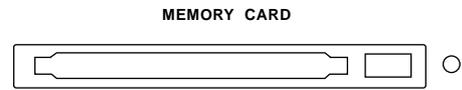
付録

- 2 ディスクのラベル面を上に向けてトレイの中心に置きます(ディスクが平らに入っている状態が正しい挿入方法です)。
- 3 ディスクトレイを押してトレイを閉めます。
CD-ROMの読み込み中は作動インジケータが点灯します。
CD-ROMの認識には20～30秒かかります。
- 4 CD-ROMを取り出すにはイジェクトボタンを押します。
- 5 ディスクトレイが出たら、ディスクを取り出してトレイを押して閉めます。
CD-ROMは常にケースに保管してください。

PCカードの使用



SREV1はプログラム、プロジェクト、インパルス応答データを、標準PCカード(PCMCIA)にストアします。また、本機はPCカードATA仕様に準拠し、Windows互換のFAT16ファイルシステムをサポートしています。



PCMCIA Flash ATA Card (Type II) 若しくは Compact Flash Card + PC Card Adapter をご使用ください。

PCカードの挿入と取り出し

PCカードの表面を上向きにしてMEMORY CARDスロットにカードが奥に突き当たるまで確実に押し込みます。

数秒でPCカードが認識され使用可能になります。

- ・カードが認識されないことがまれにあります。そのような場合には、一度カードを抜き再度挿入してみてください。何度やってもカードが認識されない場合は、お近くのヤマハ営業所、またはヤマハサービスセンターにお問い合わせください。
- ・PCカードからのデータ読み込み中、あるいは書き込み中はMEMORY CARDスロット横の作動インジケータが点灯します。インジケータ点灯中はカードを抜いたり、電源を切ったりしないでください。
- ・カード取り出しの際は、作動インジケータが点灯していないことを確認してからイジェクトボタンを押します。カードが約1/3飛び出てきますので、カードを取り出してください。
- ・カードアダプターの装着したコンパクトカードの場合、カードアダプターごと取り出してください。カードだけの取り出しは誤動作の原因となることがあります。
- ・PCカードへの読み込み / 書き込み速度はカードの種類により違います。
- ・PCカードは常にケースに保存してください。

基本操作

4

本章の目次

SREV1の起動	30
RC-SREV1の起動	30
起動時の内部動作について	31
リバーブモードの選択	32
入力の割り当て	33
入出力レベルの設定	34
メーター	35
メーターモードの設定	37
ピークホールド機能の使用	38
SREV1のバイパス	38
バイパスモードの設定	39
TITLE EDITダイアログボックスの使い方	40
クイックメモリーの使い方	41
ライブラリーの使い方	43
プロジェクトの使い方	47

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

SREV1の起動

SREV1の電源を入れると、フロントパネルのINPUT/OUTPUT信号インジケータが流れるように点滅します。この間SREV1はカレントプログラムやクイックメモリーに必要な各音場プログラムのデータを、内蔵カードや、必要ならばPCカード、CD-ROMから読み込みます。その間、音は出力されません。30秒ほどして必要なデータの読み込みが終了すると、先のインジケータ動作が終わり本体から音が出力されます。

カレントプログラムやクイックメモリーに読み込むプログラムがPCカードやCD-ROMにある場合、起動にかかる時間が変わりますのでご注意ください。

もし音が出力されない場合は機器の接続を確認してください。入力信号の変更は33ページの「入力の割り当て」を参照ください。

RC-SREV1の起動

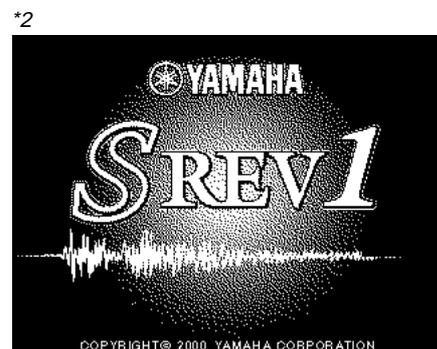
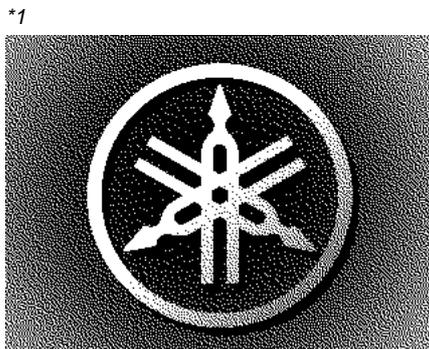
基本的には、SREV1の起動が終了してからRC-SREV1を起動してください。しかし通常、付属のリモートケーブルでSREV1と接続し、そのSREV1から電源供給をされている場合、RC-SREV1の電源スイッチがすでにONになったままでしたら、SREV1の電源ONと同時にRC-SREV1の電源も入り、RC-SREV1は正常に起動します。シリアルケーブルにてSREV1を複数台接続している場合は、すべてのSREV1の起動を確認してからRC-SREV1の電源を最後に入れるようにしてください。

RC-SREV1の電源を入れると、まず*1の画面が1秒程度表示され、次に*2の画面に変わり、ディスプレイ下部に波形が左から右へと流れるアニメーション表示になります。この間RC-SREV1は、起動後の操作に必要な情報をSREV1から受け取ります。全情報を得た後、Program画面になります。

SREV1起動後にRC-SREV1を起動した場合、上記の動作に約15秒必要とします。

SREV1の電源ONと同時にRC-SREV1が起動する場合、約45秒を必要とします。ただし、これはSREV1自体の起動時間によって異なりますのでご注意ください。

もし*2の画面で波形のアニメーションが表示されない場合は、SREV1とRC-SREV1の接続エラーが考えられます。SREV1とRC-SREV1の電源を両方ともオフにして、リモートケーブルの接続や断線していないかを確認してください。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

起動時の内部動作について

SREV1はカレントプログラムやクイックメモリーに必要な音場プログラムを起動時に読み込み、前回終了時の使用状況に戻るようにします。前回、カレントの内容をPCカードまたはCD-ROMから読み込み、その後クイックメモリーに内容をストアした場合は、その前回使用したPCカードまたはCD-ROMが次回起動時にクイックメモリーの内容復帰の為に必要になります。必要となるPCカードやCD-ROMが挿入されていることを確認の上、SREV1を起動してください。

前回使用時に、カレントプログラムやクイックメモリーにどのようなタイトルのプログラムが入っていたかは、SREV1の電源をOFFにした後もSREV1内蔵のバックアップメモリーに保存されますが、プログラムの内容(インパルス応答データなど)自体はバックアップメモリーに保存されていません。前回読み込みに使用したPCカードやCD-ROMが起動時に必要となります。

もし、必要となるPCカードやCD-ROMがない場合は、RC-SREV1の起動後Program画面に、“ DATA FILE NOT FOUND! INSERT CD-ROM DISC ”、あるいは“ DATA FILE NOT FOUND! INSERT PCMCIA CARD ”とエラーが表示されますので、適宜必要なPCカードやCD-ROMを挿入し再度読み込みを行ってください。

リバーブモードを切り替えるときやプロジェクトファイルをロードするときも同じことが言えますのでご注意ください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

MIDI

ワードクロック

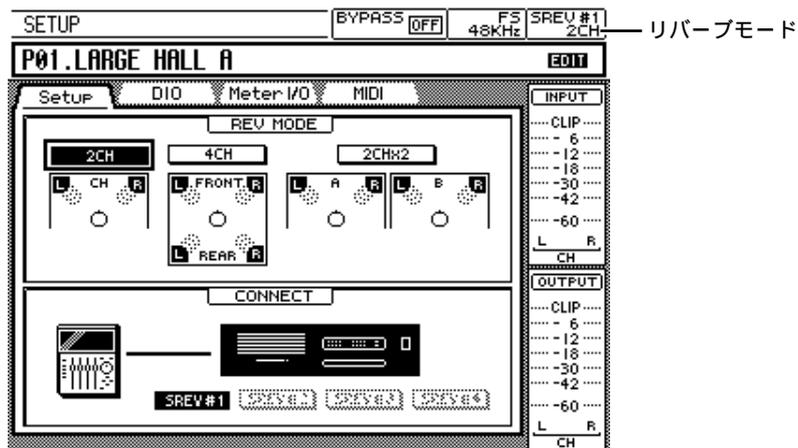
IOオプション

付録

リバーブモードの選択

2チャンネル、4チャンネル、2チャンネル×2の各リバーブモードを選択します。各モードの詳細は6ページを参照ください。

- 1 [UTILITY] ｷｰでSetup画面を表示させます。



- 2 画面内のREV MODE欄でカーソルキーを使って2CH、4CH、2CH×2のいずれかのボタンを選択します。
- 3 [ENTER] ｷｰを押します。
確認のメッセージが表示されます。
- 4 YESを選択します。
操作をキャンセルする場合はNOを選択します。
- 5 [ENTER] ｷｰを押します。

YESを選択した場合、RC-SREVE1の画面には“SETTING REV MODE ...”の表示が数秒表示され、SREVE1のINPUT/OUTPUT信号インジケーターが流れるように点灯します。

このとき、CD-ROMおよびPCカードの抜き差しはしないでください。

選択したモードになり、画面右上のリバーブモード欄にリバーブモードが表示されます。画面はProgram画面になります。

SREVE1ではモード変更するとすべてのプログラムパラメーターが内蔵カードにセーブされ、そのモードに戻るとセーブされた設定が呼び戻されモード変更前の状態に復帰します。



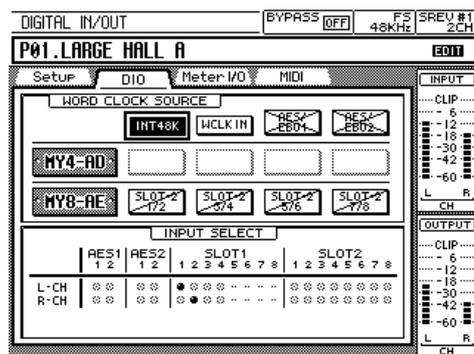
リバーブモードを変更すると、カーソル位置や画面タブは初期化され、電源オンのときと同じ位置になります。

入力の割り当て

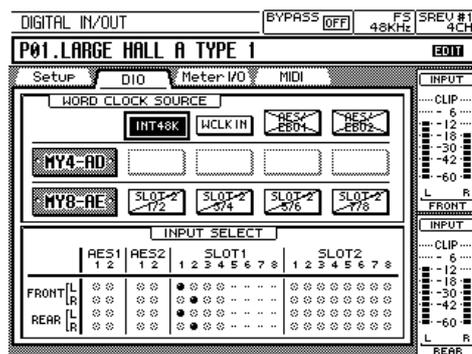
2系統(計4チャンネル)のAES/EBU入力および2つのSLOTの入力から選択し、各チャンネルに割り当てます。各チャンネルに割り当てできる入力は1系統です。

MY4-ADカードのように4チャンネル入力のカードを装着すると、そのスロットの最初の4チャンネルのみが使用可能となります。

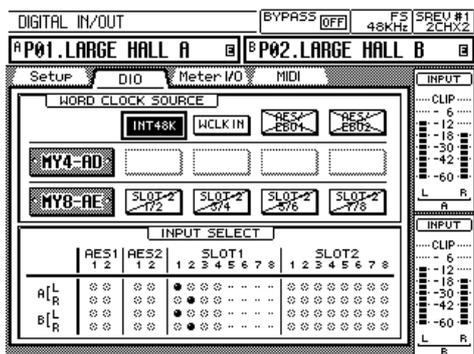
- 1 [UTILITY]キーでDIO画面を表示させます。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネルx2モード

- 2 カーソルキーでINPUT SELECT欄にある波線の丸印を選択します。
波線の丸印(⊗)は入力割り当て可能を、波線(⊗)は割り当てできないことを表します。
- 3 [ENTER]キーを押して入力をチャンネルに割り当てます。
入力がチャンネルに割り当てられ、波線の丸印(⊗)が黒い丸印(●)となります。

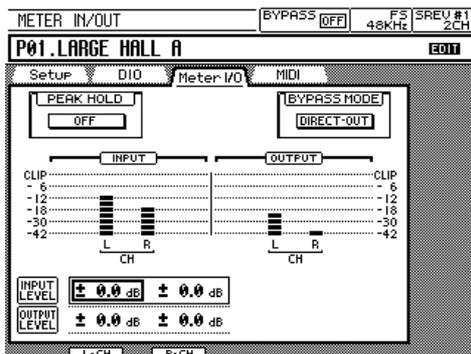
はじめに
SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムのエディット
複数台のシステム
MIDI
ワードクロック
IOオプション
付録

入出力レベルの設定

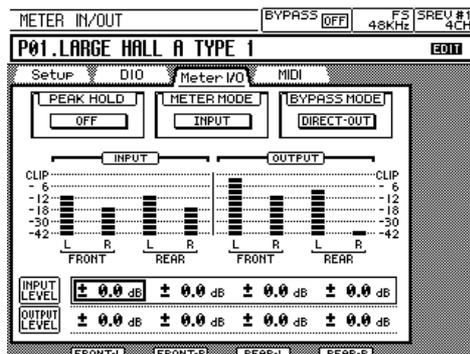
入出力信号レベルはMain 2画面、Meter I/O画面の2種類の画面で設定します。Main 2画面では全チャンネルのレベルをグループとして同時に調整します。Meter I/O画面ではチャンネルごとのレベルを個別に設定します。

ここではMeter I/O画面での入出力レベルの調整方法を説明します。Main 2画面での設定方法は54ページを参照ください。

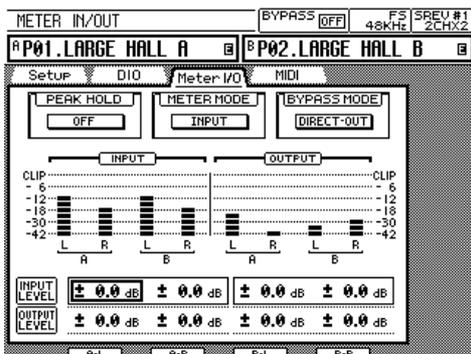
- 1 [UTILITY]キーでMeter I/O画面を表示させます。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード

- 2 カーソルキーで各チャンネルのINPUT LEVELパラメーター、OUTPUT LEVELパラメーターを選択します。
- 3 フェーダーでレベルを設定します。
DATAホイール、[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーを使ってもレベルが設定できます。
設定レベルの範囲は - 、 - 72.0dB ~ + 6.0dBです。
ただし、DATAホイール、[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーを使った場合、0.1dB単位で設定できます。

メーター

入出力信号レベルは:

RC-SREV1ディスプレイの14セグメントのメーター

Meter I/O画面の11セグメントのメーター

SREV1のINPUT/OUTPUT信号インジケーター

RC-SREV1のINPUT/OUTPUT CLIPインジケーター

で確認できます。

どのメーターにもピークホールド機能があります。詳細は38ページの「ピークホールド機能の使用」を参照ください。

14セグメントのメーター

入出力信号レベルはRC-SREV1のほとんどの画面にある14セグメントのメーターで表示されます。2チャンネルモードでは入出力同時表示が可能です。4チャンネルモード、2チャンネル×2モードでは入力、出力どちらかの信号レベルを表示しますが、同時に両信号の表示はできません。詳細は37ページの「メーターモードの設定」を参照ください。

14セグメントのLCDメーターは、

CLIP/ - 3dB/ - 6dB/ - 9dB/ - 12dB/ - 15dB/ - 18dB/ - 24dB/ - 30dB/ - 36dB/ - 42dB/ - 48dB/ - 54dB/ - 60dB

の14段階で表示します。

次の表は各モードでの入出力メーターです。

モード	2チャンネル	4チャンネル		2チャンネル×2	
メーター					
I/O	INPUT & OUTPUT	INPUT	OUTPUT	INPUT	OUTPUT
チャンネル	L, R	フロントL, フロントR, リアル, リアR		A-L, A-R, B-L, B-R	

はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

MIDI

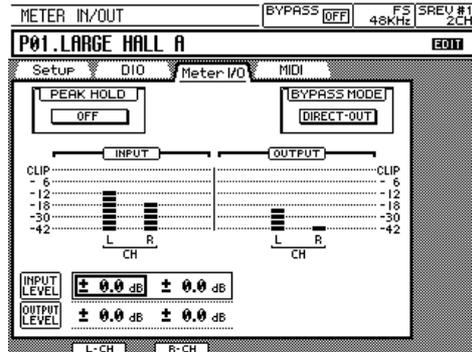
ワードロック

IOオプション

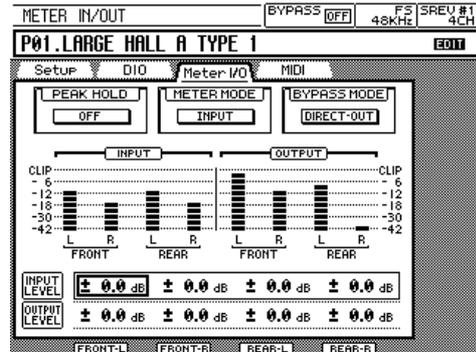
付録

Meter I/O画面

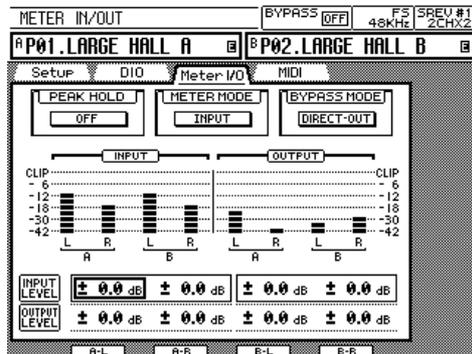
全チャンネルの入出力信号レベルはMeter I/O画面の11セグメントのメーターで表示されます。この画面はUTILITYキーで表示させます。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



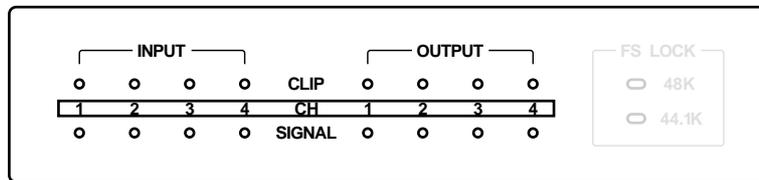
・2チャンネル×2モード

11セグメントのLCDメーターは、

CLIP/ - 3dB/ - 6dB/ - 9dB/ - 12dB/ - 15dB/ - 18dB/ - 24dB/ - 30dB/ - 36dB/ - 42dB
の11段階で表示します。

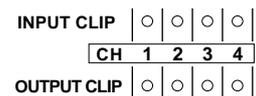
SREV1 INPUT/OUTPUT信号インジケータ

チャンネルごとの入出力信号レベルはSREV1フロントパネルのINPUT/OUTPUT信号インジケータに表示されます。信号が - 34dB以上のレベルでは下段のSIGNALインジケータが点灯し、信号が入っていることを表わします。また信号がクリップすると上段のCLIPインジケータが点灯します。



RC-SREV1 CLIPインジケータ

チャンネルごとに入出力信号がクリップしていないかどうかをRC-SREV1のINPUT/OUTPUT CLIPインジケータで確認できます。クリップ時はインジケータが点灯します。

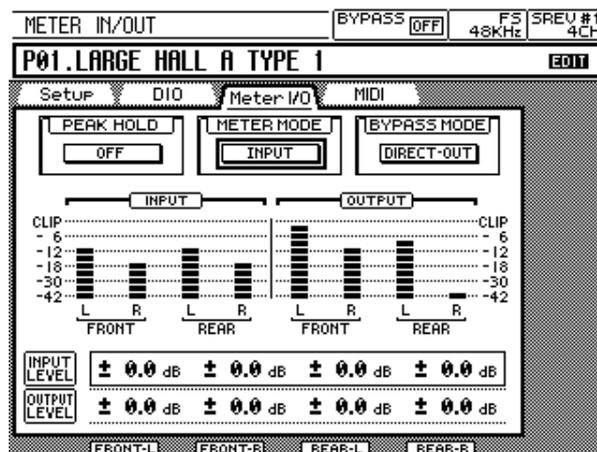


メーターモードの設定

4チャンネルモードまたは2チャンネル×2モードで使用する場合、RC-SREV1のほとんどの画面に表示される14セグメントのメーターを、入力、出力どちらの信号レベルを表示させるかをMETER MODE(メーターモード)欄で設定します。

2チャンネルモードでは入出力(L, R)ともに常に表示されるので、メーターモードはありません。

- 1 [UTILITY] ｷｰでMeter I/O画面を表示させます。



- 2 カーソルキーでMETER MODEボタンを選択します。
- 3 [ENTER] ｷｰでINPUT、OUTPUTを切り替えます。
14セグメントのメーターモードが設定されます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

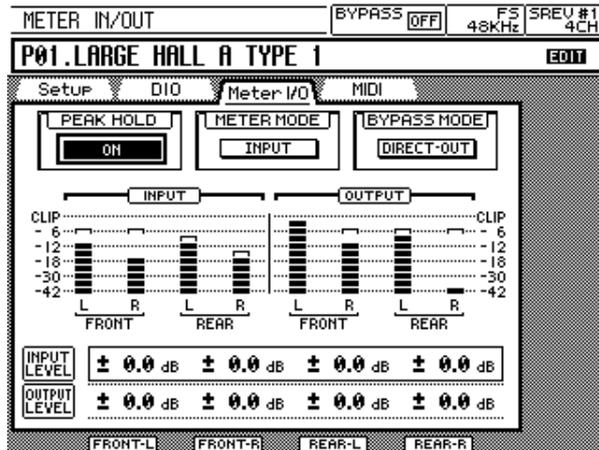
I/Oオプション

付録

ピークホールド機能の使用

ピークホールド機能は各メーターでレベルの一番高いセグメントを点灯したままにするので、信号のピークポイントをチェックするのに便利です。この機能をオンにするとRC-SREV1画面のメーターだけでなく、SREV1およびRC-SREV1のCLIPインジケーターもクリッピングすると点灯したままになります。

- 1 [UTILITY] ｷｰでMeter I/O画面を表示させます。



- 2 カーソルｷｰでPEAK HOLDボタンを選択します。
- 3 [ENTER] ｷｰでOFF、ONを切り替えます。
ONでピークホールド機能が設定されます。
ピークホールド機能をリセットするには一度OFFにして点灯を消してからもう一度ONにしてください。

SREV1のバイパス

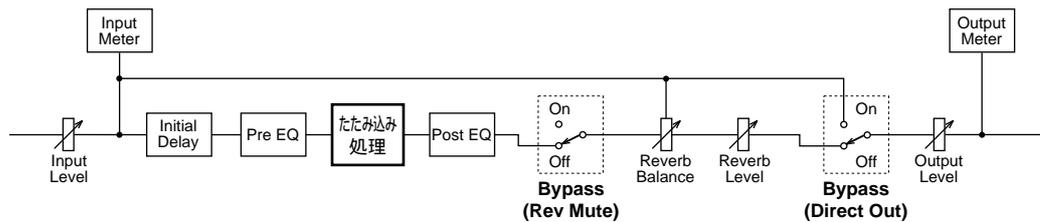
[BYPASS] ｷｰが押されると入力信号はSREV1をバイパスします。BYPASS(バイパス)機能がオンになるとBYPASSインジケーターが点灯し、“ON”の表示が画面BYPASS欄に表示されます。

バイパス	[BYPASS] ｷｰ	画面	SREV1
オフ	○ BYPASS 		通常動作
オン	● BYPASS 		バイパス ¹

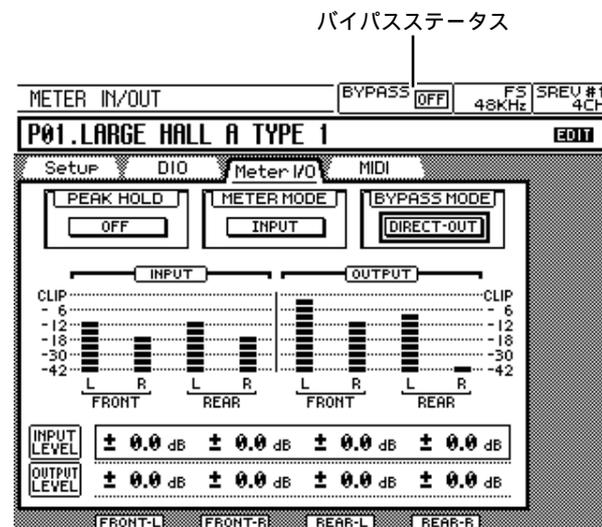
1. バイパスモードによりDIRECT-OUT/REV-MUTE。次ページ参照。

バイパスモードの設定

BYPASS (バイパス) 機能にはすべての信号処理をバイパスするDIRECT-OUTモードと、リバーブ処理をミュートするREV-MUTEモードがあります。REV-MUTEモードの場合、出力はリバーブバランス、リバーブレベルの各設定の影響を受けません。



- 1 [UTILITY] ｷｰでMeter I/O画面を表示させます。



- 2 カーソルキーでBYPASS MODEボタンを選択します。
- 3 [ENTER] ｷｰでDIRECT-OUT、REV-MUTEを切り替えます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

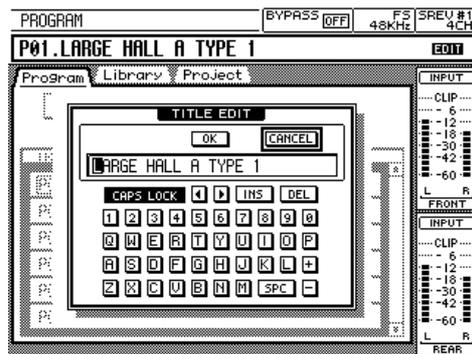
ワードクロック

I/Oオプション

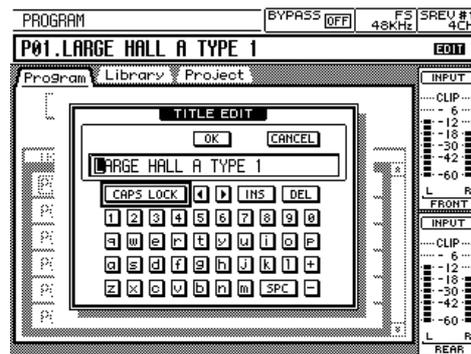
付録

TITLE EDIT ダイアログボックスの使い方

TITLE EDITダイアログボックスでプログラム、プロジェクトのタイトルを付けます。このボックスはプログラムやプロジェクトをセーブしたり、カレントプログラム、プロジェクトのタイトルをエディットするときに開きます。タイトルには27文字までの大文字、小文字の英数字、“+”と“-”が付けられます。



・大文字



・小文字

DATAホイールまたは $-1/DEC$ / $+1/INC$ ｷｰでタイトル入力欄のカーソルを移動します。

CAPS LOCKボタンで大文字、小文字を切り替えます。

カーソルｷｰ(\leftarrow / \rightarrow / \uparrow / \downarrow)で入力したい文字を選択し、[ENTER]ｷｰを押します。選択した文字がタイトル入力欄のカーソル位置に挿入され、タイトルのカーソルが1文字右に移動します。

SPCボタンを押すとタイトルのカーソル位置にスペースが挿入されます。

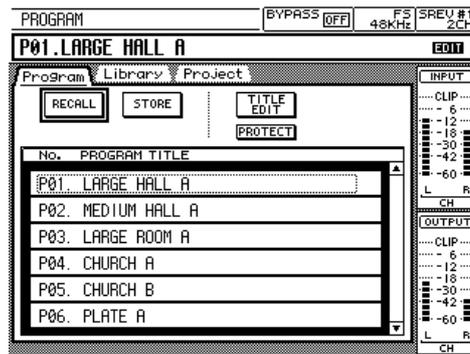
INSボタンを押すとタイトルのカーソル位置にスペースが挿入され、それ以降の文字が順次右に移動します。タイトル欄の右端からはみ出た文字は消去されます。

DELボタンを押すとタイトルのカーソル位置の文字が削除され、それ以降の文字が順次左に移動します。

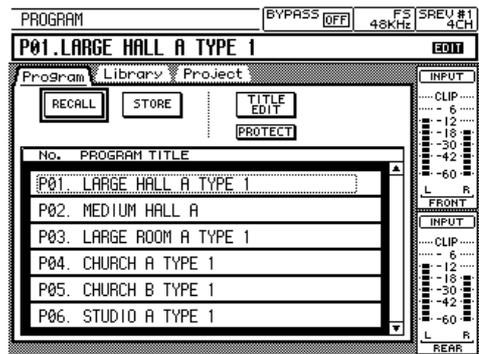
エディットが終わったらOKボタンを選択し、[ENTER]ｷｰを押してください。変更中はメッセージ「CHANGING TITLE...」が表示されます。操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し[ENTER]ｷｰを押してください。

クイックメモリーの使い方

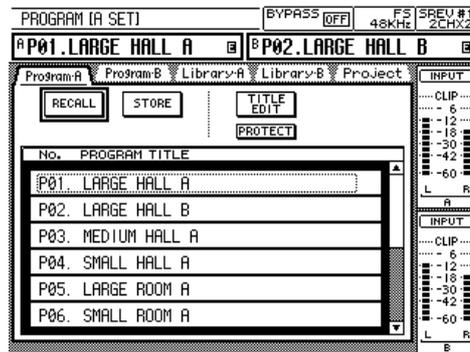
クイックメモリー内にあるプログラムのリコール、ストア、タイトルエディット、プロテクトについて説明します。これらの操作はすべてProgram画面で行います。2チャンネル×2モードではProgram-AとProgram-Bの2種類の画面で行います。2チャンネルモード、4チャンネルモードでは6個のクイックメモリー(P01～P06)、2チャンネル×2モードでは12個のクイックメモリー(P01～P12)があります。選択しているプログラムはリスト内で点線に囲まれています。



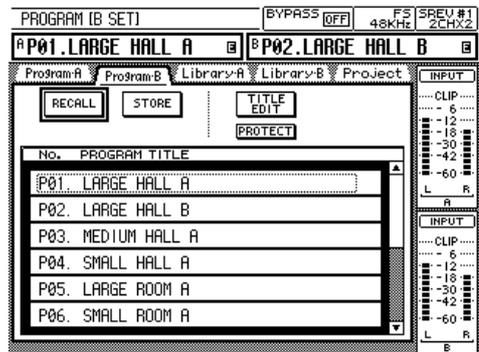
・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

プログラムのリコール

クイックメモリーにストアされているプログラムは素早くリコールできます。リコールしたプログラムがカレントプログラムとなり、音が切り替わります。

- 1 [PROGRAM] ｷｰでProgram画面を表示させます。
- 2 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC] ｷｰでリストからプログラムを選択します。
- 3 カーソルキーでRECALLボタンを選択し、[ENTER] ｷｰを押します。
カレントプログラムに加えた変更をまだストアしていないと、警告メッセージが表示されます。YESを選択して変更内容を無視し選択プログラムをリコールするか、NOを選択して操作をキャンセルします。

選択プログラムがリコールされ、その番号とタイトルが表示されます。



2チャンネル×2モードの場合、例えばA側のリコール時にはB側もミュートが入ります。ただし、別売のDB-SREV1エクステンションボードを追加した場合は、そのようなことはなくなります。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

プログラムのストア

カレントプログラムを任意のクイックメモリーにストアします。

- 1 [PROGRAM]キーでProgram画面を表示させます。
 - 2 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーで任意のクイックメモリーを選択します。
プロテクトされたプログラムの入っているクイックメモリーにストアすることはできません。
 - 3 カーソルキーでSTOREボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
 - 4 タイトルを入力します。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。
 - 5 カーソルキーでOKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し、[ENTER]キーを押してください。)
- カレントプログラムが選択したクイックメモリーにストアされ、“EDIT”インジケータが消えます(18ページ参照)。

プログラムタイトルのエディット

クイックメモリーにストアされているプログラムのタイトルは次の手順で変更できます。

- 1 [PROGRAM]キーでProgram画面を表示させます。
 - 2 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーでプログラムを選択します。
プロテクトされているプログラムのタイトルはエディットできません。
 - 3 カーソルキーでTITLE EDITボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
 - 4 タイトルをエディットします。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。
 - 5 カーソルキーでOKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し、[ENTER]キーを押してください。)
- タイトル変更中は“CHANGING TITLE...”のポップアップウィンドウは表示されません。
- 新しいタイトルに変更されます。

クイックメモリープログラムのプロテクト

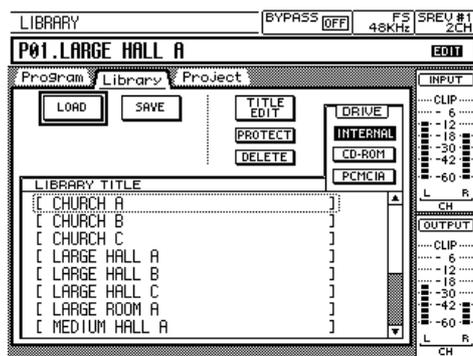
クイックメモリーのプログラムを誤って上書きしないようにプロテクトします。

- 1 [PROGRAM] ｷｰでProgram画面を表示させます。
- 2 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC] ｷｰでプログラムを選択します。
- 3 カーソルキーでPROTECTボタンを選択し、[ENTER] ｷｰを押します。
プロテクトのアイコン(☐)がプログラムタイトルの右に表示されます。
- 4 [ENTER] ｷｰをもう一度押すとプロテクトが解除されます。
アイコンが消えます。

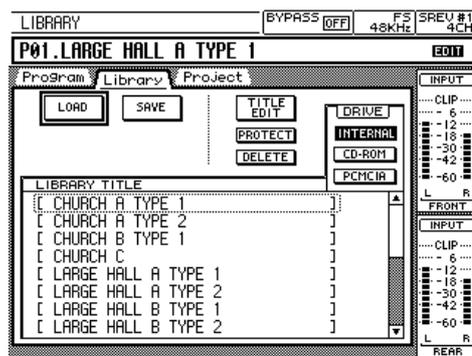
ライブラリーの使い方

内蔵カード / CD-ROM / PCカード内のプログラムのロード、セーブ、タイトルエディット、プロテクト、デリートについて説明します。これらの操作はすべてLibrary画面で行います。2チャンネル×2モードではLibrary-AとLibrary-Bの2種類の画面で行います。選択しているプログラムはリスト内で点線に囲まれています。

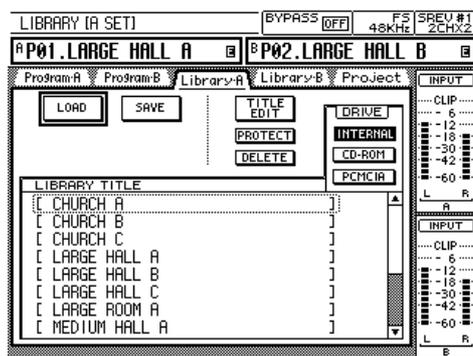
画面、DRIVE欄のINTERNALは内蔵カード、CD-ROMはCD-ROM、PCMCIAはPCカードを指しています。



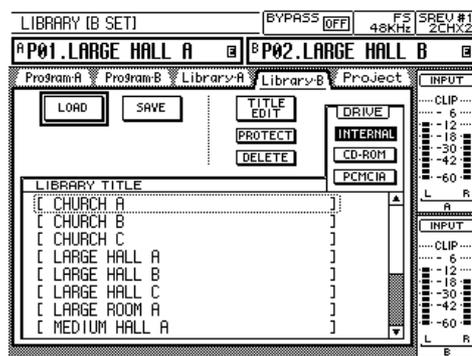
・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

ライブラリーからプログラムのロード

内蔵カード / CD-ROM / PCカード内のプログラムをロードできます。ロードしたプログラムがカレントプログラムとなり、音が切り替わります。

- 1 [PROGRAM]キーでLibrary画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにセーブされているプログラムがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[- 1/DEC][+ 1/INC]キーでリストからプログラムを選択します。
- 4 カーソルキーでLOADボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
カレントプログラムに加えた変更をまだセーブしていないと、警告メッセージが表示されます。YESを選択して変更内容を無視し選択プログラムをロードするか、NOを選択して操作をキャンセルします。

選択されたプログラム(それに必要となるインパルス応答データも含む)がロードされ、そのタイトルが表示されます。プログラム番号は表示されません。

クイックメモリーのプログラムは素早く呼び出すことができますが、ドライブ内のプログラムはインパルス応答データのサイズ、ドライブの速度によってロード時間が変わります。



2チャンネル×2モードの場合、例えばA側のロード時にはB側もミュートが入ります。ただし、別売のDB-SREV1エクステンションボードを追加した場合は、そのようなことはなくなります。

ライブラリーへのプログラムのセーブ

カレントプログラムを内蔵カードまたはPCカードにセーブします。

- 1 [PROGRAM]キーでLibrary画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにセーブされているプログラムがリスト表示されます。
- 3 カーソルキーでSAVEボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
- 4 タイトルを入力します。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。
- 5 カーソルキーでOKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し[ENTER]キーを押してください。)

同じタイトルのプログラムがすでにあると、確認のダイアログボックスが表示されます。YESを選択して上書きするか、NOを選択して操作をキャンセルします。すでにあるプログラムがプロテクトされていると上書きができませんのでご注意ください。

カレントプログラム(それに必要となるインパルス応答データも含む)が選択したドライブにセーブされ、“EDIT”インジケータが消えます(18ページ参照)。

ライブラリープログラムのタイトルエディット

内蔵カードまたはPCカードにセーブされているプログラムのタイトルを次の手順でエディットします。

- 1 [PROGRAM]キーでLibrary画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し,[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブに入っているプログラムがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[-1/DEC] [+1/INC]キーでプログラムを選択します。
プロテクトされているプログラムのタイトルはエディットできません。
- 4 カーソルキーでTITLE EDITボタンを選択し,[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
- 5 タイトルを編集します。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。
- 6 カーソルキーでOKボタンを選択し,[ENTER]キーを押します。
(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し[ENTER]キーを押してください。)
新しいタイトルに変更されます。

ライブラリープログラムのプロテクト

内蔵カード、PCカードのプログラムを誤って上書きしないようにプロテクトをかけます。

- 1 [PROGRAM]キーでLibrary画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し,[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプログラムがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[-1/DEC] [+1/INC]キーでプログラムを選択します。
- 4 カーソルキーでPROTECTボタンを選択し,[ENTER]キーを押します。
プロテクト(書き込み保護)のアイコン(☐)がプログラムタイトルの右に表示されます。
- 5 [ENTER]キーをもう一度押すとプロテクトが解除されます。
アイコンが消えます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

ライブラリープログラムのデリート

内蔵カード、PCカードにセーブされているプログラムをデリート(削除)します。



工場出荷時のプリセットデータはCD-ROMにも入っています。

- 1 [PROGRAM]キーでLibrary画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプログラムがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[-1/DEC] [+1/INC]キーでプログラムを選択します。
- 4 カーソルキーでDELETEボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
確認のダイアログボックスが表示されます。YESを選択してプログラムを削除するか、NOを選択して操作をキャンセルします。プログラムがプロテクトされていると削除できませんのでご注意ください。
プログラム(それに必要となるインパルス応答データも含む)が削除されリストから消えます。



ただし、選択しているドライブ内に保存されている他のプログラムがこのインパルス応答データを必要としている場合は、インパルス応答データは削除されません。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

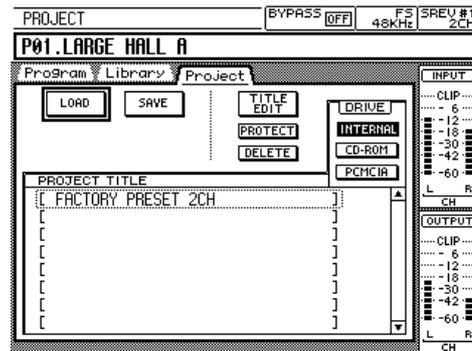
ワードクロック

I/Oオプション

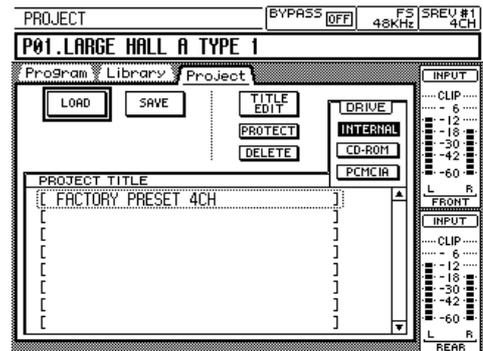
付録

プロジェクトの使い方

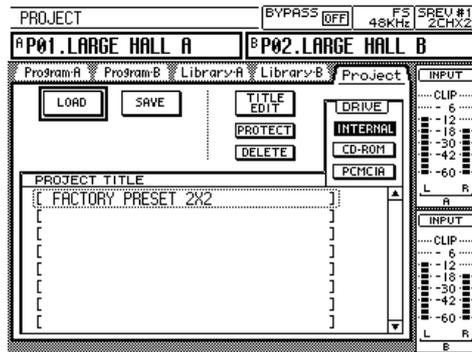
内蔵カード / CD-ROM / PCカード内のプロジェクトのロード、セーブ、タイトルエディット、プロテクト、デリートについて説明します。これらの操作はすべてProject画面で行います。選択しているプロジェクトはリスト内で点線に囲まれています。プロジェクトの詳細は7ページを参照ください。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネルx2モード

プロジェクトのロード

内蔵カード / CD-ROM / PCカード内にセーブされているプロジェクトをロードできます。

- 1 [PROGRAM] ｷｰでProject画面を表示させます。
- 2 カーソルｷｰでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER] ｷｰを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにセーブされているプロジェクトがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは [- 1/DEC] [+ 1/INC] ｷｰでリストからプロジェクトを選択します。
- 4 カーソルｷｰでLOADボタンを選択し、[ENTER] ｷｰを押します。
確認のダイアログボックスが表示されます。YESを選択してプロジェクトをロードするか、NOを選択して操作をキャンセルします。

選択しているプロジェクトに従ってプログラムがロードされます。ロード中はポップアップウィンドウが開き“LOADING PROJECT...”と表示されます。約30秒かかります。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

IOオプション

付録

- 5 プロジェクトをロードすると、最後はProgram画面に変わり、各画面のカーソル位置とタブ位置は初期化(電源オン時と同じ)されます。

プロジェクトのセーブ

クイックメモリーとカレントプログラムの設定情報をプロジェクトとして内蔵カードまたはPCカードにセーブします。

- 1 [PROGRAM]キーでProject画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプロジェクトがリスト表示されます。
- 3 カーソルキーでSAVEボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
- 4 タイトルを入力します。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。
- 5 カーソルキーでOKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。

(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し、[ENTER]キーを押してください。)

同じタイトルのプロジェクトがすでにあると、確認のダイアログボックスが表示されます。YESを選択して上書きするか、NOを選択して操作をキャンセルします。すでにあるプロジェクトがプロテクトされていると上書きができませんのでご注意ください。
クイックメモリーとカレントプログラムの設定情報が選択したドライブにセーブされます。

プロジェクトタイトルのエディット

内蔵カードまたはPCカードにセーブされているプロジェクトのタイトルを次の手順でエディットします。

- 1 [PROGRAM]キーでProject画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプロジェクトがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[-1/DEC] [+1/INC]キーでプロジェクトを選択します。
プロテクトのかかっているプロジェクトのタイトルはエディットできません。
- 4 カーソルキーでTITLE EDITボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
TITLE EDITダイアログボックスが表示されます。
- 5 タイトルをエディットします。
詳細は40ページの「TITLE EDITダイアログボックスの使い方」を参照ください。

- 6 カーソルキーでOKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
(操作をキャンセルするにはCANCELボタンを選択し[ENTER]キーを押してください。)
新しいタイトルに変更されます。

プロジェクトのプロテクト

内蔵カード、PCカードのプロジェクトを誤って上書きしないようにプロテクトをかけます。

- 1 [PROGRAM]キーでProject画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプロジェクトがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーでプロジェクトを選択します。
- 4 カーソルキーでPROTECTボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
プロテクトのアイコン(🔒)がプロジェクトタイトルの右に表示されます。
- 5 [ENTER]キーをもう一度押すとプロテクトが解除されます。
アイコンが消えます。

プロジェクトのデリート

内蔵カード、PCカードにストアされているプロジェクトをデリート(削除)します。

- 1 [PROGRAM]キーでProject画面を表示させます。
- 2 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER]キーを押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにストアされているプロジェクトがリスト表示されます。
- 3 DATAホイールまたは[- 1/DEC] [+ 1/INC]キーでプロジェクトを選択します。
- 4 カーソルキーでDELETEボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。
確認のダイアログボックスが表示されます。YESを選択してプロジェクトを削除するか、NOを選択して操作をキャンセルします。プロジェクトにプロテクトがかかっていると削除できませんのでご注意ください。
選択しているプロジェクトが削除されリストから消えます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

IOオプション

付録

プログラムのエディット

5

本章の目次

Main 1パラメーター	52
Main 2パラメーター	54
リバーブパラメーター	56
プリEQパラメーター	57
ポストEQパラメーター	59
インパルス応答データのロード	61

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

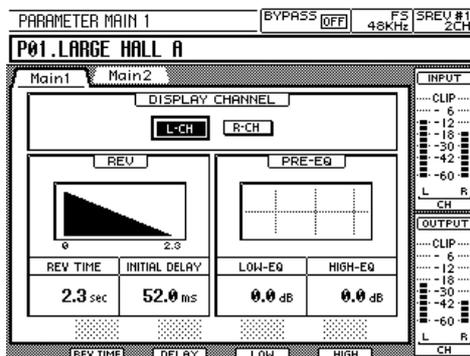
付録

Main 1パラメーター

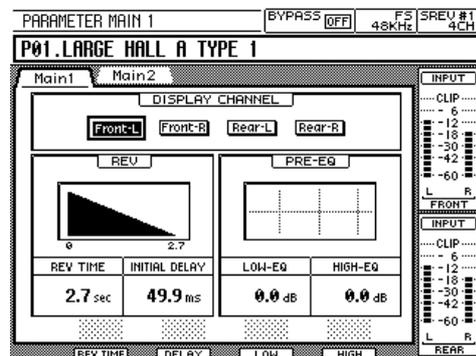
リバースタイム、初期ディレイ、プリEQのローゲイン/ハイゲインなどの基本的なパラメーターはMain 1画面で調整します。2チャンネル×2モードではMain1-AとMain1-Bの2種類の画面があります。チャンネルはグループ化されているので、例えばREV TIMEパラメーターは全チャンネルのリバースタイムを同時に調整します。ただし、2チャンネル×2モードでは2チャンネルそれぞれで調整します。チャンネルごとの調整は [PARAMETER FINE] キーで呼び出された画面で行います。詳細は56ページおよび57ページを参照ください。

グラフやパラメータ値は1チャンネル分のみ表示されます。DISPLAY CHANNEL欄にあるボタンで表示させたいチャンネルを選択します。その欄の下にはREVグラフがあり、リバースパラメーター設定をグラフ表示します。またPRE-EQグラフはプリEQ設定をグラフ表示します。Pre EQ画面(57ページ)でEQがオフになっている場合、EQグラフはグレー表示されます。

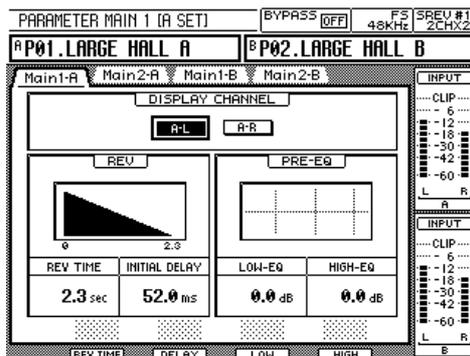
以下は各モードでのMain 1画面を示したものです。



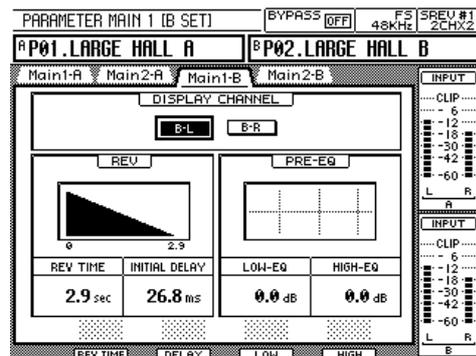
・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

- 1 [PARAMETER MAIN] キーでMain 1画面を表示させます。
- 2 カーソルキーを使用してDISPLAY CHANNEL欄の任意のチャンネルボタンを選択し、[ENTER] キーを押してそのチャンネル表示を確定します。
選択チャンネルのボタンが反転表示します。
- 3 カーソルキーでREV TIME、INITIAL DELAY、LOW-EQ、HIGH-EQのいずれかのパラメーターを選択します。
- 4 フェーダー、DATAホイール、または [-1/DEC] [+1/INC] キーでパラメーターを調整します。

パラメーターの調整範囲は次のとおりです。

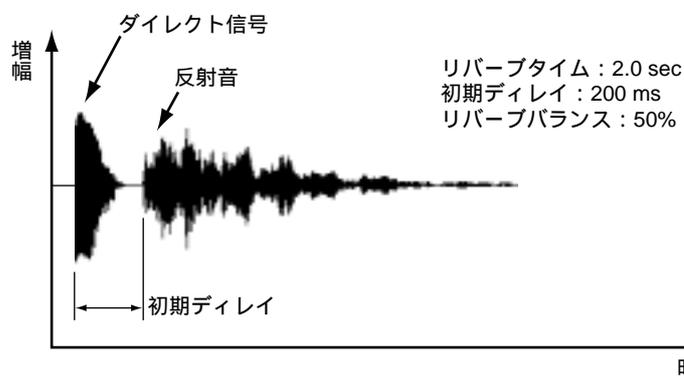
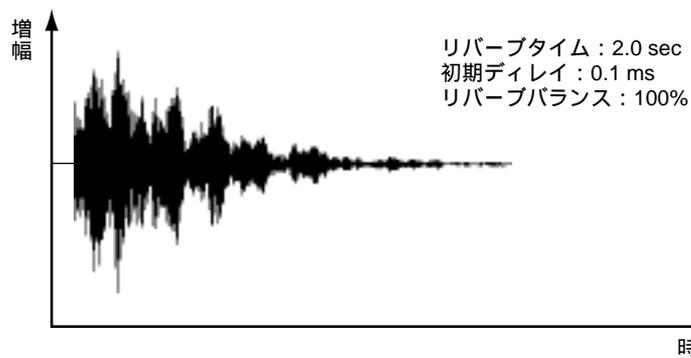
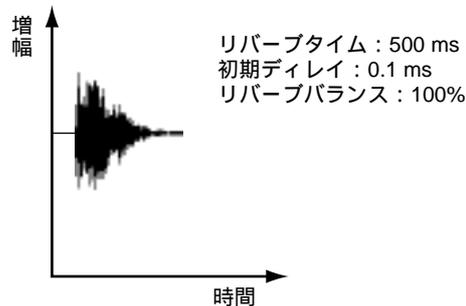
パラメーター	範囲	単位	内容
REV TIME	0.3 sec ~ *1	0.1 sec	リバーブタイム
INITIAL DELAY	0.1 ~ 500.0 ms	0.1 ms	初期ディレイ
LOW-EQ	- 18.0dB ~ + 18.0dB	0.1dB	プリEQのローバンドのゲイン
HIGH-EQ	- 18.0dB ~ + 18.0dB	0.1dB	プリEQのハイバンドのゲイン

*1. 実際の最長リバーブタイムはインパルス応答データによって異なります。



REV TIMEパラメーターの変更は瞬時でなく時間がかかります。フェーダー等の追従性や音の変化が遅くなりますのでご注意ください。

次の波形はリバーブタイムを500msおよび2.0秒に設定したスネアドラムによるリバーブです。初期ディレイは0.1ms、リバーブバランスは100%です。3番目の波形はINITIAL DELAYパラメーターを使って反射音を遅らせた場合を示しています。このリバーブタイムは2.0秒、初期ディレイは200msです(図をわかりやすくするため極端な設定にしてあります)。リバーブバランスは50%です。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

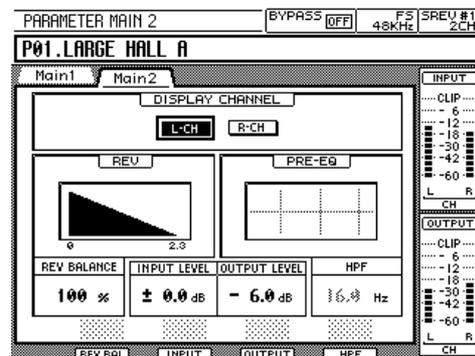
付録

Main 2パラメーター

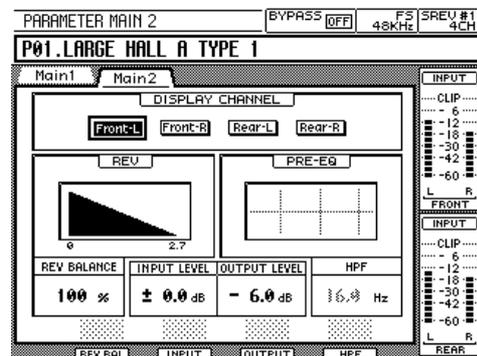
リバーブバランス、入力レベル、出力レベル、プリEQのHPF周波数などの基本的なパラメーターはMain 2画面で調整します。2チャンネル×2モードではMain2-AとMain2-Bの2種類の画面があります。チャンネルはグループ化されているので、例えばREV BALANCEパラメーターは全チャンネルのリバーブバランスを同時に調整します。ただし、2チャンネル×2モードでは2チャンネルそれぞれで調整します。チャンネルごとの調整は[PARAMETER FINE]キーで呼び出された画面で行います。詳細は56ページおよび57ページを参照ください。

グラフやパラメーター値は1チャンネル分のみ表示されます。画面のDISPLAY CHANNEL欄にあるボタンで表示させたいチャンネルを選択します。その欄の下にはREVグラフがあり、リバーブパラメーター設定をグラフ表示します。またPRE-EQグラフはプリEQ設定をグラフ表示します。Pre EQ画面でEQがオフになっている場合、EQグラフはグレー表示されます。Pre EQ画面でHPFのフィルタータイプパラメーターがTHRUになっている場合HPFの周波数値はグレー表示されます。

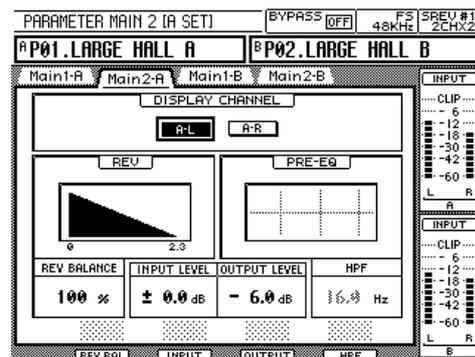
以下は各モードでのMain 2画面を示したものです。



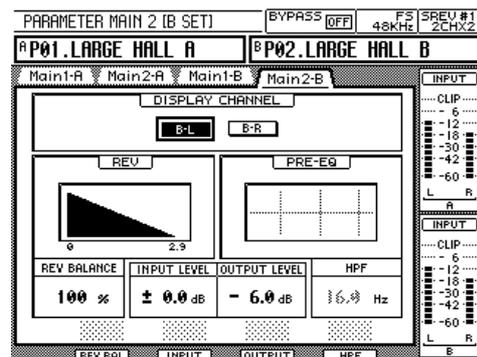
・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

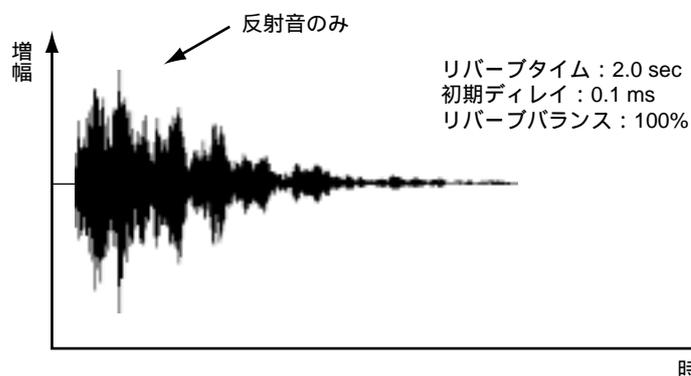
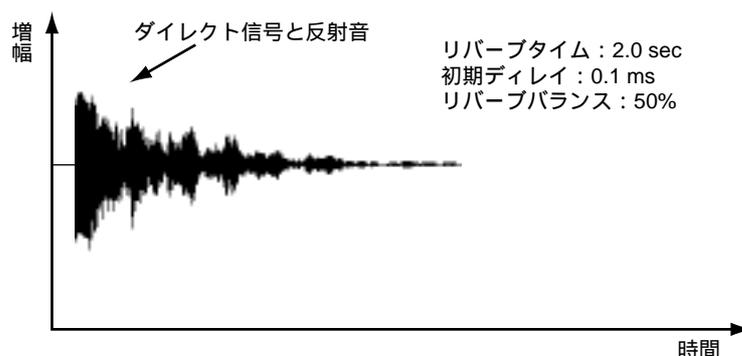
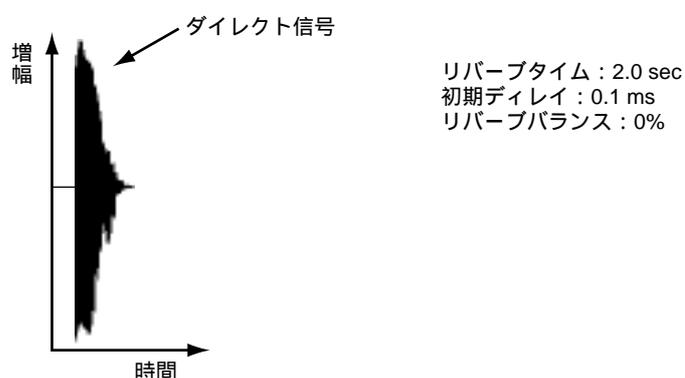
- 1 [PARAMETER MAIN]キーでMain 2画面を表示させます。
- 2 カーソルキーを使用してDISPLAY CHANNEL欄の任意のチャンネルボタンを選択し、[ENTER]キーを押してそのチャンネル表示を確定します。選択チャンネルのボタンが反転表示します。
- 3 カーソルキーでREV BALANCE、INPUT LEVEL、OUTPUT LEVEL、HPFのいずれかのパラメーターを選択します。
- 4 フェーダー、DATAホイール、または[-1/DEC] [+1/INC]キーでパラメーターを調整します。

パラメーターの調整範囲は次のとおりです。

パラメーター	範囲	単位	内容
REV BALANCE	0 ~ 100%	1%	リバーブ信号とドライ信号のバランス (0%:ドライ音のみ、100%:リバーブ音のみ)
INPUT LEVEL	- , - 72.0dB ~ + 6.0dB	0.1dB	入力レベル
OUTPUT LEVEL	- , - 72.0dB ~ + 6.0dB	0.1dB	出力レベル
HPF	16.0Hz ~ 23.6kHz	1/12 oct	プリEQ HPF周波数

リバーブバランス

以下の波形はREV BALANCEパラメーターの効果を示したものです。音源はスネアドラムです。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

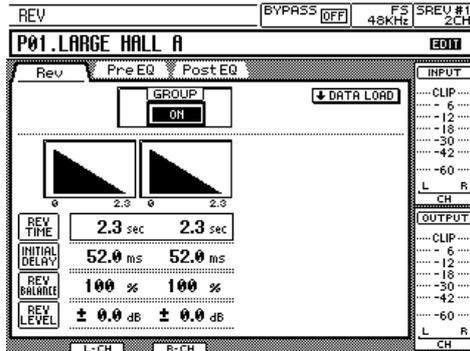
I/Oオプション

付録

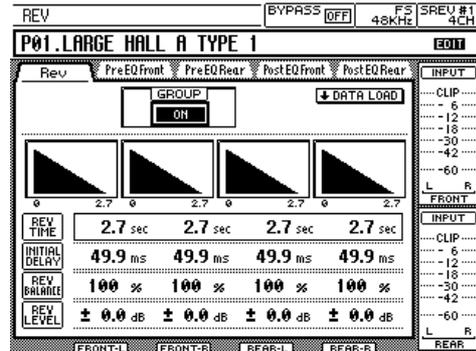
リバーブパラメーター

Rev画面ではリバーブタイム、初期ディレイ、リバーブバランス、リバーブレベルの各パラメーターをグループ化することもできますが、チャンネルごとの調整も可能です。設定は数値だけでなくグラフでも表示されます。

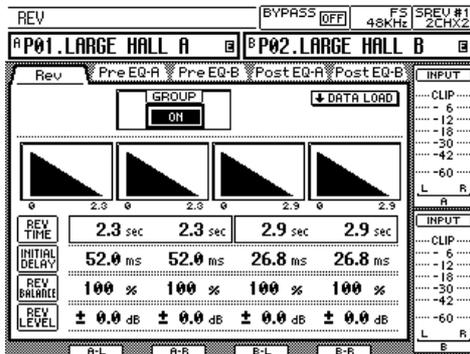
以下は各モードのRev画面を示したものです。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード

- [PARAMETER FINE] ｷｰでRev画面を表示させます。
GROUP欄のON/OFFボタンでチャンネルをグループ化させたり解除したりします。ONにすると全チャンネルが同時に調整されます。OFFにするとチャンネルごとに個別に調整できます。
- カーソルキーでREV TIME、INITIAL DELAY、REV BALANCE、REV LEVELのいずれかのパラメーターを選択します。
- フェーダー、DATAホイール、または [-1/DEC] [+1/INC] ｷｰでパラメーターを調整します。

パラメーターの調整範囲は次のとおりです。

パラメーター	範囲	単位	内容
REV TIME	0.3 sec ~ *1	0.1 sec	リバーブタイム
INITIAL DELAY	0.1 ~ 500.0 ms	0.1 ms	初期ディレイ
REV BALANCE	0 ~ 100%	1%	リバーブ信号とドライ信号のバランス (0%:ドライ音のみ, 100%:リバーブ音のみ)
REV LEVEL	- , - 72.0dB ~ + 6.0dB	0.1dB	リバーブレベル

*1. 実際の最長リバーブタイムはインパルス応答データによって異なります。

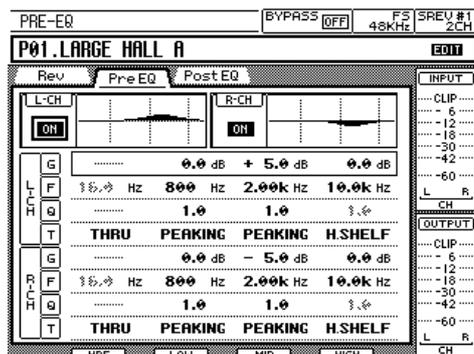


REV TIMEパラメーターの変更は瞬時でなく時間がかかります。特にチャンネルをグループ化した場合は、フェーダー等の追従性や音の変化が遅くなりますのでご注意ください。

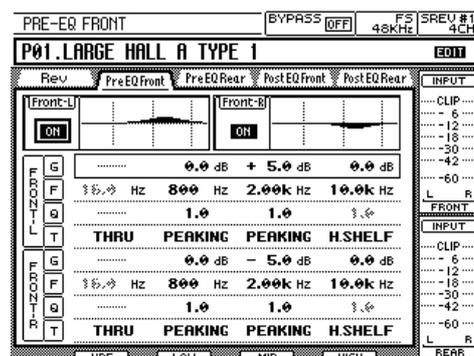
プリEQパラメーター

たたみ込み処理前のEQはHPFと完全パラメトリック3バンドEQから構成されています。Pre EQ画面ではチャンネルごとにパラメーターを調整できます。4チャンネルモードにはPre EQ FrontとPre EQ Rearの2種類の画面があります。また、2チャンネル×2モードではPre EQ-A画面およびPre EQ-B画面があります。EQ設定は数値だけでなくグラフでも表示されます。使っていないパラメーターはグレー表示されます。例えばHIGHバンドがH.SHELFの場合、Qの値は使用しないのでグレー表示されます。

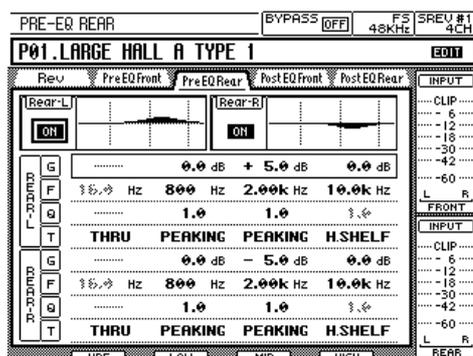
以下は各モードのPre EQ画面を示したものです。



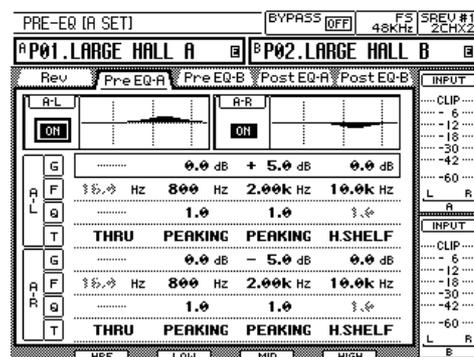
・2チャンネルモード



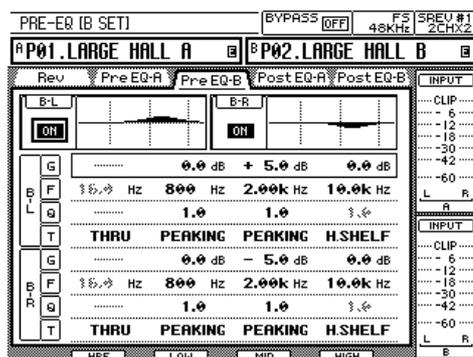
・4チャンネルモード Front



・4チャンネルモード Rear



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

ロー / ハイバンドのゲインはMain 1画面でも調整できます(52ページ参照)。同様にHPFの周波数もMain 2画面(54ページ参照)で調整できます。ただしこれらの画面ではチャンネルがグループ化されています。

はじめに
SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムのエディット
複数台のシステム
MIDI
ワードロック
IOオプション
付録

- 1 [PARAMETER FINE] ｷｰでPre EQ画面を表示させます。
各EQグラフの横にあるON/OFFボタンでチャンネルごとにPre EQをオン/オフします。Main 1画面のLow-EQとHigh-EQパラメーターも同時にオン/オフされますのでご注意ください。
- 2 カーソルｷｰでG(ゲイン)、F(フリケンシー)、Q(幅)、T(フィルタータイプ)のいずれかのパラメーターを選択します。
- 3 フェーダー、DATAホイール、または[- 1/DEC] [+ 1/INC] ｷｰでパラメーターを調整します。

パラメーターの調整範囲は次のとおりです。

パラメーター	HPF	LOW ¹	MID ²	HIGH ³
Gain(G)		- 18dB ~ + 18dB(0.1dB単位)		
Frequency(F)		16.0Hz - 23.6kHz(1/12 oct単位)		
Q		10.0 - 0.10		
Filter Type(T)	HPF、THRU ⁴	PEAKING、 L.SHELF	PEAKING	PEAKING H.SHELF、LPF、 THRU ⁵

1. ピーキングEQ (10 ~ 0.10)、またはローシェルフEQ (L.SHELF)として使用可能。
2. ピーキングEQ
3. ピーキングEQ (10 ~ 0.10)、ハイシェルフEQ (H.SHELF)、またはローパスフィルター (LPF)として使用可能。
4. THRUに設定時はハイパスフィルター (HPF)はバイパスされます。
5. THRUに設定時はHIGHバンドはバイパスされます。



HPFがTHRUに設定されているとMain 2画面のHPFパラメーターは動作しません。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

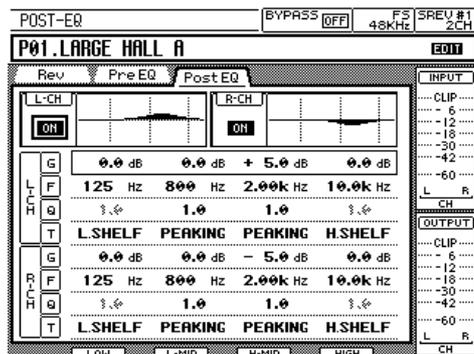
I/Oオプション

付録

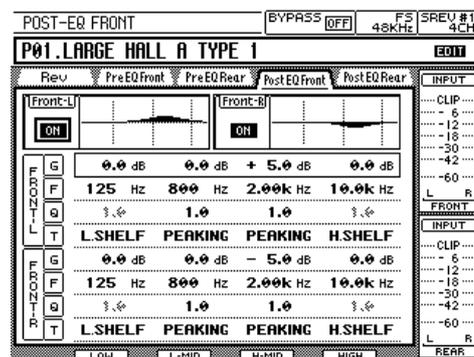
ポストEQパラメーター

たたみ込み処理後のEQは完全パラメトリック4バンドEQで構成されています。Post EQ画面ではチャンネルごとにパラメーターを調整できます。4チャンネルモードにはPost EQ FrontとPost EQ Rearの2種類の画面があります。また2チャンネル×2モードではPost EQ-A画面およびPost EQ-B画面があります。EQ設定は数値だけでなくグラフでも表示されます。使っていないパラメーターはグレー表示されます。例えばHIGHバンドがH.SHELFの場合、Qの値は使用しないのでグレー表示されます。

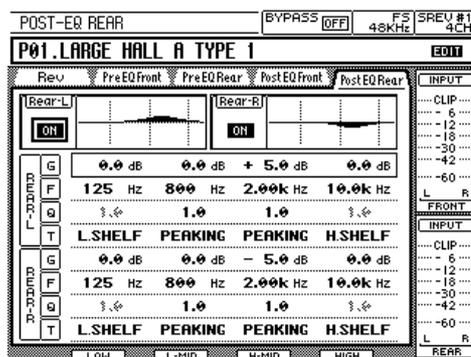
以下は各モードのPost EQ画面を示したものです。



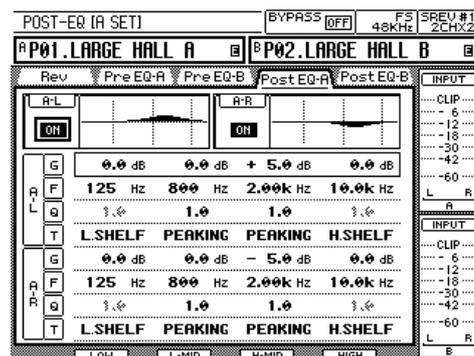
・2チャンネルモード



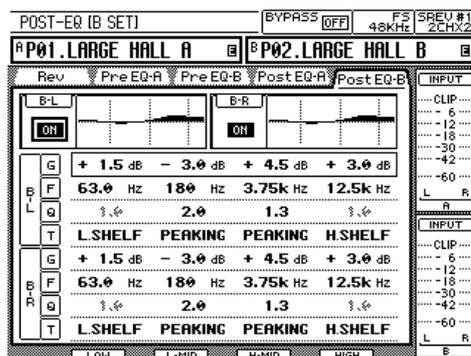
・4チャンネルモード Front



・4チャンネルモード Rear



・2チャンネル×2モード A



・2チャンネル×2モード B

- 1 [PARAMETER FINE] 并ーでPost EQ画面を表示させます。
各EQグラフの横にあるON/OFFボタンでチャンネルごとにPost EQをオン/オフします。
- 2 カーソルキーで(G ゲイン) (F フリケンシー) (Q 幅) (T フィルタータイプ) のいずれかのパラメーターを選択します。

はじめに
SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムの
エディット
複数台の
システム
MIDI
ワードロック
I/Oオプション
付録

3 フェーダー、DATAホイール、または [- 1/DEC] [+ 1/INC] 弁でパラメーターを調整します。

パラメーターの調整範囲は次のとおりです。

パラメーター	LOW ¹	L-MID ²	H-MID ³	HIGH ⁴
Gain (G)	- 18dB ~ + 18dB (0.1dB単位)			
Frequency (F)	16.0Hz - 23.6kHz (1/12 oct単位)			
Q	10.0 - 0.10			
Filter Type (T)	PEAKING L.SHELF、HPF、 THRU ⁵	PEAKING	PEAKING	PEAKING H.SHELF、LPF、 THRU ⁶

1. ピーキングEQ (10 ~ 0.10)、ローシェルフEQ (L.SHELF) またはハイパスフィルター (HPF) として使用可能。
2. ピーキングEQ
3. ピーキングEQ
4. ピーキングEQ (10 ~ 0.10)、ハイシェルフEQ (H.SHELF) またはローパスフィルター (LPF) として使用可能。
5. THRUに設定時はLOWバンドはバイパスされます。
6. THRUに設定時はHIGHバンドはバイパスされます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

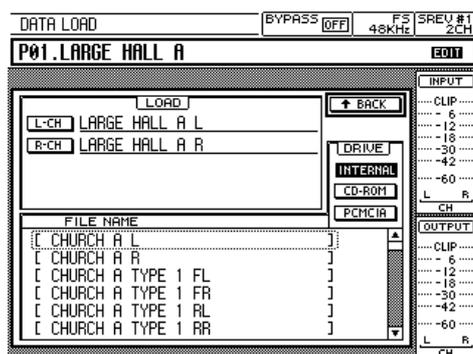
付録

インパルス応答データのロード

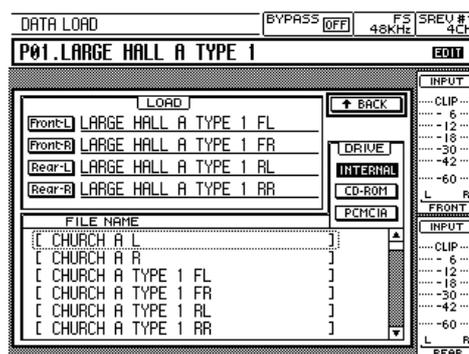
カレントプログラムのチャンネルごとのインパルス応答データを内蔵カード/CD-ROMドライブ/PCカードからロードする方法を説明します。ロードできるインパルス応答データのフォーマットはTM4、TMCです。詳細は9ページの「ファイルの種類」を参照ください。インパルス応答ファイルリストでは選択されたファイルが波線で囲まれ表示されます。プロテクトがかかっているファイルの右にはプロテクトアイコン (P)が表示されます。

画面内DRIVE欄のINTERNALは内蔵カード、CD-ROMはCD-ROM、PCMCIAはPCカードを指しています。

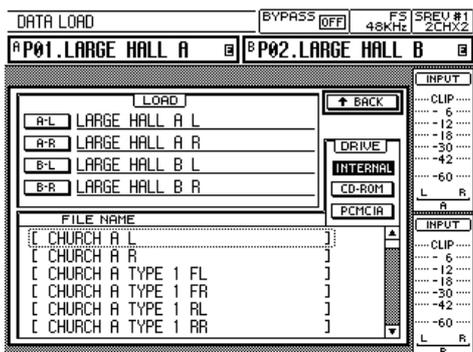
以下は各モードのDATA LOAD画面です。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネルx2モード

- 1 [PARAMETER FINE] 枠でRev画面を表示します。
- 2 DATA LOADボタンを選択し、[ENTER] 枠を押します。
Data Load画面が表示されます。
- 3 カーソルキーでDRIVE欄のボタンを選択し、[ENTER] 枠を押して選択ドライブを反転表示にします。
選択したドライブにセーブされているインパルス応答データがリスト表示されます。
- 4 DATAホイールまたは[-1/DEC] [+1/INC] 枠でリストからファイルを選択します。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

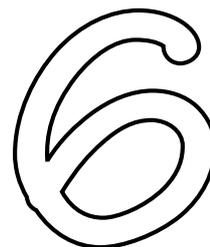
ワードクロック

I/Oオプション

付録

はじめに	<p>5 インパルス応答データのロード先のチャンネルをカーソルキーで選択し、[ENTER]キーを押します。</p> <p>警告メッセージが表示されます。YESを選択してファイルをロードするかNOを選択して操作をキャンセルします。</p> <p>選択したインパルス応答データがロードされます。</p>
SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能	<p>6 Rev画面に戻るにはBACKボタンを選択し、[ENTER]キーを押します。</p> <p>Rev画面が表示されます。</p>
操作前の準備	
基本操作	
プログラムのエディット	
複数台のシステム	
MIDI	
ワードクロック	
I/Oオプション	
付録	

複数台のシステム



本章の目次

複数台のSREV1を使ったシステムについて	64
接続方法	64
複数台のSREV1とRC-SREV1の接続	64
RC-SREV1からのSREV1の選択	65

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

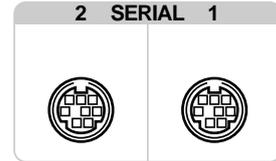
付録

複数台のSREV1を使ったシステムについて

最大4台までのSREV1を1台のRC-SREV1でコントロールできます。

接続方法

複数台のSREV1をSERIAL端子を使いデジチェーン接続します。お近くのヤマハ販売店で入手できるシリアルケーブルをお使いください。



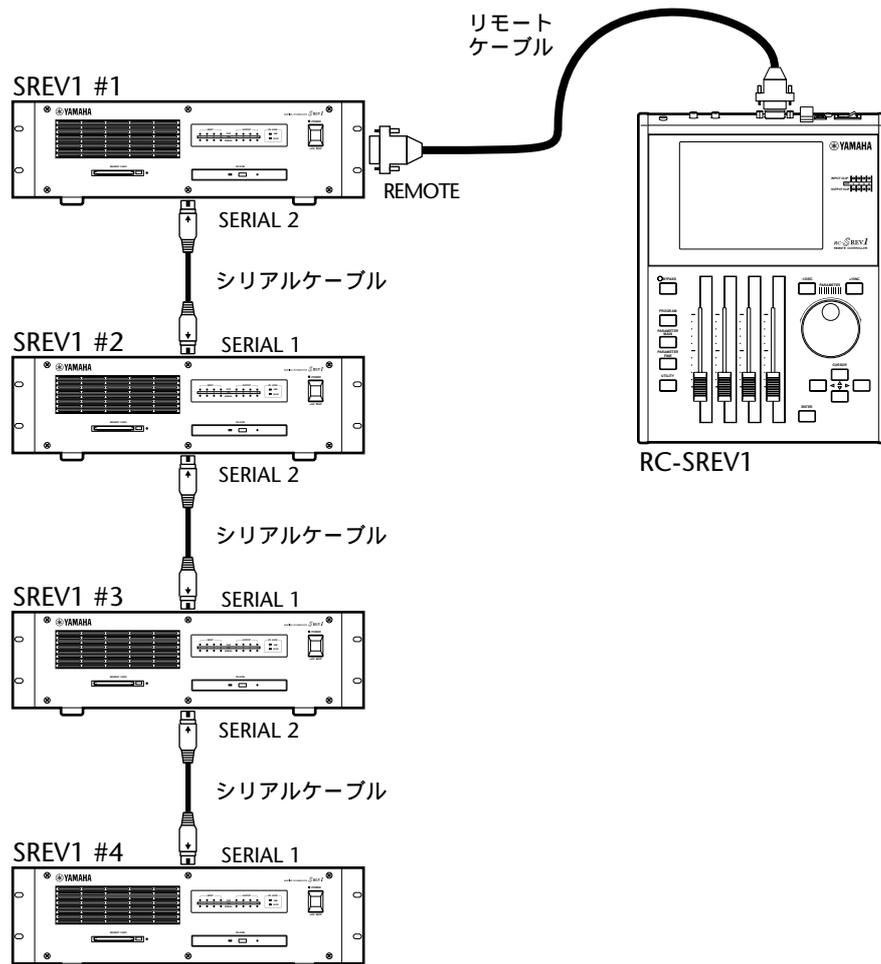
複数台のSREV1とRC-SREV1の接続

以下は最大4台までのSREV1をデジチェーン接続しRC-SREV1からコントロールする接続例です。RC-SREV1に接続したSREV1は自動的にID #1となり、その他のユニットは接続順に番号が付きまます。

RC-SREV1は1台目となるSREV1に接続してください。

シリアルケーブルで各SREV1を接続し、それぞれSREV1の電源を入れた後でRC-SREV1の電源を入れてください。

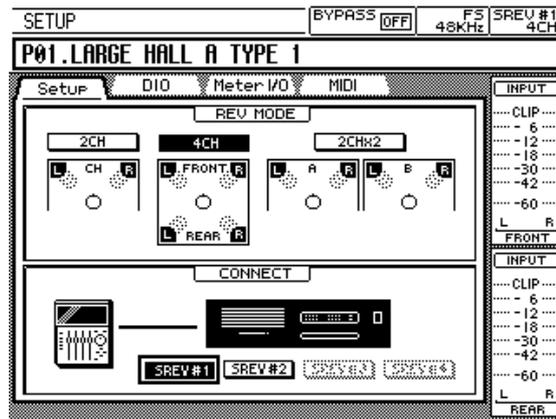
操作中にシリアルケーブルを抜き差ししないでください。2台目以降のSREV1の電源をオフにしないでください。



RC-SREV1からのSREV1の選択

ここではRC-SREV1からコントロールするSREV1を選ぶ方法を説明します。

- 1 [UTILITY]キーで以下のSetup画面を表示させます。



- 2 CONNECT欄でカーソルキーを使ってSREV #1、SREV #2、SREV #3、SREV #4のいずれかを選択します。
選択したユニットのボタンが反転表示します。接続されていないユニットはグレー表示されます。
- 3 [ENTER]キーを押します。
確認のメッセージが表示されます。
- 4 YESを選択して続行するか、NOを選択して操作をキャンセルします。
- 5 [ENTER]キーを押します。
選択したユニットからリモートコントローラー側にリバースモードやワードクロックソースなどのシステム情報が送られ、画面が更新されます。画面右上には選択したSREV1の番号が表示されます(18ページ参照)。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

MIDI



本章の目次

MIDIとSREV1	68
MIDI端子	68
MIDI画面	69
MIDI受信チャンネルの設定	69
クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て	70
パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て	71

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

MIDIとSREV1

本機は次のMIDIメッセージに対応します。

- ・ プログラムチェンジによるクイックメモリー内の最大12までのプログラムの呼び出し
- ・ コントロールチェンジによるリバーブバランス、リバーブレベルパラメーターのコントロール

RC-SREV1上でこれらの動作を行うときはMIDIメッセージは送信されません。

クイックメモリーをMIDIプログラムチェンジに割り当て、他のMIDI機器から呼び出すことができます。プログラムチェンジメッセージを受信すると、割り当てられているクイックメモリー内のプログラムが呼び出されます。詳細は70ページの「クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て」を参照ください。

各チャンネルのリバーブバランス、リバーブレベルのパラメーターはMIDIコントロールチェンジに割り当て、他のMIDI機器からコントロールすることができます。コントロールチェンジメッセージを受信すると、割り当てられたパラメーターがコントロールされます。詳細は71ページの「パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」を参照ください。

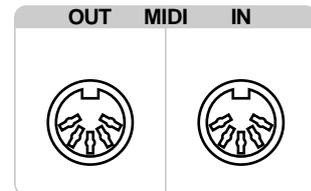
プログラムチェンジとコントロールチェンジは任意のMIDIチャンネル1～16で受信でき、2チャンネル×2モードではA、Bごとに別々のMIDIチャンネルが設定できます。詳細は69ページの「MIDI受信チャンネルの設定」を参照ください。



MIDIメッセージによるコントロールと、RC-SREV1からのコントロールを同時使用しないでください。

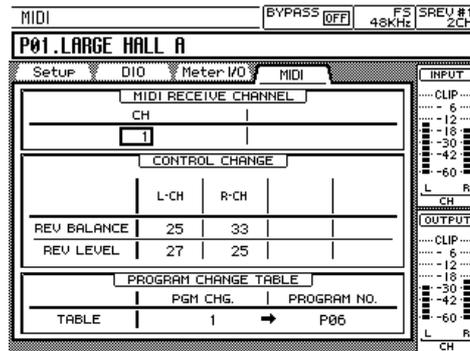
MIDI端子

MIDI IN/OUT端子でMIDIメッセージを送受信します。MIDI IN端子は受信のみですが、現在MIDI OUT端子はMIDI IN端子で受信したMIDIメッセージをそのまま送信します。通常のMIDI THRU端子と同様の機能です。

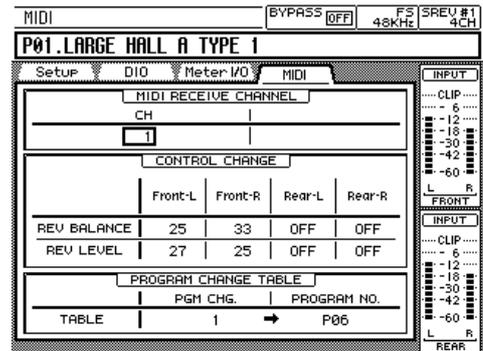


MIDI画面

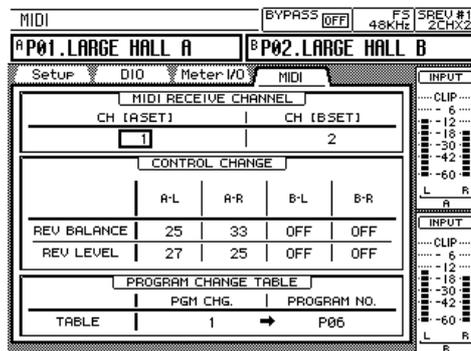
以下のMIDI画面でMIDIの各設定を行います。



・2チャンネルモード



・4チャンネルモード



・2チャンネル×2モード

MIDI受信チャンネルの設定

MIDIプログラムチェンジ/コントロールチェンジメッセージを受信するMIDIチャンネルはMIDI画面で設定します。2チャンネル×2モードではAとBの2種類のMIDIチャンネル設定画面があります。

- 1 [UTILITY] 鍵でMIDI画面を表示します。
- 2 MIDI RECEIVE CHANNEL欄でカーソルキーを使ってCH(チャンネル)パラメーターを選択します。
- 3 DATAホイールまたは[-1/DEC][+1/INC] 鍵で任意のMIDIチャンネル1~16、またはOFFを選択します。

OFFを選択するとMIDIメッセージを受信しても無視します。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

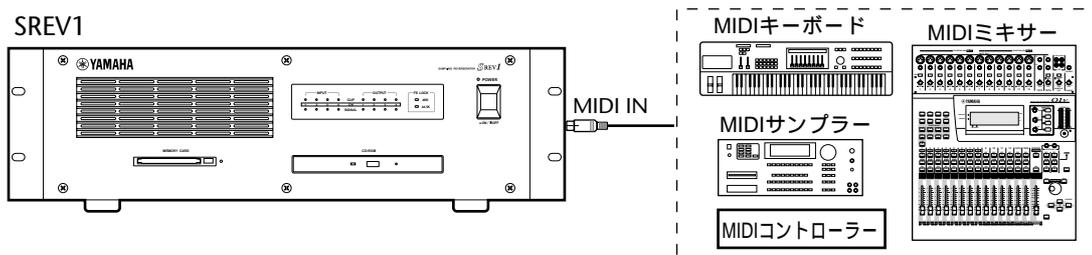
クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て

クイックメモリーのプログラムP01～P06(2チャンネルモード、4チャンネルモード) \ P01～12(2チャンネル×2モード)はプログラムチェンジ1～128に割り当てできます。

- 1 [UTILITY] 枠でMIDI画面を表示します。
- 2 PROGRAM CHANGE TABLE欄でカーソルキーを使ってPGM CHG.パラメータを選択します。
- 3 DATAホイールまたは[- 1/DEC][+ 1/INC] 枠で1～128までの任意のプログラムチェンジをクイックメモリープログラムに割り当てます。
- 4 PROGRAM CHANGE TABLE欄でカーソルキーを使ってPROGRAM NO.パラメータを選択します。
- 5 DATAホイールまたは[- 1/DEC][+ 1/INC] 枠で任意のクイックメモリープログラムP01～P12を選択します。割り当てない場合は“ --- ”を選択します、クイックメモリープログラムのP07～P12は2チャンネル×2モード時のみ割り当て可能で、2チャンネル×2モードでのみ使用できます。2チャンネルモードと4チャンネルモードではクイックメモリーのプログラムP07～P12の割り当ては無視されます。

プログラムチェンジメッセージを受信すると、割り当てられたクイックメモリーにストアされたプログラム(それに必要なインパルス応答データを含む)が呼び出されます。プログラムナンバーとタイトルが表示され、EDITインジケータが表示されている場合は消えます。

次の図はプログラムチェンジメッセージでSREV1のクイックメモリープログラムが呼び出せるMIDI機器を示したものです。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て

各チャンネルのリバーブバランス、リバーブレベルのパラメーターを任意のコントロールチェンジ0～95に割り当てます。

- 1 [UTILITY]キーでMIDI画面を表示します。
- 2 CONTROL CHANGE欄でカーソルキーを使ってREV BALANCE、REV LEVELのいずれを割り当てるかを選択します。

2チャンネルモードではL-CH、R-CH、4チャンネルモードではフロントL、フロントR、リアL、リアR、2チャンネル×2モードではA-L、A-R、B-L、B-Rの割り当てができます。

- 3 DATAホイールまたは [- 1/DEC] [+ 1/INC]キーでOFF、0～95までのコントロールチェンジを割り当てます。

コントロールチェンジメッセージを受信すると割り当てられたパラメーターがコントロールされます。Rev画面が選ばれていれば更新されたパラメーター値を見ることができます。パラメーターが現在選択されているパラメーターであれば該当フェーダーが同様に動きます。

同じコントロールチェンジが複数のパラメーターに割り当てられていると、そのコントロールチェンジを受信したときに、割り当てられているパラメーターすべてをコントロールできます。

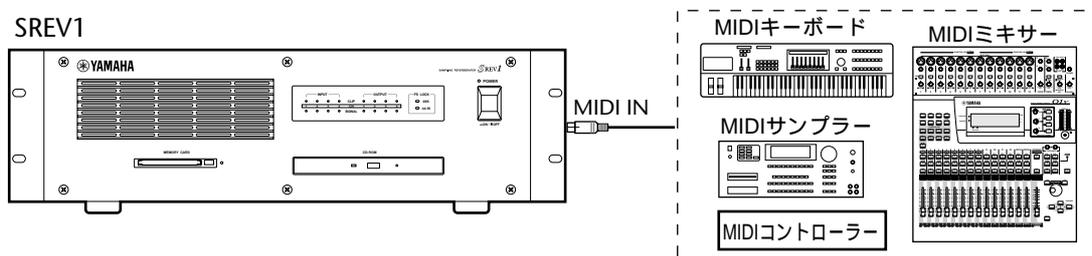
コントロールチェンジはチャンネル個々に割り当てられRev画面のGROUPボタンには影響されません。グループになっているチャンネルは割り当てられたチャンネルのみがコントロールチェンジメッセージ受信時にコントロールされます。



[PARAMETER FINE]キーで呼び出された画面では、コントロールチェンジを受信すると、対応したフェーダーが動き、数値も変化し、グラフも変化し、“EDIT”インジケータが点灯します。

[PARAMETER MAIN]キーで呼び出された画面では、“EDIT”インジケータが点灯するのみです。対応する数値、フェーダー、グラフ共に変化はしません。別の画面に切り替えてから再度呼び出した画面に戻ると、対応する数値、フェーダー、グラフは正しく表示されるようになります。

次の図はコントロールチェンジメッセージでSREV1のパラメーターをコントロールできるMIDI機器を示したものです。



はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

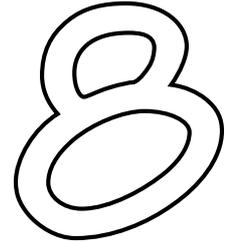
MIDI

ワードクロック

IOオプション

付録

ワードクロック



本章の目次

ワードクロックとSREV1	74
ワードクロック接続	74
ワードクロックソースの選択	75
ワードクロック接続例	78

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

ワードクロックとSREV1

デジタルオーディオ機器はアナログオーディオ機器とは異なり、デジタルオーディオを機器間で転送するときには必ず同期させる必要があります。これを行わないと、データが正しく受信されなかったり、耳でもわかるようなノイズが生じたりします。このデジタル機器の同期には「ワードクロック」と呼ばれる信号を使用します。これはシステム内のデジタルオーディオ信号をすべて同期させるクロック信号です。ワードクロックの同期とは、テープデッキやMIDIシーケンサーなどの同期に使われる SMPTE/EBUタイムコードやMIDIタイムコードとは異なり、各オーディオ機器内でデジタルオーディオを処理する回路がお互いに同期した状態を指します。

一般的には、1台のデジタルオーディオ機器がワードクロックのマスターとなり、その他の機器がスレーブとなってワードクロックマスターに同期します。ワードクロック信号はBNCケーブルなど専用のケーブルで分配したり、AES/EBUなどのデジタルオーディオ接続によって受信します。

アナログ入出力だけを使用してSREV1に接続している場合は特別なワードクロック設定は不要で、SREV1を内部ワードクロックに設定します。ところが他の機器とデジタル接続を行うと、まずどの機器をワードクロックのマスター、スレーブにするかを決定する必要があります。

SREV1を48kHzのワードクロックマスターとして使用したり、周波数が44.1kHzまたは48kHzの外部ワードクロックソースに対しスレーブとして同期させることもできます。外部ワードクロックはAES/EBU入力、SLOT入力、またはBNC WORD CLOCK IN端子から受信します。

各機器で同一のワードクロックを共有するシステムでは、たとえ使用しない機器があっても、必ずすべての機器の電源をオンにすることが必要です。ワードクロックマスター機器の電源を最初に入れ、次にスレーブ機器の電源を入れます。電源を切るときは逆にスレーブ機器から順に電源を切ってください。使用前にワードクロックスレーブ機器がマスター機器にロックしていることを確認してください。大半の機器では、SREV1のFS LOCKインジケータのようにワードクロックにロックしているかを表示するインジケータがフロントパネルにあります。詳細はそれぞれの機器の取扱説明書を参照ください。

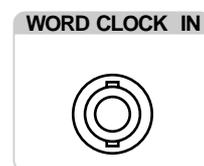
ワードクロックソースを変更するときは、万が一機器のロックが外れてノイズが出てしまう場合に備え、パワーアンプやシステムの音量を下げてください。

ワードクロック接続

WORD CLOCK IN端子(BNC)で他のデジタルオーディオ機器からのワードクロック信号を受信します。ワードクロックソースをWCLK INに設定すると、SREV1はWORD CLOCK IN端子で受信したワードクロック信号にロックします。

詳細は78ページの「ワードクロック接続例」を参照ください。

WORD CLOCK IN端子は自動終端されています。



外部ワードクロック信号はAES/EBU入力またはデジタルI/Oカードのスロット入力からも受信可能。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

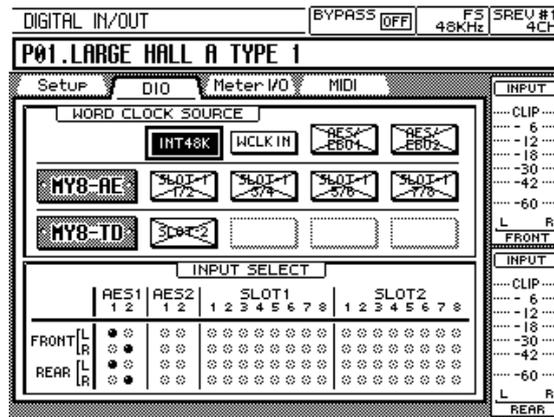
I/Oオプション

付録

ワードクロックソースの選択

注意 ワードクロックマスター機器でワードクロックソースを変更すると、特にMY8-AT I/Oカード装着時などに本機の出力からノイズが生じることがあり接続スピーカーを損傷する恐れがあります。ワードクロックソースを変更するときは、あらかじめパワーアンプの音量を下げてから行ってください。

1 [UTILITY]キーで以下のDIO画面を表示します。

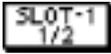


2 カーソルキーでソースを選択します。

現在選択されているソースのボタンが反転表示します。

以下のワードクロックソースが選択できます。

状態	ソース	内容
常に使用可能	INT 48K	内部48kHzワードクロック(初期設定)
ロックできる外部ワードクロックが入っている場合	WCLK IN	外部ワードクロック(BNC WORD CLOCK IN経由)
	AES/EBU1	外部ワードクロック(AES/EBU IN 1)
	AES/EBU2	外部ワードクロック(AES/EBU IN 2)
AES/EBU I/Oカード搭載(MY8-AE)ロックできるワードクロックが入っている場合	SLOT x 1/2	外部ワードクロック(slot x, 入力ペア1/2経由)
	SLOT x 3/4	外部ワードクロック(slot x, 入力ペア3/4経由)
	SLOT x 5/6	外部ワードクロック(slot x, 入力ペア5/6経由)
	SLOT x 7/8	外部ワードクロック(slot x, 入力ペア7/8経由)
ADATまたはTascam I/Oカード搭載(MY8-AT, MY8-TD)ロックできるワードクロックが入っている場合	SLOT x	外部ワードクロック(slot x経由)

 ワードクロック信号にロックしていて、かつ同期がとれていることを示します。このソースは選択できます。

 ワードクロック信号にロックしていますが、同期はとれていないことを示します。このソースは選択できます。

 ワードクロック信号がありません。このソースは選択できません。

 選択ソースが反転表示されます。

はじめに

SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムのエディット

複数台のシステム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

3 [ENTER] 押して選択ソースを有効にします。

ソースのワードクロック信号が使用できるかがチェックされ、適切な信号があればロックし、該当するFS LOCKインジケータ(44.1kHzまたは48kHz)が点灯します。

使用できるワードクロック信号が検出できないと、SREV1は作動せず、次の表のようにFS LOCKインジケータが点滅します。この場合は別のワードクロックソースを選択するか、該当の外部ワードクロックソースを修正してください。すでに選択されている外部ワードクロックソースの接続が切れていたり、そのソース機器の電源が切れていたり、あるいは外部ワードクロックが48kHzでも44.1kHzでもない場合にも、同様の症状が起こります。

以下の表はSREV1が内部あるいは外部のワードクロックに同期またはロックしたときのインジケータの状態です。

状態	ワードクロックソースボタン	FS LOCKインジケータ	RC-SREV1 FSステータスインジケータ
内部ワードクロック ロック = 同期 =		FS LOCK ● 48K ○ 44.1K	
外部ワードクロック ロック = 同期 =		FS LOCK ○ 48K ● 44.1K	

以下の表はワードクロックがロックしていく移行状態を説明しています。

ステップ	状態	ワードクロックソースボタン	FS LOCKインジケータ	RC-SREV1 FSステータスインジケータ	ノート
1	ロック = x 同期 = x		FS LOCK ● 48K ● 44.1K 二つ同時に点滅		外部ソースが接続されていないなど、SREV1は無音状態
2	ロック = 同期 = x		FS LOCK ● 48K ○ 44.1K 交互に点滅		外部ソースが接続されて0.5 ~ 1秒後、SREV1はロック、しかしまだ無音状態
3	ロック = 同期 = x		FS LOCK ○ 48K ● 44.1K		更に0.5 ~ 1秒後ワードクロックが確認されSREV1は無音状態解除される
4	ロック = 同期 =		FS LOCK ○ 48K ● 44.1K		更に2 ~ 3秒後同期が確認されSREV1は使用可能になる

外部ワードクロックが44.1kHzでも48kHzでも無い場合(たとえば、32kHz)ステップ2で停止してSREV1は無音状態のままになります。

以下の表はワードクロックがロックからアンロックに切り替わる状態を説明しています。

ステップ	状態	ワードクロック ソースボタン	FS LOCK インジケータ	RC-SREV1 FSステ ータスインジケータ	ノート
1	ロック = 同期 =				通常の状態
2	ロック = x 同期 = x		 二つ同時に点滅		外部ソースの接続が外れたなど、SREV1は無音状態

INT48K と **WCLK IN** は、ロック、同期の区別はなく、常に斜線の入らない状態で表示されま
す。**WCLK IN** のロック、アンロックは、SREV1のFS LOCKインジケータ、あるいはRC-
SREV1のFSステータスインジケータで確認します。

前回に選択されていたワードクロックソースが、I/Oカードを取り外したなどのた
めに使用不可になった場合、 の表示になります。この場合は、他の選択可能なワ
ードクロックソースに切り替えてからお使いください。

はじめに
SREV1、RC-SREV1 の各部の名称と機能
操作前の準備
基本操作
プログラムの エディット
複数台の システム
MIDI
ワードクロック
I/Oオプション
付録

ワードクロック接続例

以下は外部ワードクロックをAES/EBU入力、スロット入力、WORD CLOCK IN端子経由でSREV1に送信する例です。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

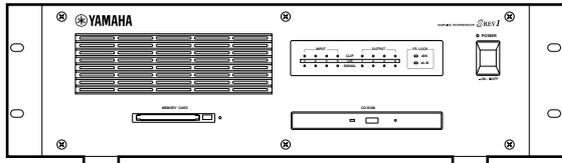
ワードクロック

I/Oオプション

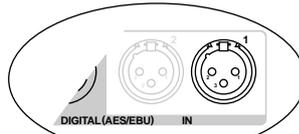
付録

①

SREV1

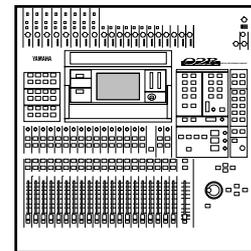


ワードクロックソース設定 : AES/EBU 1



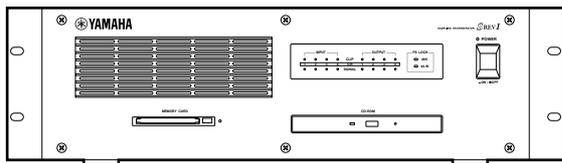
ワードクロックソース

デジタルミキサー

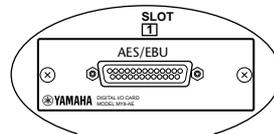


②

SREV1

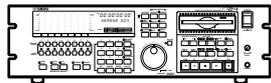


ワードクロックソース設定 : SLOT1 1/2



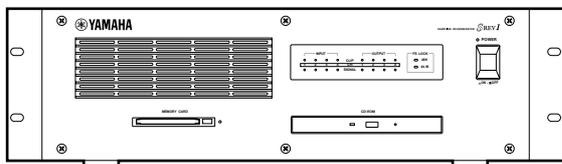
ワードクロックマスター

デジタルマルチトラックレコーダー



③

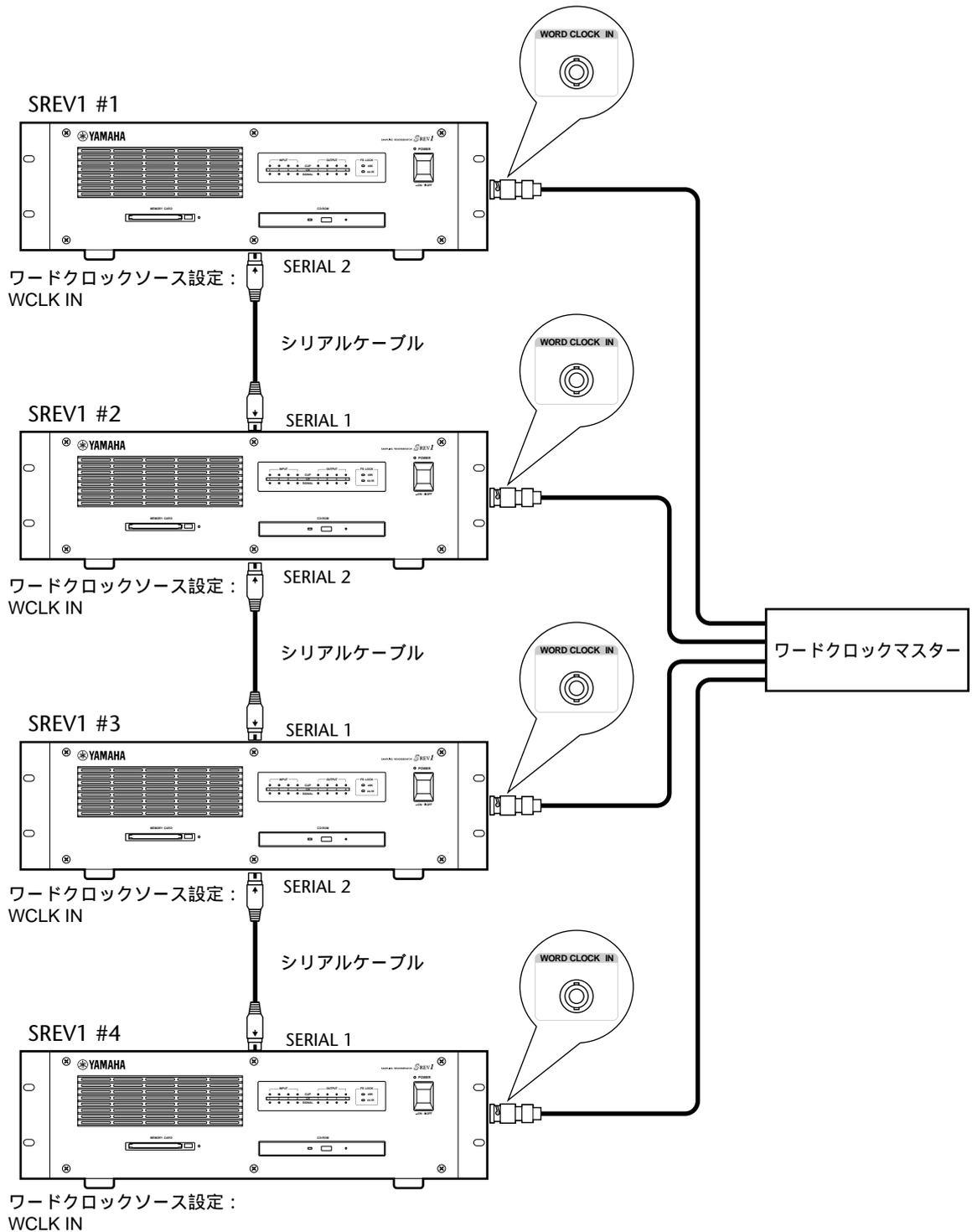
SREV1



ワードクロックソース設定 : WCLK IN



以下はBNC同軸ケーブルを使って複数台のSREV1システムでワードクロック信号を分岐する接続例です。



はじめに

SREV1、RC-SREV1
 の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
 エディット

複数台の
 システム

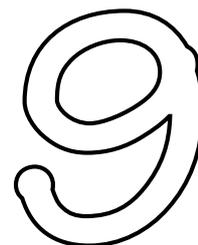
MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

I/Oオプション



本章の目次

I/OオプションとSREV1	82
使用できるI/Oカード	82
I/Oカードの選択	83
I/Oカードの装着	84

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

I/OオプションとSREV1

本機には2系統のAES/EBU入出力に加え別売のI/Oカード用に2つのmini YGDAI (Yamaha General Digital Audio Interface) スロットがあり、AES/EBU、ADAT、Tascamなどデジタルオーディオの代表的なフォーマットをサポートするデジタル、アナログ/I/OインターフェースやアナログのI/Oオプションを可能にします。

ヤマハ オーディオワークステーションAW4416、デジタルミキシングコンソール01V、デジタルMTR D24、デジタルミキシングエンジンDME32、ADコンバーターAD824、DAコンバーター DA824でもmini YGDAI I/Oカードを使用します。なお、ヤマハ デジタルレコーディングコンソール02Rおよびデジタルミキシングコンソール03Dで使用しているYGDAI カードの CD シリーズはmini YGDAIカードとの互換性がありませんのでご注意ください。

スロット入力はSREV1のチャンネルに自由に割り当てできます。詳細は33ページの「入力の割り当て」を参照ください。チャンネルとスロット出力の割り当ては固定しています。詳細は9ページの「出力割り当て」を参照ください。

使用できるI/Oカード

下記のmini YGDAIカードが現在発売されていますが、新製品などのmini YGDAIカードに関する最新の情報はヤマハホームページをご覧ください。

< <http://www.yamaha.co.jp/product/proaudio/> >

MY8-AD 8アナログ入力

8チャンネルのアナログ入力カードです。8個のバランス型フォーン端子と20ビット・128倍オーバーサンプリングADコンバーターを備えています。

MY4-AD 4アナログ入力

4チャンネルのアナログ入力カードです。4個のバランス型XLRメス端子と24ビット・128倍オーバーサンプリングADコンバーターを備えています。

MY4-DA 4アナログ出力

4チャンネルのアナログ出力カードです。4個のバランス型XLRオス端子と20ビット・128倍オーバーサンプリングDAコンバーターを備えています。

MY8-AT ADAT

ADATフォーマットのデジタル入出力カードです。2つのマルチチャンネルオプティカルデジタルインターフェースコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。

MY8-AE AES/EBU

AES/EBUフォーマットのデジタル入出力カードです。25ピンD-subコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。

MY8-TD Tascam

Tascamフォーマットのデジタル入出力カードです。25ピンD-subコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。ワードクロック出力用にBNCコネクタも装備しています。

MY8-TDカードには、接続機器を選択するスイッチ(EXT:88/INT:38)があります。そのカードをTascam DA-88と接続するときには「EXT:88」に、DA-38あるいはその他の機器のときは「INT:38」にそれぞれ設定してください。

下記は現在発売されているI/Oカードの仕様です。

カード	フォーマット	入力	出力	A/D	D/A	ワード長	端子
MY8-AD	アナログ入力	8		20ビット、 128倍			フォーン端子 (バランス型)×8
MY4-AD	アナログ入力	4		24ビット、 128倍			XLR-3-31端子 (バランス型)×4
MY4-DA	アナログ出力		4		20ビット、 128倍		XLR-3-32端子 (バランス型)×4
MY8-AT	ADAT	8	8			16, 20, 24	オプチカル×2
MY8-AE	AES/EBU	8	8			16, 20, 24	25ピン D-sub (ケーブルは別売)
MY8-TD	Tascam	8	8			16, 20, 24	25ピン D-sub BNCワードクロック出力

上記のようにアナログI/Oカードは入力、出力いずれかを、またデジタルI/Oカードは入出力両方を備えています。

今後MYシリーズに追加される上記以外のI/Oカードが装着された場合には、“UNKNOWN CARD”と表示されます。

I/Oカードの選択

XLR端子のアナログ入出力はMY4-ADカードをSLOT 1に、MY4-DAカードをSLOT 2に装着します。SLOT 1、2は違いがないので逆でも構いません。

本機を他のデジタルオーディオ機器に接続するには、その機器が対応しているデジタル接続フォーマット(AES/EBU、ADAT、Tascam)に応じて必要なカードを装着します。

以下は本機を他のヤマハデジタルオーディオ製品に接続する際に使用するカードです。AES/EBU、ADAT、Tascamいずれかのインターフェースフォーマットで接続します。

製品	カード最大枚数	フォーマット	他製品用カード	SREV1用カード
AW4416	2	ADAT	MY8-AT	MY8-AT
		Tascam	MY8-TD	MY8-TD
		AES/EBU	MY8-AE	MY8-AE
AD824	1	同上		
DA824	1	同上		
DME32	4	同上		
D24	4	同上		
O1V	1	同上		
O2R	4シングルまたは2ダブル	ADAT	CD8-AT	MY8-AT
		Tascam	CD8-TDII	MY8-TD
		AES/EBU	CD8-AEまたはCD8-AE-S	MY8-AE
O3D	1	同上		

外部ワードクロックをデジタルI/Oカードから入力することもできます。詳細は75ページの「ワードクロックソースの選択」を参照ください。

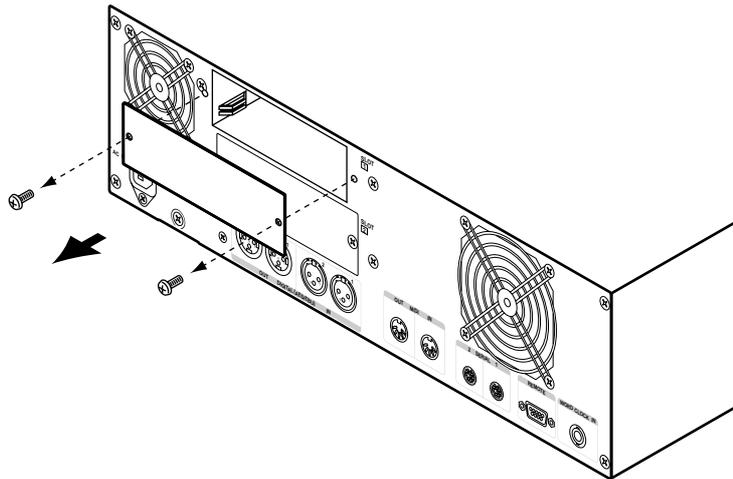
ADAT I/Oカードを使用するとワードクロックがロックしない問題の生じる機器もありますので、ワードクロックは別のフォーマットのI/Oカードからとるようにしてください。

またご質問があればヤマハ販売店までお尋ねください。

I/Oカードの装着

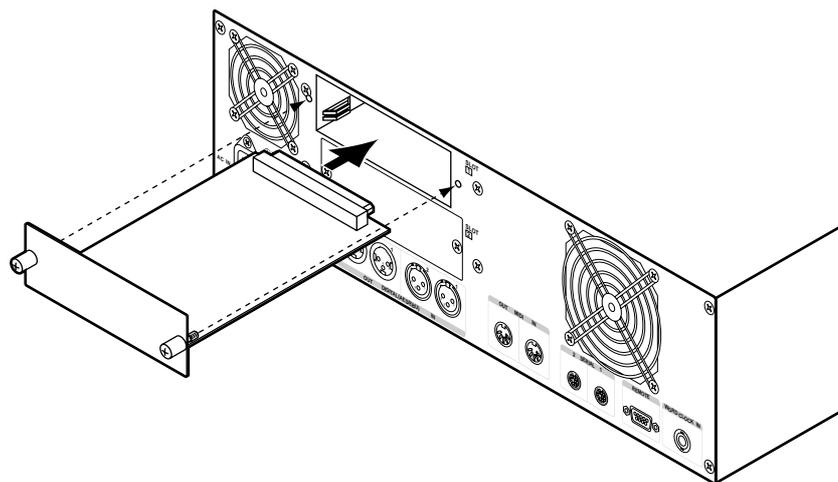
以下の要領でmini YGDAIカードをSREV1に装着します。

- 1 SREV1の電源を切ります。
- 2 固定ネジ2本をゆるめスロットカバーを外します。



カバーとネジは今後のために安全な場所に保管してください。

- 3 ガイドレール間にカードを挿入し奥いっぱいまで押し込みます。カードがSREV1の内部コネクタにはまるよう、しっかり押し込んでください。



- 4 付属のネジでカードを固定します。ネジがゆるいとカードのアースが正しく取れませんのでしっかり締め付けてください。

DIO画面で装着したカードの種類の確認やスロット入力のチャンネルへの割り当てができます。詳細は33ページの「入力の割り当て」を参照ください。

故障かな？と思ったら

SREV1の電源が入らない

- 電源コードがSREV1とコンセントにしっかりと接続されているか確認してください。詳細は26ページの「電源コードの接続」を参照ください。
- SREV1のPOWERスイッチがONになっているか確認してください。詳細は26ページの「SREV1の電源オン/オフ」を参照ください。
- それでも電源が入らない場合はヤマハ販売店にご連絡ください。

POWERインジケータが点灯し電源は入るが、INPUT/OUTPUTインジケータが交互に点灯しSREV1が起動しない

- ヤマハ販売店かヤマハサービスセンターにご連絡ください。

RC-SREV1の電源が入らない

- SREV1とRC-SREV1をリモートケーブルで正しく接続していることを確認してください。詳細は22ページの「リモートコントローラーRC-SREV1の接続」を参照ください。
- RC-SREV1のPOWERスイッチがONになっているか確認してください。詳細は26ページの「RC-SREV1の電源オン/オフ」を参照ください。

FS LOCKインジケータが交互に点滅する

- SREV1は外部ワードロックソースにロックしていますが、44.1kHzまたは48kHz以外の、SREV1がサポートしていないサンプリング周波数にロックしています。詳細は75ページの「ワードロックソースの選択」を参照ください。

FS LOCKインジケータが同時に点滅する

- SREV1は外部ワードロックソースにロックも同期もしていません。詳細は75ページの「ワードロックソースの選択」を参照ください。

RC-SREV1ディスプレイのFSステータス欄に「UNLOCK」表示

- SREV1は外部ワードロックソースにロックも同期もしていません。詳細は75ページの「ワードロックソースの選択」を参照ください。

信号は入力されているが出力されない

- SLOT入力をお使いの場合は、I/Oカードが正しく装着されネジでしっかり固定されていることを確認してください。詳細は84ページの「I/Oカードの装着」を参照ください。

- 入力が適切なチャンネルに割り当てられていることを確認してください。詳細は33ページの「入力の割り当て」を参照ください。
- レベルメーターで信号レベルをチェックしてください。詳細は35ページの「メーター」を参照ください。
チャンネルの入出力レベル設定をチェックしてください。詳細は34ページの「入出力レベルの設定」を参照ください。
- バイパスモードがREV-MUTEになっていてリバーブバランスが100%、もしくはリバーブレベルが - になっていませんか？
- 正しい出力に接続していますか？詳細は9ページの「出力割り当て」を参照ください。

リバーブ音が聞こえない

- SREV1がバイパスされていませんか？詳細は38ページの「SREV1のバイパス」を参照ください。
- リバーブバランスパラメーターが0%に設定されていませんか？詳細は54ページの「Main 2パラメーター」もしくは56ページの「リバーブパラメーター」を参照ください。
- リバーブレベルパラメーターが - dBに設定されていませんか？詳細は56ページの「リバーブパラメーター」を参照ください。

プログラムを呼び出したがタイトルしか表示されずプログラム番号が表示されない

- プログラムがドライブから呼び出されたためです。クイックメモリーからプログラムを呼び出したときにのみプログラム番号(P01~P12)が表示されません。詳細は18ページの「RC-SREV1のディスプレイ」を参照ください。

クイックメモリーにカレントプログラムを保存できない

- 選択したクイックメモリーがプロテクトされていませんか？詳細は43ページの「クイックメモリープログラムのプロテクト」を参照ください。

PCカード上のプログラム、プロジェクト、インパルス応答データファイルなどがリスト表示されない

- PCカードが完全に挿入されているか確認してください。詳細は28ページの「PCカードの使用」を参照ください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

はじめに	<p>CD-ROM上のプログラム、プロジェクト、インパルス応答データファイルなどがリスト表示されない</p> <ul style="list-style-type: none"> CD-ROMが正しく挿入されているか確認してください。詳細は27ページの「CD-ROMの使い方」を参照ください。 	<p>MIDIコントロールチェンジメッセージを受信すると複数のパラメーターが調整されてしまう</p> <ul style="list-style-type: none"> コントロールチェンジが複数のパラメーターに割り当てられていると、コントロールチェンジの受信でそのパラメーターすべてが調整されます。詳細は71ページの「パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」を参照ください。
SREV1、RC-SREV1の各部の名称と機能	<p>プログラムが知らずに呼び出されている</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムがMIDIプログラムチェンジに割り当てられ外部MIDIメッセージで呼び出されていませんか?詳細は70ページの「クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て」を参照ください。 	<p>ワードクロックマスター機器でワードクロックソースを変更すると出力からノイズが生じる</p> <ul style="list-style-type: none"> これは異常ではありません。MY8-AT I/Oカードを装着しているとノイズが生じやすくなります。スピーカーが損傷しないよう、あらかじめパワーアンプのレベルを下げて行ってください。
操作前の準備	<p>プログラムが知らずに調整されている</p> <ul style="list-style-type: none"> パラメーターがMIDIコントロールチェンジに割り当てられ外部MIDIメッセージに反応していませんか?詳細は71ページの「パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」を参照ください。 	<p>CD-ROMが取り出せない</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスクの緊急イジェクトホールを使用してください。詳細は12ページの「SREV1のフロントパネル」を参照ください。
基本操作	<p>MIDIメッセージを受信できない</p> <ul style="list-style-type: none"> MIDI接続を確認してください。 接続されているMIDI機器に電源が入り、正しいMIDIチャンネルで送信できるよう設定されているか確認してください。 RC-SREV1のMIDI設定をチェックしてください。詳細は69ページの「MIDI受信チャンネルの設定」を参照ください。 	
プログラムのエディット	<p>MIDIプログラムチェンジメッセージでプログラムを呼び出せない</p> <ul style="list-style-type: none"> SREV1が正しいチャンネルでプログラムチェンジメッセージを受信するよう設定されているか確認してください。詳細は69ページの「MIDI受信チャンネルの設定」を参照ください。 送信されているプログラムチェンジがクイックメモリープログラムに割り当てられているか確認してください。詳細は70ページの「クイックメモリープログラムのプログラムチェンジへの割り当て」を参照ください。 	
複数台のシステム	<p>MIDIコントロールチェンジメッセージでパラメーターをコントロールできない</p> <ul style="list-style-type: none"> SREV1が正しいチャンネルでコントロールチェンジメッセージを受信するよう設定されているか確認してください。詳細は69ページの「MIDI受信チャンネルの設定」を参照ください。 送信中のコントロールチェンジがパラメーターに割り当てられているか確認してください。詳細は71ページの「パラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」を参照ください。 	
MIDI		
ワードクロック		
I/Oオプション		
付録		

SREV1/RC-SREV1 エラー/ワーニングメッセージ

エラーメッセージ

表示	内容	対策
VERSION MISMATCH. PUSH ANY KEY TO DOWNLOAD.	SREV1とRC-SREV1のバージョンが一致していません。	任意のキーを押し、SREV1からRC-SREV1用のソフトをダウンロードし、SREV1とRC-SREV1のバージョンを一緒にしてください。
COMMUNICATION TIMEOUT.	SREV1との通信に失敗しました。	SREV1とRC-SREV1の電源をオフにし、リモートケーブルの接続を確認してください。断線している場合もあります。
WRITE PROTECTED.	選択したクイックメモリーまたはプログラムまたはプロジェクトファイルが書き込み禁止です。	保存やタイトルエディットを行いたい場合は、プロテクトを外してください。ただしCD-ROMはいつでも書き込み禁止です。
INSERT MEDIA.	メディアが挿入されていません。	必要なメディアを挿入してください。特にCD-ROMを挿入した場合、CD-ROMの認識に20～30秒程度必要となりますのでご注意ください。
TITLE IS EMPTY!	タイトルを何も記入していない、またはスペースだけです。	何か文字を入れてください。
!!! LOW BATTERY !!!	SREV1内蔵バックアップメモリー用の電池が消耗しようとしています。	なるべく早くサービスに電池の交換を依頼してください。
!!! NO BATTERY !!! RESTORED FROM BACKUP.	SREV1内蔵バックアップメモリー用の電池が消耗してしまい、内蔵バックアップメモリーの内容が壊れたので、内蔵カードにあるバックアップファイルから復帰しました。	なるべく早くサービスに電池の交換を依頼してください。
DATA FILE NOT FOUND! INSERT PCMCIA CARD.	PCカードからプログラムを読み込んだが、PCカードにあるべき必要なインパルス応答データがPCカードに見つかりません。 SREV1を再起動したが、PCカードにあるべき必要なインパルス応答データがPCカードに見つかりません。 リバースモードを変更したが、PCカードにあるべき必要なインパルス応答データがPCカードに見つかりません。 プロジェクトファイルを読み込んだが、PCカードにあるべき必要なインパルス応答がPCカードに見つかりません。	適切なPCカードを挿入し、再読み込みをしてください。
DATA FILE NOT FOUND! INSERT CD-ROM DISC.	CD-ROMからプログラムを読み込んだが、CD-ROMにあるべき必要なインパルス応答データがCD-ROMに見つかりません。 SREV1を再起動したが、CD-ROMにあるべき必要なインパルス応答データがCD-ROMに見つかりません。 リバースモードを変更したが、CD-ROMにあるべき必要なインパルス応答データがCD-ROMに見つかりません。 プロジェクトファイルを読み込んだが、CD-ROMにあるべき必要なインパルス応答データがCD-ROMに見つかりません。	適切なCD-ROMを挿入し、再度読み込みをしてください。
EMPTY DATA! SOME DATA ISN'T LOADED, CAN'T SAVE THIS PROGRAM.	何かの原因でカレントプログラムにあるべきインパルス応答データがロードされていません。	必要なインパルス応答データを読み込むか、プログラム自体を再度読み込んでください。
NO SUFFICIENT SPACE! CAN'T SAVE THIS PROGRAM.	内蔵カードもしくはPCカードの容量が足りなくなり、プログラムを保存することができません。	PCカードを交換してください。もしくは必要のないプログラムを消去して空き容量を増やしてください。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードロック

I/Oオプション

付録

表示	内容	対策
DESTINATION WRITE PROTECTED!	Library画面またはProject画面で選択したプログラムまたはプロジェクトファイルのタイトルを変更しようとしたが、変更先のタイトルにプロテクトがかかっています。	別のタイトルにしてください。あるいはプロテクトを外してください。
COULD NOT COMMUNICATE WITH SREV1. CHECK THE CABLE CONNECTION AND SREV1'S POWER, THEN TURN ON RC-SREV1 AGAIN.	SREV1とRC-SREV1との間で起動時の通信ができていません。	RC-SREV1の電源をACアダプターから供給している場合は、SREV1の電源が入っているかを確認してください。またはSREV1とRC-SREV1の電源をオフにし、リモートケーブルの接続を確認してください。断線している場合もあります。

ワーニングメッセージ

表示	内容	対策
CURRENT IS EDITED! RECALL PROGRAM OK?	Program画面で、クイックメモリーをリコールしたいとき、カレントプログラムがエディット状態でした。	カレントプログラムのエディット内容を破棄するならばOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
CURRENT IS EDITED! LOAD LIBRARY OK?	Library画面で、プログラムをロードしたいときに、カレントプログラムがエディット状態でした。	カレントプログラムのエディット内容を破棄するならばOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
SAME LIBRARY EXISTS! OVERWRITE OK?	Library画面で、カレントプログラムをセーブしたいときに同名タイトルのプログラムが既に存在しています。	上書き保存したい場合はOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
	Library画面で、選択したプログラムのタイトルを編集したが、同名タイトルのプログラムが既に存在しています。	上書き保存したい場合はOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
DELETE LIBRARY OK?	Library画面で選択したプログラムを削除しますか。	選択したプログラムを削除したい場合はOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
CURRENT IS EDITED! LOAD PROJECT OK?	Project画面で、プロジェクトファイルをロードしたいときに、カレントプログラムがエディット状態でした。	カレントプログラムのエディット内容を破棄するならばOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
SAME PROJECT EXISTS! OVERWRITE OK?	Project画面で、プロジェクトファイルをセーブしたいときに同名タイトルのプログラムが既に存在しています。	上書き保存したい場合はOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
	Project画面で、選択したプロジェクトファイルのタイトルを編集したが、同名タイトルのプログラムが既に存在しています。	上書き保存したい場合はOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
DELETE PROJECT OK?	Project画面で、選択したプロジェクトファイルを削除しますか。	選択したプロジェクトファイルを削除したいときはOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
LOAD DATA OK?	DATA LOAD画面で、選択したインパルス応答データを読み込みますか。	選択したインパルス応答データを読み込みたいときはOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。
CHANGE REV MODE OK?	Setup画面で、選択したリバープモードに変更しますか。	選択したリバープモードに切り替えたいときはOKを押してください。そうでない場合はCANCELを押してください。

メッセージ

表示	内容	対策
INITIALIZING...	RC-SREV1の内部情報を初期化しています。	
SETTING REV MODE...	Setup画面で、リバーブモードを変更しています。	
RECALLING PROGRAM...	Program画面で、選択したクイックメモリーからプログラムをリコールしています。	
STORING PROGRAM...	Program画面で、カレントプログラムの内容を選択したクイックメモリーにストアしています。	
LOADING LIBRARY...	Library画面で、選択したプログラムを読み込んでいます。	
SAVING LIBRARY...	Library画面で、カレントプログラムの内容を保存しています。	
CHANGING TITLE...	Library画面で、選択したプログラムのタイトルを変更しています。	
DELETING LIBRARY...	Library画面で、選択したプログラムを削除しています。	
CHANGING PROTECT MODE...	Library画面で、選択したプログラムのプロテクトを付けたり解除しています。	
DOWNLOADING FILE LIST...	Library画面で、DRIVE欄のプログラムリストをダウンロードしています。	
LOADING DATA...	DATA LOAD画面で、選択したインパルス応答データを読み込んでいます。	
DOWNLOADING FILE LIST...	Library画面で、DRIVE欄のインパルス応答データリストをダウンロードしています。	
LOADING PROJECT...	Project画面で、選択したプロジェクトファイルを読み込んでいます。	
SAVING PROJECT...	Project画面で、プロジェクトファイルを保存しています。	
CHANGING TITLE...	Project画面で、選択したプロジェクトファイルのタイトルを変更しています。	
DELETING PROJECT...	Project画面で、選択したプロジェクトファイルを削除しています。	
CHANGING PROTECT MODE...	Project画面で、選択したプロジェクトファイルのプロテクトを付けたり解除しています。	
DOWNLOADING FILE LIST...	Project画面で、DRIVE欄のプロジェクトファイルリストをダウンロードしています。	

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

仕 様

一般仕様

サンプリング 周波数	内部	48kHz
	外部	44.1kHzまたは48kHz
内部プロセッシング		32ビット
プログラム メモリー	2チャンネルモード、 4チャンネルモード	6個(P1 ~ P6)
	2チャンネル×2モード	12個(P1 ~ P12)
インジケータ	INPUT	シグナル×4(- 34dB)クリップ×4
	OUTPUT	シグナル×4(- 34dB)クリップ×4
	FS LOCK	48K、44.1K
	その他	電源、PCカード、CD-ROM
PCカードスロット		PCMCIA(Type IまたはType II) PCカードATA仕様、 FAT16
CD-ROMドライブ		ISO9660レベル2フォーマット
冷却ファン		× 2
電源		100V、50/60Hz
最大消費電力		110W
最大外形寸法(W × H × D)		480 × 141.7 × 451.8mm
重量		11.5kg
動作保証温度		5 ~ 40
電源コード長		2.5m
付属品		電源コード、CD-ROM(リバーブプログラム) 取扱説 明書
オプション		RC-SREV1、DB-SREV1、MY8-AD・MY4-AD・MY4-DA・ MY8-AT・MY8-AE・MY8-TD

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

デジタル入力仕様

入力端子	フォーマット	ワード長	レベル	使用コネクタ
DIGITAL IN 1, 2	AES/EBU	24ビット	RS-422	XLR-3-31タイプ ¹

1. バランス型 (ピン1: グランド、ピン2: ホット (+)、ピン3: コールド (-))

デジタル出力仕様

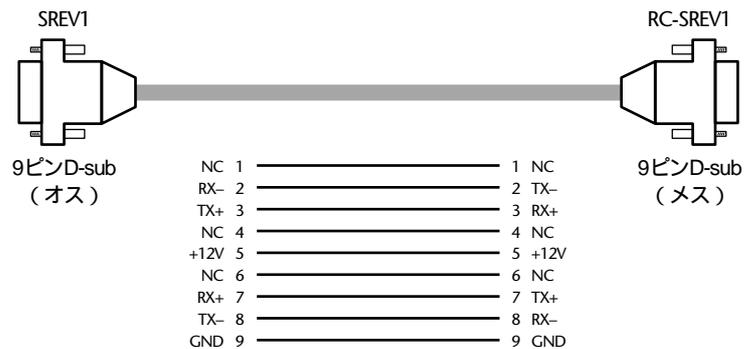
出力端子	フォーマット	ワード長	レベル	使用コネクタ
DIGITAL OUT 1, 2	AES/EBU ¹	24ビット	RS-422	XLR-3-32タイプ ²

- チャンネルステータス
タイプ: 2オーディオチャンネル
サンプリング周波数: 内部設定による
- バランス型 (ピン1: グランド、ピン2: ホット (+)、ピン3: コールド (-))

コントロール/IO

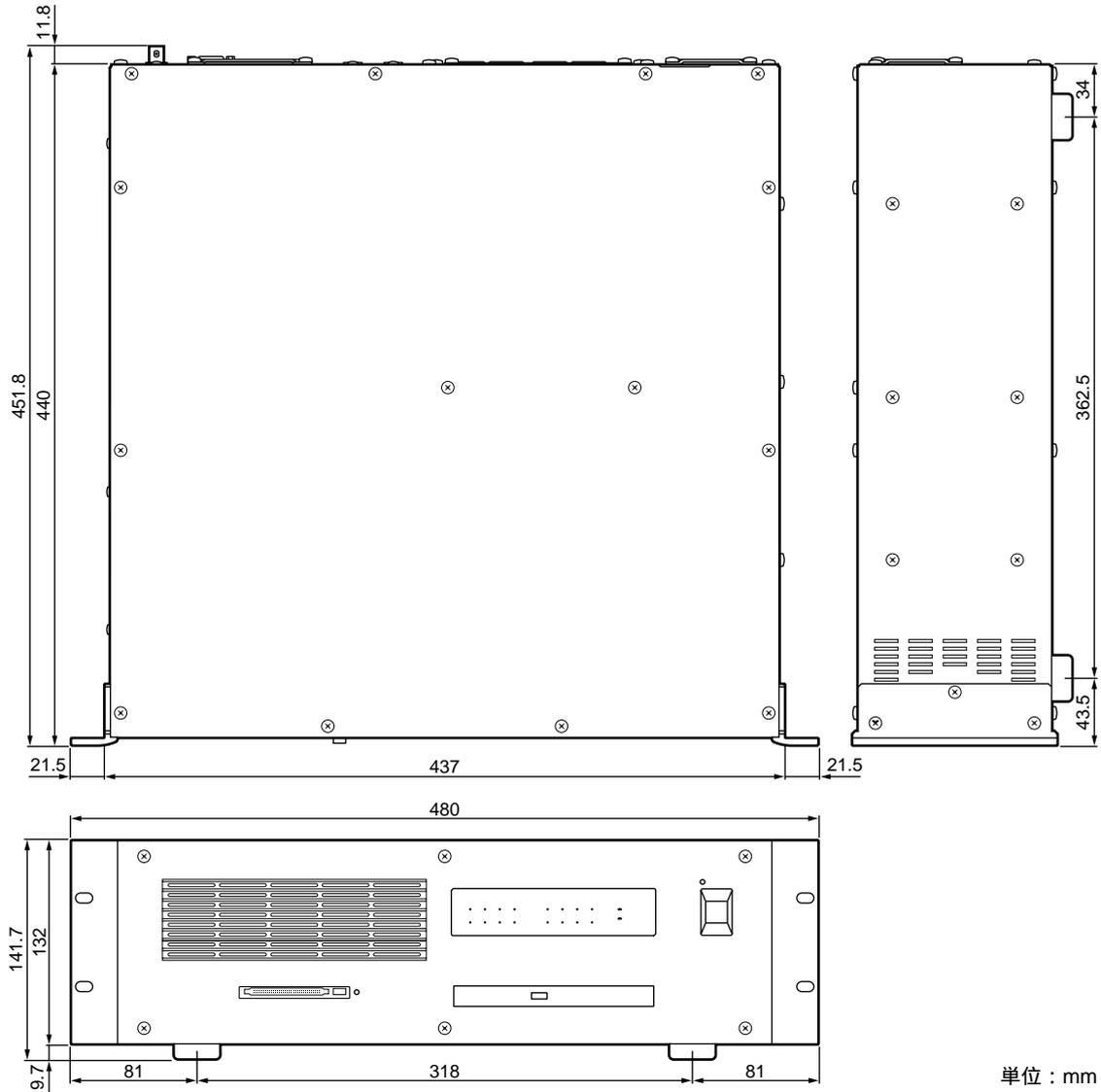
入出力端子	フォーマット	レベル	仕様コネクタ
SERIAL 1, 2		RS-422	ミニDIN 8ピン
MIDI IN	MIDI		DIN 5ピン
MIDI OUT	MIDI		DIN 5ピン
WORD CLOCK IN		TTL 75	BNC
REMOTE		RS-422	9ピンD-sub(メス)
SLOT(×2)	mini YGDAI		

リモートケーブル配線



- 両コネクタ間の +12V および GND の抵抗値が 1.5 以上の場合は、別売のヤマハ PA-6 ACアダプターを使用して RC-SREV1 に電源供給します。
- 本機とリモートコントローラ RC-SREV1 の接続に使用する D-sub コネクタの取付けネジはメタルネジです。カスタムケーブルを使用する場合はご注意ください。なお、付属のリモートケーブルはメタルネジです。

寸法図



単位：mm

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

高調波ガイドライン適合品

用語集

2チャンネル×2モード SREV1が2台の独立したステレオのリバーブレーター(A/B)として機能するモードです。

2チャンネルモード SREV1がステレオのリバーブレーターとして機能するモードです。

4チャンネルモード SREV1が4チャンネルのサラウンドリバーブレーターとして機能するモードです。

ADAT接続フォーマット ADAT互換デジタルオーディオ機器で使われる標準のデジタルオーディオ接続フォーマット。8チャンネルのデジタルオーディオがオプティカルケーブル-Tosリンク接続で転送されます。

AES/EBU接続フォーマット AES(Audio Engineering Society)とEBU(European Broadcasting Union)により規定されたデジタルオーディオフォーマットで、プロ機器間でデジタルオーディオデータをやりとりするときに使用します。1系統の接続だけで2チャンネル分のデジタルオーディオ(左/奇数、右/偶数)をバランス型端子で送信できます。

CD-ROM(Compact Disc Read Only Memory) データ保存のためのコンパクトディスク。イエローブックに規定されています。

DIO “ digital input and output (デジタル入出力) の略語

FAT16 FAT方式はマイクロソフト社が開発したシステムでMS-DOSおよびWindowsオペレーティングシステムが対応しており、ハードディスクやその他の保存媒体のファイルシステムです。フロッピーディスクなど小容量のFAT12、それを拡張したFAT16、更に拡張したFAT32の3種類があります。SREV1ではFAT16までサポートしています。

ISO9660 Level 2 ファイル、ディレクトリーをCD-ROMに保存するための標準フォーマット。この規格に準拠したディスクであればMacintosh、Windows、UNIX、その他のシステムで読むことができます。

MIDI(Musical Instrument Digital Interface) 電子楽器やオーディオ機器間でデータ転送を行うための国際的に承認された標準規格。

PCMCIA(Personal Computer Memory Card International Association) PCカードの標準規格を決めている団体。

PCカード パーソナルコンピューターや電子機器で使われる小型のクレジットカードサイズの機器です。PCカードには厚さにより3つのタイプがあります。一番薄いのタイプ1(通常メモリーRAMやメモリーROMに使われます)、次に薄いのタイプ2(FAX / モデムなどに使われます)、一番厚いのタイプ3(ハードディスクドライブ用に使われます)です。本機はPCカードATA仕様に準拠し、Windows互換のFAT16ファイルシステムをサポートしています。PCMCIA Flash ATA Card(Type II)もしくはCompact Flash Card + PC Card Adapterをご使用ください。

PEQ “ parametric EQ (パラメトリックEQ) の略語。

Q フィルターの幅を表す単位。値が大きいほど周波数帯域が狭く、値が小さくなると周波数帯域が広くなります。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

RS-232C シリアル機器を接続するインターフェース。通常9ピンまたは25ピンのD-SUB端子を使用し最大15メートルまでの距離のデータ転送が可能です。

RS-422 シリアル機器を接続するバランス型インターフェース。最大約1キロメートルまでの距離を、RS-232Cよりも高速、確実にデータ転送します。

Tascam TDIF-1 接続フォーマット Tascam TDIF-1互換デジタルオーディオ機器で一般的に使われるTascamデジタルインターフェースオーディオ接続フォーマット。双方向、8チャンネルのフォーマットで25ピン、D-SUB端子を使用します。

YGDAI(Yamaha General Digital Audio Interface) AES/EBU、ADAT、Tascam DIOなどとヤマハデジタルオーディオ機器のアナログ/デジタル入出力を提供するヤマハデジタルオーディオインターフェースカード。

mini YGDAI(Yamaha General Digital Audio Interface) ヤマハデジタルミキシングコンソール01V、デジタルMTR D24、デジタルミキシングエンジンDME32、SREV1に使用される第二世代のYGDAIインターフェースカード。

インパルス応答 ある系にインパルスを入力したときの応答。音響系では音場内でスピーカー等によりパルスが発生し、その応答をマイクで収音することにより測定します。

クイックメモリー プログラムをストアする本体内のメモリーです。ロードに時間のかかる内蔵カード、CD-ROM、PCカード内のプログラムとは違って、すぐに呼び出すことができます。

コントロールチェンジ リアルタイムでパラメーターをコントロールするMIDIメッセージ。

シェルピング 指定周波数の上下の領域をカット/ブーストするEQ回路のタイプ。シェルフ、つまり棚型のレスポンス曲線を作ります。高域、低域のEQは通常シェルピングタイプを用います。「ピーキング」参照。

初期ディレイ リバースによる反射音が開始するまでのディレイ。

たたみ込み 1つの信号の特性を別の信号に反映させるデジタルオーディオ処理技術。SREV1はあらかじめ測定した音場の残響特性をオーディオ信号にたたみ込むことで、細部まで正確な反射音を含む実在空間の自然な響きを忠実に再現します。

たたみ込み時間 たたみ込み時間はリバースタイムと同じではありません。残響音が60dB減衰するのにかかる時間がリバースタイムです。残響音が-90dBあるいは-120dBに達するには多くの時間が必要です。通常たたみ込み時間はリバースタイムより1.5~2倍必要となります。

ドライブ プログラム、プロジェクト、インパルス応答データは内蔵カード、CD-ROM、PCカードの各ドライブに入っています。

ピーキング 周波数帯域をカット/ブーストして山型のレスポンスを生じさせるEQ回路のタイプ。帯域幅はQと呼ばれます。中帯域のEQは通常ピーキングタイプです。シェルピング参照。

プログラム 測定されたインパルス応答データはリバースタイムや初期ディレイなどの可変パラメーターと組み合わせてリバースプログラムを作ります。プリセットプログラムは本体内蔵カードにもCD-ROMにも入っています。ユーザーが作成したプログラムはクイックメモリーや内蔵カード、PCカードにセーブされます。

プログラムチェンジ プログラムを呼び出すMIDIメッセージ。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

プロジェクト プロジェクトにはクイックメモリーとカレントプログラムの設定情報が含まれます。プロジェクトは内蔵カード、PCカードの各ドライブにセーブされます。

ライブラリー 内蔵カード、CD-ROM、PCカードからプログラムをロードしたり、セーブ、タイトル変更、プロテクト、削除を行う場所。

リバーブモード SREV1には2チャンネルモード、4チャンネルモード、2チャンネル×2モードの3種類の動作モードがあります。2チャンネルモードではステレオリバーブプレーターとして、4チャンネルでは4チャンネルのサウンドリバーブプレーターとして、また2チャンネル×2モードでは2台の独立したステレオリバーブプレーター(A、B)として機能します。

ワードクロック デジタルオーディオシステムに接続されているすべての機器のオーディオ信号を同期させるクロック信号。

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

索引

記号

+ 1/INCキー 17
 - 1/DECキー 17
 2×2 9
 2CH 9
 2チャンネルモード
 アナログ I/O 24
 4CH 9

A

AC INソケット 14
 接続 26
 ACアダプター
 ケーブルクリップ 20
 使用 27
 ADATフォーマット 93
 I/Oカード 82
 AES/EBU IN
 接続例 23
 入力の割り当て 33
 AES/EBU OUT
 出力割り当て 9
 接続例 23
 AES/EBUフォーマット 93
 I/Oカード 82

B

BRIGHTコントロール 20
 輝度・コントラストの調整 27
 BYPASSインジケータ 16, 38
 BYPASSキー 16, 38

C

CAPS LOCKボタン 40
 CD-ROM iv, 27
 CD-ROMイジェクトボタン 13
 CD-ROMドライブ 13
 インパルス応答データのロード 61
 使い方 27
 プログラムのセーブ 44
 プログラムのロード 44
 プロジェクトのセーブ 48
 プロジェクトのロード 47
 CLIPインジケータ 12, 17
 CONNECT欄 65
 CONTROL CHANGE欄 71
 CONTコントロール 20, 27

D

DATA LOAD画面 61
 DATAホイール 17
 DB-SREV1 DSPエクспанション
 ボード 2, 6
 DC 12V IN端子 20, 27
 DIGITAL(AES/EBU)N端子 15
 DIGITAL(AES/EBU)OUT端子 14
 DIO画面 33, 75
 DIRECT-OUTモード 39
 DISPLAY CHANNEL欄 52, 54

E

ENTERキー 17
 EQ
 プリEQ 57
 ポストEQ 59

F

F(フリクエンシー) 58, 59
 FAT16 28, 93
 FS LOCKインジケータ 12, 76, 77
 FSステータス 18

G

G(ゲイン) 58, 59

H

H-MID 60
 HIGH 58, 60
 HIGH EQ 52
 HPF 54, 58

I

I/Oカード 24, 75, 82, 83
 I/Oカードの装着 84
 INPUT LEVEL 34, 54
 INPUT SELECT欄 33
 INPUT/OUTPUT信号インジケータ
 12
 ISO9660 Level 2 27, 93

L

L.SHELF 58, 60
 L-MID 60
 Library画面 43
 LOW 58, 60

M

Main 1 52
 Main 1画面 52
 Main 2 54
 Main 2画面 54
 Main1-A 52
 Main1-B 52
 MEMORY CARDスロット 12
 Meter I/O画面 34, 36, 37, 38, 39
 MID 58
 MIDI 68, 93
 MIDI IN/OUT端子 15
 MIDI画面 69
 MIDI受信チャンネルの設定 69
 クイックメモリープログラムのプ
 ログラムチェンジへの割り
 当て 70
 パラメーターのコントロールチェ
 ンジへの割り当て 71
 MIDI CHANGE TABLE欄 70
 MIDI IN/OUT端子 15
 MIDI画面 69
 MIDI受信チャンネル 69
 MIDI端子 68
 mini YGDAI 94

O

OUTPUT LEVEL 34, 54

P

PA-6 ACアダプター 27
 PARAMETER FINEキー 17
 PARAMETER MAINキー 16
 PCMCIA 93
 PCカード iv, 3, 28, 43, 45, 47, 48
 PEQ 93
 Post EQ画面 59
 POWERインジケータ 12
 POWERスイッチ 12, 20, 26
 Pre EQ画面 57
 Program画面 41
 PROGRAMキー 16
 Project画面 47

Q

Q 58, 59, 93

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット

複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

R

RC-SREV1 FSステータスインジケータ	76, 77
RC-SREV1の起動	30
RC-SREV1のコントロールパネル	16
RC-SREV1の接続	22
RC-SREV1のリアパネル	20
REMOTE 端子	15, 20
REV BALANCE	54
REV BALANCEパラメーター	54, 55
REV MODE欄	32
REV TIMEパラメーター	52
REV-MUTEモード	39
Rev画面	56

S

SERIAL 1/2端子	15, 64
Setup画面	32, 65
SIGNALインジケータ	12
SLOT 1 & 2	14
SP2	9
SP4	9
SREV1	2
SREV1とは	2
警告	ii
仕様	90
使用上のご注意	iii
設置	ii, iii
注意	iii
電源オン/オフ	26
特長	4
ブロック図	10
フロントパネル	12
リアパネル	14
SREV1の起動	30

T

T(フィルタータイプ)	58, 59
THRU	58, 60
TITLE EDITダイアログボックス	40
TM4	9
TMC	9

U

UTILITYキー	17
-----------	----

W

WORD CLOCK IN端子	15, 74
-----------------	--------

ア

アース端子	14
アナログ I/O	24
アナログ I/O	
I/Oカード	82

イ

イジェクト	
CD-ROM	13
カード	12
ディスク緊急ホール	13
インジケータ	
BYPASS	16
FS LOCK	12
INPUT CLIP	17
INPUT/OUTPUT信号	12
OUTPUT CLIP	17
POWER	12
カード作動	12
ディスク作動	13
インパルス応答	94
インパルス応答データ	6, 61

エ

エディット	
Main 1パラメーター	52
Main 2パラメーター	54
クイックメモリープログラム	43
プリEQ	57
プログラム	51
プロジェクトタイトル	48
ポストEQ	59
ライブラリーのプログラムタイトル	45
リバーブパラメーターの微調整	56
エディットステータス	18

カ

カーソルキー	17
カードイジェクトボタン	12
カード作動インジケータ	12
外部ワードクロック	15, 75, 76
拡張子	9
2x2	9
2CH	9
4CH	9
SP2	9
SP4	9
TM4	9
TMC	9
画面タイトル	18
画面タブ	18
画面中央部	18

キ

起動	
RC-SREV1	30
SREV1	30
起動時の内部動作について	31

ク

クイックメモリー	7, 41, 94
プログラムのストア(保存)	42
プログラムのリコール(呼び出し)	41
プロテクト	43
割り当て	70
クイックメモリープログラム	70

ケ

ケーブルクリップ	20
----------	----

コ

故障かな?と思ったら	85
コントロールチェンジ	71, 94

サ

作動インジケータ	
CD-ROM	13
PCカード	12

シ

シェルピング	94
出力レベル	54
出力割り当て	9
DIGITAL(AES/EBU)OUT端子	14
入出力レベルの設定	34
仕様	90
初期ディレイ	52, 56

ス

寸法図	92
-----	----

セ

セーブ	44, 48
セーブ(保存)	4
接続	23
MIDI	68
RC-SREV1	22
外部ワードクロック	74
接続例	23
電源コードの接続	26
複数台のSREV1	64
接続例	23
複数台のSREV1	64
ワードクロック	78

はじめに

SREV1、RC-SREV1
の各部の名称と機能

操作前の準備

基本操作

プログラムの
エディット複数台の
システム

MIDI

ワードクロック

I/Oオプション

付録

はじめに	タ	リバーパラメーターの微調整 56	□
	たたみ込み 2, 94	フェーダー 17	ロード 44, 47, 61
SREV1, RC-SREV1 の各部の名称と機能	たたみ込み時間 4, 6	フェーダーステータス 19	ロック 76
	ツ	複数台のSREV1 64	ワ
操作前の準備	通風吸気口 12	接続 64	ワードクロック 74
	テ	プリEQ 52, 57	WORD CLOCK IN端子 15
基本操作	デジチェーン接続 64	プログラム 4, 7	自動終端 74
	ディスク緊急イジェクトホール 13	エディット 51	接続 74
プログラムの エディット	ディスク作動インジケータ 13	クイックメモリープログラム ... 43	接続例 78
	ディスプレイ 16, 18, 27	ストア(保存) 42	ワードクロックソースの選択 75
プログラムの エディット	デリート(削除) 46, 49	プログラムタイトル 42	ワードクロックソースボタン .. 76, 77
	電源オン/オフ 26	プログラムのセーブ 44	割り当て
基本操作	ト	プログラムのロード 44	クイックメモリープログラムのプ ログラムチェンジへの割り 当て 70
	同期 74, 76	ライブラリーのプログラムタイト ル 45	入力割り当て 33
プログラムの エディット	同梱品 iv	ライブラリープログラムのデリー ト(削除) 46	パラメーターのコントロールチェ ンジへの割り当て 71
	同梱品 iv	ライブラリープログラムのプロテ クト 45	
プログラムの エディット	特長 4	リコール(呼び出し) 41	
	ドライブ 8, 94	プログラムチェンジ 70	
複数台の システム	プログラムのセーブ 44	プログラムのエディット 51	
	プログラムのロード 44	プログラム番号/タイトル 18	
MIDI	プロジェクトのセーブ 48	プロジェクト 4, 7, 47, 48, 49	
	プロジェクトのロード 47	ブロック図 10	
ワードクロック	ナ	プロテクト 43, 45, 49	
	内蔵カード 43, 45, 47, 61	フロントパネル 12	
I/Oオプション	内部ワードクロック 75	ヘ	
	二	別売品 iv	
付録	入出力レベル 34	ホ	
	入出力レベルの設定 34	ポストEQ 59	
	入力の割り当て 33	メ	
	入力レベル 54	メーター 19, 35, 38	
	ハ	メーターモードの設定 37	
	バイパス 38	ラ	
	ステータス 18	ライブラリー 8, 43, 44, 45, 95	
	設定 39	ライブラリーの使い方 43	
	バイパスステータス 18	リ	
	パラメーター 9	リアパネル 14	
	ヒ	リバーブタイム 52, 56	
	ピーキング 58, 60, 94	リバーブパラメーター 56	
	ピークホールド機能 38	リバーブバランス 54, 56	
	フ	リバーブモード 4, 6, 18, 32, 95	
	ファイル拡張子 9	リバーブレベル 56	
	ファイルの種類 9	リモートケーブル配線 91	
	ファインパラメーター	レ	
	プリEQ 57	冷却ファン排気口 14	
	ポストEQ 59		

Function...		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1-16 1-16	1-16 1-16	Memorized
Mode	Default Messages Altered	X X *****	OMNI OFF/OMNI ON X X	Memorized
Note Number	True Voice	X *****	X X	
Velocity	Note On Note Off	X X	X X	
After Touch	Keys Ch's	X X	X X	
Pitch bend		X	X	
Control Change	0-95	X	0	Assignable
Prog Change	:True#	X *****	X X	Assignable
System Exclusive		X	X	Parameter Change
System Common	:Song Pos :Song Sel :Tune	X X X	X X X	
System Real Time	:Clock :Commands	X X	X X	
Aux Messages	:Local ON/OFF :All Notes OFF :Active Sense :Reset	X X X X	X X X X	
Notes				

Mode 1: OMNI ON, POLY
Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 4: OMNI OFF, MONO

O: Yes
X: No

サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

お客様ご相談窓口：PA製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-5085 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

営業窓口

PA・DMI事業部 PE営業部

P A 北海道営業所	☎ 011-512-6106	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
P A 仙台営業所	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
P A 東京事業所	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2丁目17-11
P A 名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
P A 大阪事業所	☎ 06-6647-8359	〒556-0011	大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル
P A 九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社国内営業一課	☎ 053-460-2455	〒430-8650	浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 044-434-3100	〒211-0025	川崎市中原区木月1184
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。
2001年1月現在

ヤマハ株式会社

PA・DMI事業部 PE営業部 ☎ 053-460-2455
〒430-8650 浜松市中沢町10-1